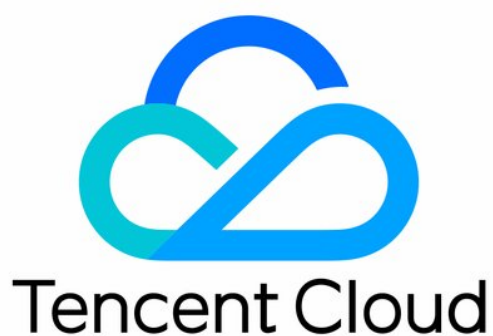


Cloud Virtual Machine

製品紹介

製品ドキュメント



Copyright Notice

©2013-2024 Tencent Cloud. All rights reserved.

Copyright in this document is exclusively owned by Tencent Cloud. You must not reproduce, modify, copy or distribute in any way, in whole or in part, the contents of this document without Tencent Cloud's the prior written consent.

Trademark Notice



All trademarks associated with Tencent Cloud and its services are owned by Tencent Cloud Computing (Beijing) Company Limited and its affiliated companies. Trademarks of third parties referred to in this document are owned by their respective proprietors.

Service Statement

This document is intended to provide users with general information about Tencent Cloud's products and services only and does not form part of Tencent Cloud's terms and conditions. Tencent Cloud's products or services are subject to change. Specific products and services and the standards applicable to them are exclusively provided for in Tencent Cloud's applicable terms and conditions.

カタログ：

製品紹介

Cloud Virtual Machineの概要

機能と利点

リージョンとアベイラビリティゾーン

Instance

インスタンスの概要

インスタンス仕様

ライフサイクル

スポットインスタンス

ストレージ

ストレージ概要

Cloud Block Storage

ローカルディスク

Cloud Object Storage

イメージ

イメージの概要

イメージタイプ

パブリックイメージ

OSのサポート終了について

TencentOS Server

TencentOS Serverの説明

TencentOS Serverイメージ更新ログ

TencentOS Serverの特徴

TencentOS Serverに関するよくあるご質問

OpenCloudOS

OpenCloudOS概要

OpenCloudOSイメージ更新ログ

OpenCloudOS V9 ミラーニング更新ログ

スナップショット

ネットワークとセキュリティ

概要

プレイスメントグループ

ネットワーク環境

プライベートネットワーク サービス

パブリックサービス

Elastic IP

Elastic Network Interface (ENI)

ログインパスワード

SSHキー

クラウドワークロードプロテクション

アンチDDoSベーシック

運用・保守・監視

インスタンス自己検出

監視とアラーム

Access Management

Cloud Access Managementの概要

授權可能なのリソースタイプ

授權ポリシーの文法

アクセス管理をサポートするAPIインターフェース

製品紹介

Cloud Virtual Machineの概要

最終更新日：：2022-09-09 10:45:59

Tencent Cloud Virtual Machineとは

Tencent Cloud Virtual Machine（CVM）はTencent Cloudが提供する拡張可能なコンピューティングサービスです。CVMを使用することで、従来型サーバーの使用においてリソース量と先行投資を見積もる必要がなくなり、短時間で任意の数のCVMを迅速に起動し、リアルタイムにアプリケーションをデプロイできます。

CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク、セキュリティポリシーなど、CVMインスタンスのすべてのリソースをカスタマイズでき、需要に応じてこれらのコンピューティングリソースを簡単に調整することができます。

CVMインスタンスの使用方法

Tencent Cloudは、以下のCVM構成方法と管理方法を提供します。

コンソール：Tencent Cloudが提供するCVMを構成・管理するためのWebベースのサービスインターフェースです。

API：Tencent Cloudは、CVMを管理するためのインターフェースも提供しています。APIの説明については、[API概要](#)ドキュメントをご参照ください。

SDK：[SDKプログラミング](#) または [Tencent Cloud CLI](#) ツールを使用してCVM APIを呼び出すことができます。

関連概念

CVMを使用する前に、以下の概念を理解していただく必要があります。

概念	説明
インスタンス	CPU、メモリ、OS、ネットワーク、ディスクなどの最も基本的なコンピューティングコンポーネントを含むクラウド上の仮想コンピューティングリソース。Tencent Cloudは、CVMインスタンスにさまざまなCPU、メモリ、ストレージ、およびネットワーク構成を提供します。詳細については、 インスタンス仕様 ドキュメントをご参照ください。
イメージ	事前に構成されたOSやプリインストールされたソフトウェアなど、CVMが動作するためのテンプレートです。Tencent Cloud CVMはWindowsやLinuxなど、さまざまな構成済みイメージを提供します。
Cloud	Tencent Cloudが提供する分散型の永続的なブロックストレージデバイスであり、インスタンスの

Block Storage	システムディスクまたは拡張可能なデータディスクとして利用できます。
VPC	Tencent Cloudが提供する論理的に分離した仮想ネットワーク。
IPアドレス	Tencent Cloud は、 プライベートIPアドレス と パブリックIPアドレス を提供します。簡単に説明すると、プライベートIPアドレスはローカルエリアネットワーク（LAN）サービスを提供し、CVM間で相互にアクセスできます。パブリックIPアドレスは、ユーザーがCVMインスタンス上でInternetサービスにアクセスする必要がある場合に使用されます。
EIP	動的ネットワーク向けに設計された静的パブリックIPアドレスで、迅速なトラブルシューティングの要件に応えられます。
セキュリティグループ	セキュリティグループは、状態検出とパケットフィルタリング機能を備えた仮想ファイアウォールとして捉えることができます。1台または複数台のCVMのネットワークアクセス制御に使用されて、ネットワークセキュリティ分離の重要な手段です。

CVMインスタンスの購入とカスタマイズ

ストレージメディア、容量、ネットワーク帯域幅、セキュリティグループ設定のカスタマイズ構成など、CVM構成に対してより高い構成要件がある場合に、次のドキュメントをご覧ください：

[Windows CVMのカスタム設定](#)

[Linux CVMのカスタム設定](#)

CVM 料金

CVMは従量課金制をサポートしています。詳細については、[料金の概要](#)ドキュメントをご参照ください。

CVMインスタンスおよびその他のリソースの料金情報については、[製品価格](#)ドキュメントをご参照ください。

その他の関連製品

Auto Scalingを使用すると、条件に基づいてサーバークラスタの数を自動的に増減できます。詳細については、[Auto Scaling](#)ドキュメントをご参照ください。

Cloud Load Balancerを使用すると、クライアントからのトラフィックを複数のCVMインスタンスに自動的に分散できます。詳細については、[Cloud Load Balancer](#)ドキュメントをご参照ください。

Tencent Kubernetes Engineを使用して、CVM 内のアプリケーションのライフサイクルを管理できます。詳細については、[Tencent Kubernetes Engine](#)ドキュメントをご参照ください。

Cloud Monitorサービスを使用すると、CVMインスタンスとそのシステムディスクを監視できます。詳細については、[Cloud Monitor](#)ドキュメントをご参照ください。

リレーショナルデータベースをクラウドにデプロイするか、TencentDBを使用できます。詳細については、[TencentDB for MySQL](#)ドキュメントをご参照ください。

機能と利点

最終更新日：2022-09-08 17:32:09

全面的に

Tencent Cloud CVMは、幅広いサービスを提供します。

マルチリージョンとマルチアベイラビリティゾーン：中国大陸リージョンは、中国南部、中国東部、中国北部、中国南西部の4つのリージョンをカバーしています。海外ノードは、東南アジア、アジア太平洋、北米、米国西部、ヨーロッパの5つのリージョンをカバーしています。ユーザーに近いリージョンでアプリケーションをデプロイすると、レイテンシーを十分に改善できます。

複数のモデル構成：

標準型（中小規模のWebアプリケーションおよびデータベースに適しています）。

メモリ型（検索やコンピューティングなど、メモリを大量に消費するアプリケーションに適しています）。

ハイIO型（低レイテンシーとI/O集約型のアプリケーションに適しています）。

コンピューティング型（大規模なゲームサーバー、広告サービスエンジン、高性能コンピューティング、およびその他のコンピューティング集約型アプリケーションに適しています）。

ビッグデータ型（Hadoop分散コンピューティング、大規模なログ処理、分散ファイルシステムおよび大規模データウェアハウスなどのスループット集約型アプリケーションに適しています）。

異種型（ディープラーニング、科学計算、ビデオコーデックおよびグラフィックワークステーションなどの高性能アプリケーションに適しています）。

バッチ型（レンダリング、遺伝子解析、結晶薬学など、超大規模なコンピューティングノードを短期間で頻繁に使用するコンピューティング集約型アプリケーションに適しています）。

伸縮性

Tencent Cloudは、業界で最も柔軟なクラウドサービス管理プラットフォームの構築に取り組んでいます。次の機能を提供します：

ハードウェア構成：CBSベースのCVM**ハードウェア構成の即時アップグレード/ダウングレード。

ディスクの変更：CBSベースのCVMディスクの即時拡張。

ネットワーク帯域幅：CVM帯域幅の即時アップグレード/ダウングレード。

課金モード：CVMは帯域幅課金モードとトラフィック課金モードの相互切り替えをサポートしています。

OS：中国大陸地区のCVMはWindowsシステムとLinuxシステムを随時切り替えることが可能です。その他のリージョンでは現時点では相互切り替えをサポートしていません。

EIP：いつでもCVMに関連付けることができます。

イメージタイプ：パブリックイメージとカスタムイメージがあり、クロスリージョンでの調整とイメージコピーもサポートしています。イメージタイプの詳細については、[イメージタイプ](#)をご参照ください。

カスタムネットワークアーキテクチャ：VPCはユーザーに完全に独立したプライベートネットワーク、カスタムIPアドレス範囲、IPアドレス、およびルーティングポリシーを提供します。ポートレベルのアクセス制御を提供することで、完全な論理ネットワーク分離を実現します。詳細については、[Virtual Private Cloud](#)をご参照ください。

信頼性

業界で最も信頼性の高いCVMの確立に取り組んでいます。

CVMの信頼性：単一インスタンスの可用性は99.975%、データの信頼性は99.9999999%に達しています。最小限のダウンタイムで、またはダウンタイムなしでデータの移行、データスナップショット、自動アラーム等の機能をサポートし、サーバーの安定稼働を保証します。

クラウド ディスク ポリシー：整合性が維持された3つのデータコピーを提供し、単一障害点が排除され、データの信頼性が確保されます。データ消失の問題を心配することなく、安心してデータをクラウドに保存できます。

安定したネットワークアーキテクチャ：成熟したネットワーク仮想化技術とENIバインディング技術により、ネットワークの高可用性を確保します。T3+ データセンターでの運用により、運用環境の信頼性が確保され、ネットワークの可用性について心配する必要がなくなります。

高速

ユーザー側からの操作とCVMパフォーマンスのどちらにおいても、超高速で便利なサービスをご提供できるよう取り組んでいます。

便利でスピーディな操作：たった数分で、1つから数百、数千ものサーバーインスタンスを手軽に取得でき、サービスの購入から設定、管理、拡張までをワンクリックで行うことができます。

超高速パブリックネットワーク品質：20ラインを超えるBGPパブリックネットワークで、ほぼすべてのネットワークキャリアをカバーしています。お客様がどのISPを使用していても、同じように超高速の帯域幅と秒レベルの障害時切り替えを体感していただくことができます。

超高速プライベートネットワーク品質：Tencent Cloudの同一リージョン内のプライベートネットワークは相互に接続しています。基盤はいずれも10ギガビットまたはギガビットネットワークであり、プライベートネットワーク通信の品質を保証しています。

セキュリティ

Tencent CloudはCVMのセキュリティを保障するための様々なソリューションとともに、バックアップおよびロールバックメカニズムのデータセキュリティをご提供します。

複数の方法によるCVMへのリモートログイン：キー/パスワードによるログインや VNC ログインなど、さまざまなログイン方法が用意されています。

豊富なセキュリティサービス：DDoS保護、DNSハイジャック検出、侵入検出、脆弱性スキャナ、Webトロイの木馬検出およびログイン保護などのセキュリティサービスを提供することにより、サーバーを保護します。

クラウド監視の無償提供：複数種類のリアルタイムアラートもサポートしています。

ごみ箱保護機能：データをすぐに破棄することで起こる、データ消失などの重大な影響を回避します。

カスタマイズされたアクセス制御：セキュリティグループおよびネットワークACLによって、ホストとネットワークのアクセスポリシーをカスタマイズし、インスタンスごとに異なるファイアウォールをフレキシブルに設定します。

Tencent Cloudセキュリティサービスには次の特徴がある：

包括的なセキュリティ保護

CVM にセキュリティ診断 (脆弱性スキャン、トロイの木馬検出、ウェブサイトバックドア検出、ポートスキャンなど)、セキュリティ保護 (DDoS 保護、侵入検出、アクセス制御) などの包括的なセキュリティ サービスが提供され、データセキュリティとユーザーのプライバシーが保証されます。

リアルタイムアラームの定期分析

24時間年中無休のセキュリティサービスを提供し、セキュリティの脆弱性をリアルタイムに発見・通知します。

無料で便利なセキュリティ保護

クラウドサービスに高価なセキュリティデバイスを購入する必要はありません。クラウドサービスを購入すると、クラウドセキュリティサービスを無料でお楽しみいただけます。ワンクリックで開通でき、デプロイなし、便利でシンプルです。

プロフェッショナルチーム、信頼できるサービス

クラウドセキュリティは、長年のセキュリティ経験を持つTencentセキュリティチームがクラウドサービスユーザー向け提供したプロフェッショナルなセキュリティサービスであり、安心してご利用ください。

使いやすさ

公式に認証された豊富なアプリケーションソフトウェアとメンテナンスツールであり、メンテナンスに役立ちます。管理ツールについての悩みは不要です。

Tencent Cloud CVM はWeb ベースのユーザー インターフェイスであるコンソールを提供しています。コンソールは物理マシンと同様に、CVMインスタンスに対して起動、設定調整、OS の再インストールなどの操作を実行することができます。登録済みTencent Cloudアカウントがある場合は、[CVMコンソールにログイン](#) してCVMを操作できます。

Tencent Cloud CVMはAPIシステムをご提供しています。APIの便利なサービスを使用してCVMと内部監視、運用システムを組み合わせることで、業務ニーズに沿った、完全に自動化された業務運用保守システムを実現します。これらのリクエストはHTTPまたはHTTPSリクエストに該当します。CVM APIの操作に関するその他の情報については、[APIドキュメント](#) をご参照ください。

API方式を使用してのリソース、アプリケーション、データの管理操作にご興味がありましたら、SDK（PHP/Python/Java/.NET/Node.jsをサポート）を使用してプログラミングを行うか、またはTencent Cloudコマンドラインツールを使用してCVM APIを呼び出すことができます。具体的には、[SDKの使用](#)、[コマンドラインツールの使用](#) をご参照ください。

コスト削減

Tencent Cloudでは様々な課金方式をご用意しています。また従来の運用保守作業を簡略化することで、価格を抑えるだけでなく、余分なIT投資コストの節約にもなります。

CVMインスタンスとそのネットワークデプロの料金システムは、使った分だけ支払う従量課金制を採用し、さまざまなシーンのニーズを満たすことができます。

必要に応じて購入するという、合理的な消費が可能です。ハードウェアリソースの事前調達や準備が必要ないため、インフラ構築への投資の効果的な削減に役立ちます。

リージョンとアベイラビリティゾーン

最終更新日：2024-03-22 16:16:53

リージョン

概要

リージョン：リージョン（Region）とは物理的なデータセンターがある地理的区域のことです。Tencent Cloudは異なるリージョン間を完全に隔離し、リージョン間での最大限の安定性とフォールトトレランスを保証します。Tencent Cloud サービスを購入する場合は、アクセスの遅延を減らし、ダウンロード速度を向上させるために、エンドユーザーに最も近いリージョンを選択することをお勧めします。次の表を参照するか、または[DescribeRegions API](#)を使用してリージョンの完全なリストを取得できます。

関連の特性

異なるリージョン間のネットワークは完全に分離されており、異なるリージョン間のクラウド製品は、**デフォルトではプライベートネットワークを介して通信できません**。

異なるリージョン間のクラウド製品は、**パブリックIP**を介して相互に通信できます。異なるVPC内のクラウド製品は、**CCN**を介して相互に通信できます。この通信方式はより高速で安定しています。

CLBは、現在、デフォルトで同一リージョンのトラフィック転送をサポートしています。**クロスリージョンバインディング**機能を有効にすると、CLBインスタンスを別のリージョンのCVMインスタンスにバインドできます。

アベイラビリティゾーン

概要

アベイラビリティゾーン（AZ）とは、Tencent Cloudが同一リージョン内で電源とネットワークが互いに独立している物理的なデータセンターです。ユーザーのビジネスのオンラインサービスの持続性を確保するため、アベイラビリティゾーン間の障害を互いに隔離し（大規模な災害または大規模な電力設備の障害を除く）、障害の影響が拡散しないようにすることを目的としています。独立したアベイラビリティゾーンでインスタンスを起動することにより、単一障害点の影響からアプリケーションを保護することができます。

[DescribeZones API](#)を使用して、アベイラビリティゾーンの完全なリストを取得できます。

関連の特性

同じVPC内のクラウド製品は、プライベートネットワークを介して相互接続されているため、異なるアベイラビリティゾーンにある場合でも、**プライベートIPアドレス**を通じて直接アクセスすることができます。

説明：

プライベートネットワークの相互接続とは、同じアカウントの下でのリソースの相互接続を指します。異なるアカウントのリソースはプライベートネットワーク上で完全に分離されます。

中国

リージョン	アベイラビリティーゾーン
華南地区（広州） ap-guangzhou	広州1区（売り切れ） ap-guangzhou-1
	広州2区（売り切れ） ap-guangzhou-2
	広州3区（売り切れ） ap-guangzhou-3
	広州4区（売り切れ） ap-guangzhou-4
	広州6区 ap-guangzhou-6
	広州7区 ap-guangzhou-7
華東地区（上海） ap-shanghai	上海1区（売り切れ） ap-shanghai-1
	上海2区 ap-shanghai-2
	上海3区（売り切れ） ap-shanghai-3
	上海4区（売り切れ） ap-shanghai-4
	上海5区 ap-shanghai-5
	上海8区 ap-shanghai-8
華東地区（南京） ap-nanjing	南京1区 ap-nanjing-1

	南京2区（売り切れ） ap-nanjing-2
	南京3区 ap-nanjing-3
華北地区（北京） ap-beijing	北京1区（売り切れ） ap-beijing-1
	北京2区（売り切れ） ap-beijing-2
	北京3区 ap-beijing-3
	北京4区（売り切れ） ap-beijing-4
	北京5区（売り切れ） ap-beijing-5
	北京6区 ap-beijing-6
	北京7区 ap-beijing-7
西南地区（成都） ap-chengdu	成都1区 ap-chengdu-1
	成都2区（売り切れ） ap-chengdu-2
西南地区（重慶） ap-chongqing	重慶1区 ap-chongqing-1
香港・マカオ・台湾 リージョン（中国香港） ap-hongkong	中国香港1区（中国香港のノードは中国香港・中国マカオ・中国台湾地域をカバーできる） ap-hongkong-1
	香港2区（中国香港のノードは香港・マカオ・台湾地域をカバーできる） ap-hongkong-2
	中国香港3区（中国香港のノードは中国香港・中国マカオ・中国台湾地域をカバーできる） ap-hongkong-3

説明：

済南、杭州、福州、武漢、長沙、石家庄リージョンは現在ベータ版テスト中です。ご利用をご希望の場合はビジネスマネージャーまでご連絡ください。

その他の国および地域

リージョン	アベイラビリティゾーン
東南アジア（シンガポール） ap-singapore	シンガポール1区（シンガポールのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-singapore-1
	シンガポール2区（シンガポールのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-singapore-2
	シンガポール3区（シンガポールのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-singapore-3
	シンガポール4区（シンガポールのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-singapore-4
東南アジア（ジャカルタ） ap-jakarta	ジャカルタ1区（ジャカルタのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-jakarta-1
	ジャカルタ2区（ジャカルタのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-jakarta-2
北東アジア（ソウル） ap-seoul	ソウル1区（ソウルのノードは北東アジア地域をカバーできる） ap-seoul-1
	ソウル2区（ソウルのノードは北東アジア地域をカバーできる） ap-seoul-2
北東アジア（東京） ap-tokyo	東京1区（東京のノードは北東アジア地域をカバーできる） ap-tokyo-1
	東京2区（東京のノードは北東アジア地域をカバーできる） ap-tokyo-2
南アジア太平洋（ムンバイ） ap-mumbai	ムンバイ1区（ムンバイのノードは南アジア太平洋地域をカバーできる） ap-mumbai-1
	ムンバイ2区（ムンバイのノードは南アジア太平洋地域をカバーできる） ap-mumbai-2
東南アジア（バンコク）	バンコク1区（バンコクのノードは東南アジア地域をカバーできる）

ap-bangkok	ap-bangkok-1
	バンコク2区（バンコクのノードは東南アジア地域をカバーできる） ap-bangkok-2
北アメリカ（トロント） na-toronto	トロント1区（トロントのノードは北アメリカをカバーできる） na-toronto-1（売り切れ）
南アメリカ（サンパウロ） sa-saopaulo	サンパウロ1区（サンパウロのノードは南アメリカをカバーできる） sa-saopaulo-1
米国西部（シリコンバレー） na-siliconvalley	リコンバレー1区（シリコンバレーのノードは米国西部をカバーできる） na-siliconvalley-1
	リコンバレー2区（シリコンバレーのノードは米国西部をカバーできる） na-siliconvalley-2
米国東部（バージニア） na-ashburn	バージニア1区（バージニアのノードは米国東部をカバーできる） na-ashburn-1
	バージニア2区（バージニアのノードは米国東部をカバーできる） na-ashburn-2
ヨーロッパ地域（フランクフルト） eu-frankfurt	フランクフルト1区（フランクフルトのノードはヨーロッパ地域をカバーできる） eu-frankfurt-1
	フランクフルト2区（

リージョンとアベイラビリティゾーンを選択する方法

リージョンとアベイラビリティゾーンを選択するときは、次の点を考慮してください。

CVMインスタンスのリージョン、あなたおよびターゲットユーザーの地理的位置

アクセス遅延を最小限に抑え、アクセス速度を向上させるために、**CVM**インスタンスを購入する場合は、エンドユーザーに最も近いリージョンを選択することをお勧めします。

CVMと他のクラウド製品との関係

他のクラウド製品を選択する場合は、可能な限りすべて同一リージョン、同一アベイラビリティゾーンに配置して、各クラウド製品間でプライベートネットワークを介して相互に通信できるようにし、アクセスの遅延を減らし、アクセス速度を向上させることができます。

高可用性と災害復旧

VPCが1つしかない場合であっても、単一障害点を防止し、クロスアベイラビリティゾーン災害復旧を可能にするために、ビジネスを異なるアベイラビリティゾーンにデプロイすることをお勧めします。

異なるアベイラビリティーゾーン間では、ネットワーク遅延が発生する可能性がありますので、実際のビジネス要件に応じて検討し、高可用性と低遅延の最適なバランスを見つけることをお勧めします。

他の国または地域のCVMインスタンスにアクセスする必要がある場合は、他の国または地域のCVMを選択することをお勧めします。[中国本土](#)のCVMインスタンスを使用して、[他の国や地域のサーバー](#)にアクセスする場合、ネットワーク遅延が大幅に増加する可能性がありますので、ご利用はお勧めしません。

リソースの可用性

ここではTencent Cloudのどのリソースがグローバルなものか、どのリソースがリージョンは区別するがアベイラビリティーゾーンは区別しないのか、どのリソースがアベイラビリティーゾーンベースであるのかについてご説明します。

リソース	リソース ID形式<リソースの略語>-8桁の数字と文字	タイプ	説明
ユーザーアカウント	制限なし	グローバルに一意のアカウント	ユーザーは同じアカウントを使用して、世界中のTencent Cloud リソースにアクセスできます。
SSH キー	skey-xxxxxxx	グローバル	ユーザーはSSHキーを使用して、アカウント下の任意のリージョンのCVMをバインドできます。
CVM インスタンス	ins-xxxxxxx	単一リージョンの単一のアベイラビリティーゾーンでのみ利用可能	ユーザーは特定のアベイラビリティーゾーンでのみCVMインスタンスを作成できます。
カスタムイメージ	img-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティーゾーンで利用可能	ユーザーはインスタンスのカスタムイメージを作成し、それを同一のリージョンの異なるアベイラビリティーゾーンで使用できます。他のリージョンで使用する際は、イメージコピー機能を使用してカスタムイメージを他のリージョンにコ

			ピーする必要があります。
Elastic IP	eip-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	EIPはリージョン固有であり、同じリージョン内のインスタンスにのみ関連付けることができます。
セキュリティグループ	sg-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	セキュリティグループは、同じリージョン内のインスタンスにのみ関連付けることができます。Tencent Cloudは、ユーザーに3つのデフォルトのセキュリティグループを自動的に作成します。
Cloud Block Storage	disk-xxxxxxx	単一リージョンの単一のアベイラビリティゾーンでのみ利用可能	ユーザーは特定のアベイラビリティゾーンでのみCBSを作成でき、それを同じアベイラビリティゾーン内のインスタンスに接続できます。
スナップショット	snap-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	CBSのスナップショットを作成すると、ユーザーはこのリージョン下でこのスナップショットを使用して他の操作（クラウドディスクの作成など）を行うことができます。
Cloud Load Balancer	clb-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	CLBは単一リージョンの異なるアベイラビリティゾーンのCVMにバインドしてトラフィックの転送を行うことができます。
Virtual Private Cloud	vpc-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	私VPCはあるリージョンで作成し、異なるアベイラビリティゾーン

			ンで同じVPCに属するリソースを作成することができます。
サブネット	subnet-xxxxxxx	単一リージョンの単一のアベイラビリティゾーンでのみ利用可能	ユーザーは、異なるアベイラビリティゾーン間でサブネットを作成することができません。
ルートテーブル	rtb-xxxxxxx	単一リージョンの複数のアベイラビリティゾーンで利用可能	ルートテーブルを作成するとき、ユーザーはVPCを指定する必要があります。

関連する操作

インスタンスを他のアベイラビリティゾーンに移行する

インスタンスを一度起動すると、別のアベイラビリティゾーンに移行することはできません。ただし、CVM インスタンスのカスタムイメージを作成し、そのイメージを使用して、別のアベイラビリティゾーンでインスタンスを起動または更新することができます。

1. 現在のインスタンスのカスタムイメージを作成します。詳細については、[カスタムイメージの作成](#)をご参照ください。
2. 現在のインスタンスのネットワーク環境が [Virtual Private Cloud](#) で、移行後に現在のプライベートIPアドレスを保持する必要がある場合は、まず現在のアベイラビリティゾーンのサブネットを削除し、元のサブネットと同じIPアドレス範囲で新しいアベイラビリティゾーンにサブネットを作成します。サブネットは、使用可能なインスタンスが含まれていない場合のみ削除できることに注意してください。したがって、現在のサブネット内のすべてのインスタンスを新しいサブネットに移行する必要があります。
3. 作成したカスタムイメージを使用して、新しいアベイラビリティゾーンに新しいインスタンスを作成します。ユーザーは、元のインスタンスと同じタイプと構成を選択することも、新しい構成を選択することもできます。詳細については、[インスタンスの作成](#)をご参照ください。
4. 元のインスタンスがすでにElastic IPアドレスに関連付けられている場合、古いインスタンスとの関連付けを解除してから、新しいインスタンスに関連付ける必要があります。詳細については、[EIP](#)をご参照ください。
5. (オプション) 元のインスタンスが [従量課金制](#) の場合、元のインスタンスを廃棄することができます。詳細については、[インスタンスの廃棄](#)をご参照ください。

イメージを他のリージョンにコピーする

ユーザーがインスタンスを起動したり、インスタンスを表示したりするなどの操作は、リージョン属性によって識別されます。起動する必要があるインスタンスのイメージがリージョンに存在しない場合は、イメージを目的の

リージョンにコピーする必要があります。詳細については、[イメージのコピー](#) をご参照ください。

Instance

インスタンスの概要

最終更新日：2022-09-09 10:48:29

CVMインスタンスの概要

インスタンスは、CPU、メモリ、OS、ネットワーク、ディスクなどの最も基本的なコンピューティングコンポーネントを含むCloud Virtual Machine（CVM）として捉えることができます。

CVMインスタンスは、クラウドで安全で信頼できる多様なコンピューティングサービスを提供し、コンピューティング要件を満たすことができます。また、ビジネスニーズの変化に応じて、コンピューティングリソースをリアルタイムで拡大または削減できます。企業のソフトウェアとハードウェアの購入コストを大幅に削減し、IT運用保守業務を簡素化します。

インスタンスタイプごとに異なるコンピューティング能力とストレージ機能が提供されるため、さまざまなユースケースに適しています。ユーザは、必要なサービス規模に基づいてインスタンスのコンピューティング能力、ストレージスペース及びネットワークアクセス方法を選択できます。インスタンスタイプとユースケースの詳細については、[インスタンスタイプ](#)をご参照ください。インスタンスが起動すると、ユーザーは従来のコンピューターのようにインスタンスを使用でき、また、起動したインスタンスに対するすべての制御権を持っています。

インスタンスのイメージ

イメージは、CVMインスタンスの起動に必要なソフトウェア構成（OS、プリインストールプログラムなど）を含むテンプレートです。ユーザーは、イメージを介してインスタンスを起動する必要があります。イメージは、複数のインスタンスを起動でき、ユーザーが繰り返して使用できます。つまり、イメージはCVMの「インストールディスク」です。

Tencent Cloudが提供するイメージは、次の種類があります。

パブリックイメージ：すべてのユーザーが利用でき、ほとんどの主要なOSに適しています。

カスタムイメージ：作成者と共有オブジェクトのみが使用できます。カスタムイメージは、実行中のインスタンスから作成されるか、外部ソースからインポートされます。

共有イメージ：他のユーザによって共有されるイメージで、インスタンスの作成にのみ使用できます。

イメージの詳細について、[イメージの概要](#)と[イメージの種類](#)をご参照ください。

インスタンスのストレージ

通常のCVMと同様に、インスタンスはシステムディスクとデータディスクに格納できます。

システムディスク：WindowsシステムのCドライブに似ています。システムディスクには、インスタンスの起動に使用される完全なイメージ・コピーと、インスタンスの実行環境が含まれています。インスタンスの起動時に、使用されているイメージよりも大きいシステムディスクを選択する必要があります。

データディスク：WindowsシステムのDドライブやEドライブに似ています。データディスクはユーザーデータを保存し、柔軟な容量拡張、マウント、およびアンマウントをサポートします。

システムディスクとデータディスクの両方とも、Tencent Cloudが提供するさまざまなタイプのストレージをサポートしています。詳細については、[ストレージの概要](#) をご参照ください。

インスタンスのセキュリティ

Tencent Cloudは次のようなインスタンスのセキュリティ保護方法を提供します。

ポリシー制御：同一グループのクラウドリソースを複数の異なるアカウントで制御する必要がある場合、ユーザはポリシー制御によりクラウドリソースへのアクセス権限を管理できます。

セキュリティグループ：セキュリティグループでは、通信を許可するIPアドレスに制限をかけることができます。

ログイン制御：なるべく **SSH キー** を使用してLinuxインスタンスにログインします。**ログインパスワード** を使用してLinuxインスタンスにログインする場合は、パスワードを定期的に変更する必要があります。

インスタンス仕様

最終更新日：2023-03-14 12:16:10

Tencent Cloud CVMを構築するに当たっては、ユーザーが指定するインスタンスタイプがインスタンスのホストハードウェア構成を決定します。インスタンスタイプごとに、それぞれ異なるコンピューティング、メモリおよびストレージ機能を提供します。ユーザーはデプロイして実行する必要があるアプリケーションの規模に基づき、適切なインスタンスタイプを選択できます。これらのインスタンスファミリーは、CPU、メモリ、ストレージ、異種ハードウェアおよびネットワーク帯域幅の様々な組み合わせで構成されており、アプリケーションのリソースとして適切なインスタンスタイプを柔軟に選択できます。

突発的なスパイクアクセスに対応するために、Tencent Cloud CVMはサービスを使った分だけ支払う従量課金方式を提供し、いつでもコンピューティングインスタンスをアクティブ化/廃棄できます。課金は秒単位まで正確で、コストを最小限に抑えます。

インスタンスタイプ

Tencent Cloudのインスタンスファミリーは次のタイプに分類できます。

タイプ	サブタイプ	説明
標準型インスタンスファミリー	標準型S6 標準型SA3 標準型SR1 標準型S5 標準ストレージ拡張型se 標準型SA2 標準型S4 標準ネットワーク最適化型SN3ne 標準型S3 標準型SA1 標準ネットワーク最適化型S2ne 標準型S2 標準型S1	バランスの取れたコンピューティング、メモリ、ネットワークのリソースを提供し、多様なアプリケーション要件に対応できます。
メモリ型インスタンスファミリー	メモリ型M6 セキュリティ強化メモリ型M6ce メモリ型M5 メモリ型MA2	大容量メモリを備えており、高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングを必要とするアプリケーションに最適です。

	メモリ型M4 メモリ型M3 メモリ型M2 メモリ型M1	
ハイ I/O インスタンスファミリー	ハイ I/O 型IT5 ハイ I/O 型IT3	高いランダムIOPS、高スループット、低レイテンシーという特長を有しています。高性能データベースなど、高速のディスク書き込み速度と超低レイテンシーを必要とするI/O集約型のアプリケーションに最適です。
ビッグデータ型インスタンスファミリー	ビッグデータ型 D3 ビッグデータ型 D2	マストストレージリソースを搭載し、高スループットの特長を備え、Hadoop分散コンピューティング、大量のログ処理、分散ファイルシステム、大型データウェアハウスなどのスループット集約型アプリケーションに最適です。
コンピューティングインスタンスファミリー	コンピューティング型C6 コンピューティング型C5 コンピューティング型C4 コンピューティング型CN3 コンピューティング型C3 コンピューティング型C2	最大3.8GHzのターボ、最高のシングルコアコンピューティング性能を備えています。バッチ処理、ハイパフォーマンスコンピューティング、大規模ゲームサーバーなど、
異種コンピューティングインスタンスファミリー	-	GPU、FPGAなどの異種ハードウェアを搭載し、リアルタイムの高速並列コンピューティング機能と浮動小数点演算機能を備え、ディープラーニング、計算科学、ビデオのコーデック、グラフィックワークステーションなどの高性能アプリケーションに最適

説明：

一部のインスタンスファミリーは既に販売が停止されています。

用語の説明

受信パケットと送信パケット：インスタンスが1秒あたりに処理できるネットワークパケットの最大数（プライベートネットワークトラフィックとパブリックネットワークトラフィックを区別せず、双方向のパケット送受信を含みます）。

プライベートネットワーク 帯域幅の能力：インスタンスがプライベートネットワーク経由で1秒あたりに転送できる最大ビット数。

マルチキューテクノロジー：仮想ネットワークカードは複数の送受信パケットキューをサポートし、各キューのパケットは異なるCPUを介して同時に送受信が可能。

キューの数：各仮想ネットワークカードがサポートする送受信パケットキューの数（NキューはN個の受信キューとN個の送信キューを同時にサポートすることを示します）。

インスタンスの制限

1つのリージョンで起動できるインスタンスの総数には制限があり、その他制限の詳細については、[CVMインスタンスの購入制限](#) をご参照ください。

インスタンスにマウントされたシステムとデータディスクの制限：ディスクの I/O パフォーマンスを確保するために、Tencent Cloud は、インスタンスと一緒に購入されるデータ ディスクのサイズとタイプに制限を設定します。インスタンス仕様に対応するプライベートネットワーク帯域幅に注意してください。このインジケータは対応する仕様のインスタンスの最大プライベートネットワーク帯域幅の上限を示し、CVMプライベートネットワークトラフィックがこの制限を超えると、インスタンスのプライベートネットワーク内でランダムなパケット損失が発生する可能性があります。

各リージョンで販売できるインスタンスの仕様は必ずしも完全に同じではなく、一部の構成は完売している場合があります。実際の購入ページの情報をご参照ください。

このドキュメントに記載されているネットワーク送受信パケットは純粋なネットワーク転送テストシーンでのデータであり、テスト方法については、[ネットワークパフォーマンステスト](#) をご参照ください。ビジネスシーンでのパフォーマンスデータについては、実測後に容量を推定する必要があります。

個々のビジネスシーンに応じて、次のインスタンスファミリーに分類できます。

標準型インスタンスファミリー

標準型インスタンスは、コンピューティング、メモリおよびネットワークリソースのバランスが取れ、多くのシーンでアプリケーションのリソース要件に対応できます。

標準型S6

標準型S6インスタンスは、最新世代の標準インスタンスです。全く新しい最適化された仮想化プラットフォームに基づいて、バランスの取れた安定したコンピューティング、メモリとネットワークリソースを提供しており、多くのアプリケーションに適しています。

標準型S6インスタンスは、高性能な最新のIntel® Xeon® プロセッサとDDR4メモリを搭載します。デフォルトのネットワークは最適化され、最大1,900万ppsのプライベートネットワークスループットと最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅を提供します。

説明：

このインスタンスタイプは、ホワイトリストに登録されたユーザーのみが利用できるようになりました。アカウントマネージャーに連絡して購入してください。

特徴

Tencent Cloudによって開発された、第3世代 Intel® Xeon® スケーラブル プロセッサを搭載した新世代の双方向通信対応のStar Lakeサーバを採用。

CPU周波数2.7GHz、ターボ周波数3.3GHzのIntel® Xeon® Ice Lakeプロセッサを搭載。

1：2や1：4などのさまざまなプロセッサとメモリの比率を提供。

最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、超高速パケット転送速度により、高いプライベートネットワーク伝送要件を満たす。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは、その仕様によって異なります。仕様が高いほど、ネットワーク転送パフォーマンスが向上し、プライベートネットワークの帯域幅の上限が高くなります。

ハイパースレッディングの有効化または無効化をサポート。

ユースケース

標準型S6インスタンスは次のシナリオに最も適しています。

様々なタイプと規模のエンタープライズアプリケーション

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、検索クラスター

コンピューティングクラスター、メモリを大量に消費するデータ処理

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなど、大量のネットワークパケットの送受信が必要なシナリオ

インスタンス要件

S6インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのS6インスタンスの起動のみをサポートします。

S6インスタンスは設定の購入をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS6インスタンスのサイズが、OSとアプリケーションの最小CPU要件とメモリー要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するグラフィカルユーザーインターフェースを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。メモリとCPUの要件は時間の経過とともに増加するにつれて、より高い仕様または他のインスタンスタイプを選択できます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信および転送 (pps) (アウト バウンド)	接続 数	キュー 数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト	CPU周 波数	備考

			+インバ ウンド)			バウンド +インバウ ンド)		
S6.SMALL1	1	1	26万	26万	1	1.6	2.7GHz	-
S6.SMALL2	1	2	26万	26万	1	1.6	2.7GHz	-
S6.SMALL4	1	4	26万	26万	1	1.6	2.7GHz	-
S6.MEDIUM4	2	4	30万	26万	2	2	2.7GHz	-
S6.MEDIUM8	2	8	30万	26万	2	2	2.7GHz	-
S6.LARGE8	4	8	60万	60万	4	4	2.7GHz	-
S6.LARGE16	4	16	60万	60万	4	4	2.7GHz	-
S6.2XLARGE16	8	16	120万	100 万	8	7	2.7GHz	-
S6.2XLARGE32	8	32	120万	100 万	8	7	2.7GHz	-
S6.4XLARGE32	16	32	260万	200 万	16	13	2.7GHz	-
S6.4XLARGE64	16	64	260万	200 万	16	13	2.7GHz	-
S6.8XLARGE64	32	64	600万	400 万	32	26	2.7GHz	-
S6.8XLARGE128	32	128	600万	400 万	32	26	2.7GHz	-
S6.12XLARGE96	48	96	700万	600 万	48	39	2.7GHz	-
S6.12XLARGE192	48	192	700万	600 万	48	39	2.7GHz	-
S6.16XLARGE266	64	266	1000万	800 万	48	62	2.7GHz	-
S6.31MEDIUM216	62	216	1000万	800 万	48	60	2.7GHz	-
S6.16XLARGE216	64	216	1000万	800	48	50	2.7GHz	-

				万				
S6.32XLARGE432	128	432	1500万	1600万	48	100	2.7GHz	-

標準型SA3

標準型SA3インスタンスはAMD EPYCTMプロセッサを採用した最新世代のインスタンスで、幅広い仕様を提供しています。ワークロードにおいて業界をリードするコストパフォーマンスを確保する、優れたコストパフォーマンスを備えたこのインスタンスは、バランスの取れたコンピューティング、ストレージ、ネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにとって最適な選択です。

標準型SA3インスタンスはAMD EPYCTMMilanというまったく新しいプロセッサを採用し、メモリには最新のDDR4を使用しています。デフォルトのネットワークは最適化され、最大プライベートネットワーク送受信能力は1900万ppsに達し、最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

説明：

このインスタンスタイプは、ホワイトリストに登録されたユーザーのみが利用できるようになりました。アカウントマネージャーに連絡して購入してください。

实例特点

Tencent Cloudが自社開発した星星海サーバーをベースとして、信頼性、安全性、安定性の高いパフォーマンスを提供。

2.55GHz AMD EPYCTM Milanプロセッサ、ターボ3.5GHzに、最新世代の8チャネルDDR4を組み合わせ、安定したメモリコンピューティング性能を実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるSA3.58XLARGE940は最大232vCPUと940GBのメモリを提供。

1：2や1：4などのさまざまなプロセッサとメモリの比率を提供。

最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、超高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワーク性能は仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送性能、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準型SA3インスタンスは次のシナリオに最も適しています。

さまざまなタイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

検索などのコンピューティングクラスター。

ビデオコーデック、ビデオレンダリングなど、シングルコアパフォーマンスに敏感なアプリケーション。

实例要求

SA3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのSA3インスタンスの起動のみをサポートします。

SA3インスタンスは設定の購入をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したSA3インスタンスのサイズが、OSとアプリケーションの最小CPUおよびメモリー要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するグラフィカルユーザーインターフェースを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。メモリとCPUの要件は時間の経過とともに増加するにつれて、より高い仕様または他のインスタンスタイプを選択できます。

適切なオペレーティングシステムのカーネルバージョンとランタイム環境のサポートにより、インスタンスのネットワーク帯域幅は最大 100 Gbps に達することができます。ppsが1,000万を超え、帯域幅が50Gbpsを超えると、カーネルプロトコルスタックによってネットワークパフォーマンスが大幅に低下します。このとき、Netperfによってテストされた帯域幅の値がユーザーの期待を満たしていない可能性があり、DPDKメソッドを使用して、仮想マシンのカーネルプロトコルスタックの違いをブロックし、インスタンスの実際のネットワークパフォーマンスを取得できます。

[トップに戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの送受信 (pps) (アウトバウンド+インバウンド)	接続数	キューの数	プライベートネットワーク帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周波数	備考
SA3.SMALL1	1	1	25万	25万	1	1.5	2.55GHz	-
SA3.SMALL2	1	2	25万	25万	1	1.5	2.55GHz	-
SA3.SMALL4	1	4	25万	25万	1	1.5	2.55GHz	-
SA3.MEDIUM4	2	4	30万	25万	2	1.5	2.55GHz	-
SA3.MEDIUM8	2	8	30万	25万	2	1.5	2.55GHz	-
SA3.LARGE8	4	8	50万	25万	4	2	2.55GHz	-
SA3.LARGE16	4	16	50万	25万	4	2	2.55GHz	-
SA3.2XLARGE16	8	32	80万	50万	8	4	2.55GHz	-
SA3.2XLARGE32	8	32	80万	50万	8	4	2.55GHz	-
SA3.4XLARGE32	16	32	150万	110万	16	7	2.55GHz	-

SA3.4XLARGE64	16	64	150万	110万	16	7	2.55GHz	-
SA3.8XLARGE64	32	64	250万	220万	32	14	2.55GHz	-
SA3.8XLARGE128	32	128	250万	220万	32	14	2.55GHz	-
SA3.12XLARGE96	48	96	400万	330万	48	21	2.55GHz	-
SA3.12XLARGE192	48	192	400万	330万	48	21	2.55GHz	-
SA3.16XLARGE128	64	128	520万	440万	48	28	2.55GHz	-
SA3.16XLARGE256	64	256	520万	440万	48	28	2.55GHz	-
SA3.20XLARGE160	80	160	650万	550万	48	35	2.55GHz	-
SA3.20XLARGE320	80	320	650万	550万	48	35	2.55GHz	-
SA3.24XLARGE192	96	192	780万	660万	48	42	2.55GHz	-
SA3.24XLARGE384	96	384	780万	660万	48	42	2.55GHz	-
SA3.29XLARGE216	116	216	950万	800万	48	50	2.55GHz	-
SA3.29XLARGE470	116	470	950万	800万	48	50	2.55GHz	-
SA3.32XLARGE256	128	256	1000万	880万	48	56	2.55GHz	-
SA3.32XLARGE512	128	512	1000万	880万	48	56	2.55GHz	-
SA3.40XLARGE320	160	320	1300万	1100万	48	69	2.55GHz	-

SA3.40XLARGE640	160	640	1300万	1100万	48	69	2.55GHz	-
SA3.58XLARGE432	232	432	1900万	1600万	48	100	2.55GHz	-
SA3.58XLARGE940	232	940	1900万	1600万	48	100	2.55GHz	-

標準型 SR1

標準型SR1インスタンスは、最新世代のARM標準型インスタンスです。斬新な最適化された仮想化プラットフォームに基づいて、バランスの取れた安定したコンピューティング、メモリとネットワークリソースを提供しており、多くのアプリケーションに最適です。

インスタンスの特徴

Ampere® Altra®プロセッサ（クロックレート2.8GHz、ターボレート3.0GHz）を使用します。

1：2や1：4などのさまざまなプロセッサとメモリの比率を提供します。

データディスクは、高性能CBS、SSD CBSと拡張型SSD CBSに対応できます。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅に対応し、超大容量ネットワークパケット送受信機能を備え、非常に高いプライベートネットワーク転送要件に対応できます。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは、そのスペックによって異なります。スペックが高いほど、ネットワーク転送パフォーマンスが向上し、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準型SR1インスタンスは以下のシナリオに適用できます：

各種のタイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

ARMシミュレーションテスト。

組み込み型の開発とテスト。

CPUベースの機械学習推論。

インスタンスの要件

SR1インスタンスは構成の購入をサポートします。以下のインスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	ネットワーク パケット送受信 (pps) (アウトバンド+インバンド)	キュー の数	プライベート ネットワーク帯域 幅機能 (Gbps) (アウトバンド+イン)	クロック レート	備考
----	------	-------------	---	-----------	--	-------------	----

					バンドク ロックレー ト)		
SR1.SMALL1	1	1	25万	1	1.5	2.8GHz	-
SR1.SMALL2	1	2	25万	1	1.5	2.8GHz	-
SR1.MEDIUM4	2	4	25万	2	1.5	2.8GHz	-
SR1.MEDIUM8	2	8	25万	2	1.5	2.8GHz	-
SR1.LARGE8	4	8	25万	2	1.5	2.8GHz	-
SR1.LARGE16	4	16	25万	2	1.5	2.8GHz	-
SR1.2XLARGE16	8	16	50万	2	3	2.8GHz	-
SR1.2XLARGE32	8	32	50万	2	3	2.8GHz	-
SR1.4XLARGE32	16	32	110万	4	6	2.8GHz	-
SR1.4XLARGE64	16	64	110万	4	6	2.8GHz	-
SR1.8XLARGE64	32	64	220万	8	12	2.8GHz	-
SR1.8XLARGE128	32	128	220万	8	12	2.8GHz	-
SR1.16XLARGE128	64	128	450万	16	16	2.8GHz	-

標準型S5

標準型S5インスタンスは最新世代の標準インスタンスで、新しい最適化された仮想化プラットフォームに基づき、バランスの取れた安定したコンピューティング、メモリおよびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。

特徴

Intel® Xeon® Cascade LakeまたはIntel® Xeon® Cooper Lakeプロセッサ、クロック周波数2.5GHz、ターボ3.1GHzを採用。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

最大28 Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準型S5インスタンスは次のシーンに使用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、および検索クラスター。

コンピューティングクラスター、メモリに依存するデータ処理。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

インスタンス要件

S5インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

S5インスタンスはVPCでのみ起動できます。

S5インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS5インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）では、より大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	接続 数	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	CPU周 波数	備 考
S5.SMALL1	1	1	25万	25万	1	1.5	2.5GHz	-
S5.SMALL2	1	2	25万	25万	1	1.5	2.5GHz	-
S5.SMALL4	1	4	25万	25万	1	1.5	2.5GHz	-
S5.MEDIUM4	2	4	30万	25万	2	1.5	2.5GHz	-
S5.MEDIUM8	2	8	30万	25万	2	1.5	2.5GHz	-
S5.LARGE8	4	8	50万	25万	2	1.5	2.5GHz	-
S5.LARGE16	4	16	50万	25万	2	1.5	2.5GHz	-
S5.2XLARGE16	8	16	80万	25万	2	3.0	2.5GHz	-

S5.2XLARGE32	8	32	80万	25万	2	3.0	2.5GHz	-
S5.4XLARGE32	16	32	150万	30万	4	6.0	2.5GHz	-
S5.4XLARGE64	16	64	150万	30万	4	6.0	2.5GHz	-
S5.6XLARGE48	24	48	200万	40万	6	9.0	2.5GHz	-
S5.6XLARGE96	24	96	200万	40万	6	9.0	2.5GHz	-
S5.8XLARGE64	32	64	250万	60万	8	12	2.5GHz	-
S5.8XLARGE128	32	128	250万	60万	8	12	2.5GHz	-
S5.12XLARGE96	48	96	400万	90万	12	17.0	2.5GHz	-
S5.12XLARGE192	48	192	400万	90万	12	17.0	2.5GHz	-
S5.16XLARGE256	64	256	500万	120万	16	23.0	2.5GHz	-

標準ストレージ拡張型S5se

標準ストレージ拡張型S5seインスタンスは、まったく新しく、最適化された仮想化プラットフォームをベースとし、クラウドディスクの性能を全面的に向上させるインスタンスです。Xeon®プロセッサCascade Lakeというまったく新しいプロセッサを採用し、メモリは最新のDDR4を使用しており、CBSの強力なパフォーマンスを提供します。

特徴

システムディスクは高性能CBSとSSD CBSをサポート。

データディスクは超高速SSD CBSをサポート。

インスタンスCBSのストレージ性能は最大120万IOPS、4GB/秒のリード/ライト帯域幅。

2.5GHz Intel® Xeon® Cascade Lakeプロセッサ、ターボ3.1GHzに、最新世代の6チャネルDDR4を組み合わせ、安定したメモリコンピューティング性能を実現。

まったく新しいIntel Advanced Vector Extension(AVX-512)命令セットを搭載。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワーク性能は仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送性能、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準ストレージ拡張型S5seインスタンスは、次のようなシーンに応用できます

さまざまなタイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

大規模データベース、NoSQLデータベース、オーディオビデオ処理、ElasticSearchクラスターなど、IO集約型アプリケーション。

インスタンス要件

S5seインスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのS5seインスタンスの起動のみをサポートします。

S5seインスタンスは購入設定をサポートします。下記のインスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信および転送 (pps) (アウトバウンド +インバウンド)	接続 数	キュー の数	プライベート ネットワーク帯 域幅 (Gbps) (アウトバウンド +インバウンド)	CPU周 波数	備考
S5se.LARGE16	4	16	50万	25 万	2	1.5	2.5GHz	-
S5se.2XLARGE16	8	16	80万	25 万	2	3.0	2.5GHz	-
S5se.2XLARGE32	8	32	80万	25 万	2	3.0	2.5GHz	-
S5se.4XLARGE32	16	32	150万	30 万	4	6.0	2.5GHz	-
S5se.4XLARGE64	16	64	150万	30 万	4	6.0	2.5GHz	-
S5se.8XLARGE64	32	64	250万	60 万	8	12.0	2.5GHz	-
S5se.8XLARGE128	32	128	250万	60 万	8	12.0	2.5GHz	-
S5se.17XLARGE316	68	316	500万	120 万	16	25.0	2.5GHz	-

標準型SA2

標準型SA2インスタンスはAMD EPYC™プロセッサを使用した最新世代のインスタンスで、ワークロードにおいて業界をリードするコストパフォーマンスが得られることを保証する、優れたコストパフォーマンスを備えた、幅広い仕様を提供します。このインスタンスはバランスの取れたコンピューティング、メモリ、およびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。

標準型SA2インスタンスは最新のAMD EPYC™ROMEプロセッサ、最新のDDR4メモリを使用しており、デフォルトのネットワークは最適化され、最大プライベートネットワーク送受信能力は750万ppsに達し、最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

特徴

Tencent Cloudが自社開発したStarLakeサーバーに基づき、信頼性、安全性、安定性の高いパフォーマンスを提供。

2.6GHz AMD EPYC™ROMEプロセッサ、ターボ周波数3.3 GHzに、最新世代の8チャネルDDR4を組み合わせ、安定したメモリコンピューティングパフォーマンスを実現。

より大きなインスタンス仕様であるSA2.45XLARGE464は180vCPUと464GBのメモリを提供。

1:2や1:4など、さまざまなプロセッサとメモリの比率を提供します。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準型SA2インスタンスは次のシーンに適用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

検索などのコンピューティングクラスター。

ビデオコーデック、ビデオレンダリングなど、シングルコアパフォーマンスに敏感なアプリケーション。

インスタンス要件

SA2インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

SA2インスタンスはVPCでのみ起動できます。

SA2インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したSA2インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および	キュー の数	プライベ ートネット	CPU周 波数	備 考
----	------	-------------	----------------	-----------	---------------	------------	--------

			転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)		ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)		
SA2.SMALL1	1	1	25万	1	1.5	2.6GHz	-
SA2.SMALL2	1	2	25万	1	1.5	2.6GHz	-
SA2.SMALL4	1	4	25万	1	1.5	2.6GHz	-
SA2.MEDIUM4	2	4	30万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.MEDIUM8	2	8	30万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.LARGE8	4	8	50万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.LARGE16	4	16	50万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.2XLARGE16	8	16	70万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.2XLARGE32	8	32	70万	2	1.5	2.6GHz	-
SA2.4XLARGE32	16	32	100万	4	3.0	2.6GHz	-
SA2.4XLARGE64	16	64	100万	4	3.0	2.6GHz	-
SA2.8XLARGE64	32	64	140万	8	5.0	2.6GHz	-
SA2.12XLARGE96	48	96	210万	12	7.0	2.6GHz	-
SA2.16XLARGE128	64	128	280万	16	9.0	2.6GHz	-
SA2.20XLARGE160	80	160	350万	16	12.0	2.6GHz	-
SA2.22XLARGE224	90	224	375万	16	13.0	2.6GHz	-
SA2.24XLARGE192	96	192	420万	16	14.0	2.6GHz	-
SA2.32XLARGE256	128	256	560万	32	18.0	2.6GHz	-
SA2.40XLARGE320	160	320	710万	32	23.0	2.6GHz	-
SA2.45XLARGE464	180	464	750万	32	25.0	2.6GHz	-

標準型S4

標準型S4インスタンスは次世代標準型インスタンスで、このインスタンスはバランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。標準型S4インスタンスは最新のXeon®Skylakeプロセッサと最新のDDR4メモリを使用しており、デフォルトのネットワークは最適化され、最大プライベートネットワーク送受信能力は600万ppsに達し、最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

特徴

2.4GHz Intel® Xeon® Skylake 6148プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるS4.18XLARGE228は72vCPUと228GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

標準型S4インスタンスは次のシーンに適用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、検索クラスター。

コンピューティングクラスター、メモリに依存するデータ処理。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

インスタンス要件

S4インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

S4インスタンスはVPCでのみ起動できます。

S4インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS4インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps)（アウトバウンド +インバウンド）	キュー の数	プライベート ネットワーク 帯域幅 (Gbps) （アウトバ	CPU周 波数	備考

					ウンド+イン バウンド)		
S4.SMALL1	1	1	25万	1	1.5	2.4GHz	-
S4.SMALL2	1	2	25万	1	1.5	2.4GHz	-
S4.SMALL4	1	4	25万	1	1.5	2.4GHz	-
S4.MEDIUM4	2	4	30万	2	1.5	2.4GHz	-
S4.MEDIUM8	2	8	30万	2	1.5	2.4GHz	-
S4.LARGE8	4	8	50万	2	1.5	2.4GHz	-
S4.LARGE16	4	16	50万	2	1.5	2.4GHz	-
S4.2XLARGE16	8	16	80万	2	3.0	2.4GHz	-
S4.2XLARGE32	8	32	80万	2	3.0	2.4GHz	-
S4.4XLARGE32	16	32	150万	4	6.0	2.4GHz	-
S4.4XLARGE64	16	64	150万	4	6.0	2.4GHz	-
S4.6XLARGE48	24	48	200万	6	8.0	2.4GHz	-
S4.6XLARGE96	24	96	200万	6	8.0	2.4GHz	-
S4.8XLARGE64	32	64	250万	8	11.0	2.4GHz	-
S4.8XLARGE128	32	128	250万	8	11.0	2.4GHz	-
S4.12XLARGE96	48	96	400万	12	16.0	2.4GHz	-
S4.12XLARGE192	48	192	400万	12	16.0	2.4GHz	-
S4.16XLARGE256	64	256	500万	16	22.0	2.4GHz	-
S4.18XLARGE288	72	288	600万	16	24.0	2.4GHz	-

標準ネットワーク最適化型SN3ne

標準ネットワーク最適化型SN3neインスタンスは比較的新しい世代のネットワーク最適化インスタンスで、このインスタンスはバランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソースを提供し、ネットワーク送受信機能に極めて優れ、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。

標準ネットワーク最適化型SN3neインスタンスは最新のXeon®Skylakeプロセッサと最新のDDR4メモリを使用しており、デフォルトのネットワークは最適化され、最大プライベートネットワーク送受信能力は600万ppsに達

し、そのパフォーマンスは標準型S3インスタンスのほぼ8倍となっています。最大25 Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、標準型S3ファミリーの2.5倍となっています。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Skylake 6133プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるSN3ne.18XLARGE228は72vCPUと228GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅と非常に高いネットワーク送受信パケット機能をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、イントラネット帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

ユースケース

標準ネットワーク最適化型SN3neインスタンスは次のシーンに適用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、検索クラスター。

コンピューティングクラスター、メモリに依存するデータ処理。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

インスタンス要件

SN3neインスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

SN3neインスタンスはVPCでのみ起動できます。

SN3neインスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したSN3neインスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライベ ートネット ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	CPU周 波数	備 考
SN3ne.SMALL2	1	2	25万	1	1.5	2.5GHz	-

SN3ne.MEDIUM4	2	4	30万	2	1.5	2.5GHz	-
SN3ne.LARGE8	4	8	50万	2	1.5	2.5GHz	-
SN3ne.LARGE16	4	16	50万	2	1.5	2.5GHz	-
SN3ne.2XLARGE16	8	16	80万	2	3.0	2.5GHz	-
SN3ne.2XLARGE32	8	32	80万	2	3.0	2.5GHz	-
SN3ne.3XLARGE24	12	24	100万	3	4.0	2.5GHz	-
SN3ne.4XLARGE32	16	32	150万	4	6.0	2.5GHz	-
SN3ne.4XLARGE64	16	64	150万	4	6.0	2.5GHz	-
SN3ne.6XLARGE48	24	48	200万	6	8.0	2.5GHz	-
SN3ne.6XLARGE96	24	96	200万	6	8.0	2.5GHz	-
SN3ne.8XLARGE64	32	64	250万	8	11.0	2.5GHz	-
SN3ne.8XLARGE128	32	128	250万	8	11.0	2.5GHz	-
SN3ne.12XLARGE96	48	96	400万	12	16.0	2.5GHz	-
SN3ne.12XLARGE192	48	192	400万	12	16.0	2.5GHz	-
SN3ne.16XLARGE128	64	128	500万	16	22.0	2.5GHz	-
SN3ne.16XLARGE256	64	256	500万	16	22.0	2.5GHz	-
SN3ne.18XLARGE288	72	288	600万	16	24.0	2.5GHz	-

標準型S3

標準型S3インスタンスは比較的新しい世代の標準インスタンスで、このインスタンスはバランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。

標準型S3インスタンスは最新のXeon®Skylakeプロセッサと最新のDDR4メモリを使用しており、最大10Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Skylake 6133プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるS3.20XLARGE320は80vCPUと320GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

ユースケース

標準型S3インスタンスは次のシーンに適用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、検索クラスター。

コンピューティングクラスター、メモリに依存するデータ処理。

インスタンス要件

S3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

S3インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

S3インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS3インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド+インバウンド)	キュー の数	プライベート ネットワーク 帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周 波数	備考
S3.SMALL1	1	1	20万	1	1.5	2.5GHz	-
S3.SMALL2	1	2	20万	1	1.5	2.5GHz	-
S3.SMALL4	1	4	20万	1	1.5	2.5GHz	-
S3.MEDIUM8	2	8	25万	2	1.5	2.5GHz	-
S3.LARGE8	4	8	45万	4	1.5	2.5GHz	-
S3.LARGE16	4	16	45万	4	1.5	2.5GHz	-
S3.2XLARGE16	8	16	85万	8	1.5	2.5GHz	-
S3.2XLARGE32	8	32	85万	8	1.5	2.5GHz	-

S3.3XLARGE24	12	24	85万	12	1.5	2.5GHz	-
S3.3XLARGE48	12	48	85万	12	1.5	2.5GHz	-
S3.4XLARGE32	16	32	85万	16	2.0	2.5GHz	-
S3.4XLARGE64	16	64	85万	16	2.0	2.5GHz	-
S3.6XLARGE48	24	48	85万	16	3.0	2.5GHz	-
S3.6XLARGE96	24	96	85万	16	3.0	2.5GHz	-
S3.8XLARGE64	32	64	85万	16	4.0	2.5GHz	-
S3.8XLARGE128	32	128	85万	16	4.0	2.5GHz	-
S3.12XLARGE96	48	96	85万	16	6.0	2.5GHz	-
S3.12XLARGE192	48	192	85万	16	6.0	2.5GHz	-
S3.16XLARGE256	64	256	85万	16	8.0	2.5GHz	-
S3.20XLARGE320	80	320	85万	16	10.0	2.5GHz	-

標準型SA1

標準型SA1インスタンスはAMD EPYC™プロセッサを使用したインスタンスで、ワークロードにおいて業界をリードするコストパフォーマンスが得られることを保証する、優れたコストパフォーマンスを備えた、幅広い仕様を提供します。このインスタンスはバランスの取れたコンピューティング、メモリ、およびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて最適の選択となります。

特徴

2.0GHz AMD EPYC™ 7551プロセッサ、Turbo周波数2.55GHzで、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

最新世代の8チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

ユースケース

標準型SA1インスタンスは次のシーンに適用できます。

各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

中小規模のデータベースシステム、キャッシュ、検索クラスター。

コンピューティングクラスター、メモリに依存するデータ処理。

インスタンス要件

SA1インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

SA1インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

SA1インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド +インバウンド)	キュー の数	プライベートネットワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周波数	備考
SA1.SMALL1	1	1	-	1	1.5	2.0GHz	-
SA1.SMALL2	1	2	-	1	1.5	2.0GHz	-
SA1.SMALL4	1	4	-	1	1.5	2.0GHz	-
SA1.MEDIUM4	2	4	-	2	1.5	2.0GHz	-
SA1.MEDIUM8	2	8	-	2	1.5	2.0GHz	-
SA1.LARGE8	4	8	-	4	1.5	2.0GHz	-
SA1.LARGE16	4	16	-	4	1.5	2.0GHz	-
SA1.2XLARGE16	8	16	-	8	1.5	2.0GHz	-
SA1.2XLARGE32	8	32	-	8	1.5	2.0GHz	-
SA1.4XLARGE32	16	32	-	16	1.5	2.0GHz	-
SA1.4XLARGE64	16	64	-	16	1.5	2.0GHz	-

説明：

SA1インスタンス仕様リストのネットワーク送受信パケット列の「-」は当該仕様の送受信パケットとプロセッサクロック周波数に特定のパフォーマンスコミットがないことを示します。パフォーマンスの適合性に対する強い要望がある場合は、パフォーマンスにコミットしたモデルのご購入を推奨します。

標準ネットワーク最適化型S2ne

標準ネットワーク最適化型S2neインスタンスは、大量のネットワークパケットの送受信を必要とするアプリケーションに最適です。1秒当たり最大数百万のネットワーク送受信機能を提供します。大型ゲームサーバー、ビデオ、ライブストリーミングなど、ネットワークPPSの高さが求められるシーンに最適です。

説明：

このインスタンスタイプは現在、ホワイトリストに登録されたユーザーのみが使用できます。プリセールスマネージャーに連絡し、インスタンス購入権限をアクティブにしてください。

特徴

基準周波数2.4GHzのIntel Xeon E5-2680 Broadwell（v4）プロセッサ、DDR4メモリを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

販売構成は最大48コア192GB。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

ユースケース

ゲームサービス、ビデオサービス、財務分析などの大規模なネットワークパケットの送受信が必要なシナリオ。各種タイプと規模のエンタープライズアプリケーション。

インスタンス要件

S2neインスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

S2neインスタンスはVPCでのみ起動できます。

S2neインスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	CPU周 波数	備考
S2ne.SMALL2	1	2	12万	1	1.5	2.4GHz	-
S2ne.MEDIUM4	2	4	15万	2	1.5	2.4GHz	-

S2ne.LARGE8	4	8	30万	2	1.5	2.4GHz	-
S2ne.LARGE16	4	16	30万	2	1.5	2.4GHz	-
S2ne.2XLARGE16	8	16	60万	2	2.0	2.4GHz	-
S2ne.2XLARGE32	8	32	60万	2	2.0	2.4GHz	-
S2ne.3XLARGE24	12	24	90万	3	2.5	2.4GHz	-
S2ne.3XLARGE48	12	48	90万	3	2.5	2.4GHz	-
S2ne.4XLARGE32	16	32	120万	4	3.5	2.4GHz	-
S2ne.4XLARGE64	16	64	120万	4	3.5	2.4GHz	-
S2ne.6XLARGE48	24	48	180万	6	5.0	2.4GHz	-
S2ne.6XLARGE96	24	96	180万	6	5.0	2.4GHz	-
S2ne.8XLARGE64	32	64	240万	8	6.5	2.4GHz	-
S2ne.8XLARGE128	32	128	240万	8	6.5	2.4GHz	-
S2ne.12XLARGE192	48	192	360万	12	9.5	2.4GHz	-

標準型S2

標準型S2インスタンスは比較的新しい世代の標準型インスタンスで、このシリーズはバランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソースを提供し、多くのアプリケーションにおいて好ましい選択となります。

標準型S2インスタンスはIntel® Xeon® Broadwellプロセッサを採用し、DDR4メモリを搭載。

特徴

基準周波数2.4GHzのIntel Xeon E5-2680 Broadwell (v4) プロセッサ、DDR4メモリを搭載。

販売構成は最大56コア224GB。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

バランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソース。

ユースケース

中小規模のデータベースと追加のメモリが必要なデータ処理タスクおよびキャッシュクラスターに使用し、SAP、Microsoft SharePoint、クラスターコンピューティング、およびその他のエンタープライズアプリケーションを実行するバックエンドサーバーにも使用することができます。

インスタンス要件

S2インスタンスは従量課金インスタンスとして使用でき、CVM Dedicated Hostの標準ホストHS20の本番インスタンスとして使用することもできます。

S2インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

S2インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS2インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド+インバウンド) p>	キュー の数	プライベート ネットワーク 帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周 波数	備 考
S2.SMALL1	1	1	20万	1	1.5	2.4GHz	-
S2.SMALL2	1	2	20万	1	1.5	2.4GHz	-
S2.SMALL4	1	4	20万	1	1.5	2.4GHz	-
S2.MEDIUM2	2	2	25万	2	1.5	2.4GHz	-
S2.MEDIUM4	2	4	25万	2	1.5	2.4GHz	-
S2.MEDIUM8	2	8	25万	2	1.5	2.4GHz	-
S2.LARGE8	4	8	45万	4	1.5	2.4GHz	-
S2.LARGE16	4	16	45万	4	1.5	2.4GHz	-
S2.2XLARGE16	8	16	50万	8	1.5	2.4GHz	-
S2.2XLARGE32	8	32	50万	8	1.5	2.4GHz	-
S2.3XLARGE24	12	24	50万	8	2.5	2.4GHz	-
S2.3XLARGE48	12	48	50万	8	2.5	2.4GHz	-
S2.4XLARGE32	16	32	50万	8	3.0	2.4GHz	-
S2.4XLARGE64	16	64	50万	8	3.0	2.4GHz	-
S2.6XLARGE48	24	48	70万	8	4.5	2.4GHz	-

S2.6XLARGE96	24	96	70万	8	4.5	2.4GHz	-
S2.8XLARGE64	32	64	70万	8	6.0	2.4GHz	-
S2.8XLARGE128	32	128	70万	8	6.0	2.4GHz	-
S2.14XLARGE224	56	224	70万	8	10.0	2.4GHz	-

標準型S1

シリーズ1の標準モデルS1は幅広いコアをカバーするクラウドサーバータイプで、ユーザーのフレキシブルな選択と構成のニーズを満たし、手頃な価格とフレキシブルな構成という特長を備えています。データディスクは、ローカルディスク、SSD、オンラインストレージなどの様々なタイプと組み合わせることができます（詳細はハードウェアの仕様によって異なる場合があります）。

特徴

標準型S1インスタンスには次の機能があります。

幅広いコアをカバー、ユーザーのフレキシブルな選択と構成を実現。

Intel Xeon CPU、DDR3メモリを搭載。

ローカルディスク、SSD、オンラインストレージを組み合わせでストレージ可能。

バランスの取れたコンピューティング、メモリおよびネットワークリソース。

ユースケース

標準型S1インスタンスは、大規模、中規模、および小規模のアプリケーションとデータベースに適しています。

インスタンス要件

S1インスタンスは従量課金インスタンスとして使用でき、CVM Dedicated Hostの標準ホストの本番インスタンスとして使用することもできます。

S1インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

インスタンス仕様リスト中の「-」は、当該仕様のネットワーク送受信パケットとプロセッサクロック周波数に特定のパフォーマンスコミットがないことを示します。パフォーマンスの適合性に対する強い要望がある場合は、パフォーマンスにコミットしたモデルのご購入を推奨します。

S1インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。選択したS1インスタンスのサイズがOSとアプリケーションの最小CPUメモリ要件を満たしていることを確認してください。多くのユースケースにおいて、大量のメモリとCPUリソースを消費するGUIを備えたOS（Windowsなど）ではより大きなインスタンスサイズが必要になる場合があります。ワークロードのメモリとCPUのニーズが時間の経過に伴い増大する場合は、より高度な構成に拡張したり、他のタイプのインスタンスを選択したりできます。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受 信および転送	キュー の数	プライベ ートネット	CPU 周波	備考
----	------	-------------	------------------	-----------	---------------	-----------	----

			(pps) (アウトバウンド+インバウンド)		ワーク帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	数	
S1.SMALL1	1	1	-	1	1.5	-	-
S1.SMALL2	1	2	-	1	1.5	-	-
S1.SMALL4	1	4	-	1	1.5	-	-
S1.MEDIUM2	2	2	-	2	1.5	-	-
S1.MEDIUM4	2	4	-	2	1.5	-	-
S1.MEDIUM8	2	8	-	2	1.5	-	-
S1.MEDIUM12	2	12	-	2	1.5	-	-
S1.LARGE4	4	4	-	4	1.5	-	-
S1.LARGE8	4	8	-	4	1.5	-	-
S1.LARGE16	4	16	-	4	1.5	-	-
S1.2XLARGE8	8	8	-	8	2.0	-	-
S1.2XLARGE16	8	16	-	8	2.0	-	-
S1.2XLARGE32	8	32	-	8	2.0	-	-
S1.3XLARGE24	12	24	-	8	2.5	-	-
S1.3XLARGE48	12	48	-	8	2.5	-	-
S1.4XLARGE16	16	16	-	8	3.5	-	-
S1.4XLARGE32	16	32	-	8	3.5	-	-
S1.4XLARGE48	16	48	-	8	3.5	-	-
S1.4XLARGE64	16	64	-	8	3.5	-	-
S1.6XLARGE48	24	48	-	8	5.0	-	-
S1.8XLARGE64	32	64	-	8	7.0	-	-
S1.12XLARGE96	48	96	-	8	10.0	-	-

説明：

S1インスタンス仕様リスト中の「-」は、当該仕様のとCPU周波数に特定のパフォーマンスコミットがないことを示します。パフォーマンスの適合性に対する強い要望がある場合は、パフォーマンスにコミットしたモデルのご購入を推奨します。

メモリ型インスタンスファミリー

メモリ型インスタンスは大容量メモリの特長を備え、高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーションに最適

メモリ型M6

メモリ型M6インスタンスは、メモリバウンドワークロードに最適な最新世代のメモリ最適化インスタンスで、最適化された仮想化プラットフォームに基づき、メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的とし、ハイメモリコンピューティングを必要とするアプリケーションに最適です。

特徴

Tencent Cloudによって開発された新世代の双方向通信対応のStar Lakeサーバと新しい第3世代インテル® Xeon® スケーラブルプロセッサを採用。

CPU 周波数 2.7GHz、ターボ周波数3.3GHzのIntel® Xeon® Ice Lakeプロセッサを搭載。

インテル® Optane™ パーシステント・メモリーを採用します。パーシステントメモリは、低遅延なメモリと永続性ストレージの両方の機能を提供する不揮発性メモリモジュールです。これは、クラウドデータベースのパフォーマンス、メモリ容量と書き込みパフォーマンスが大幅に向上します。

プロセッサとメモリの比率は1:8。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは、その仕様によって異なります。仕様が低いほど、ネットワーク転送パフォーマンスが向上し、プライベートネットワークの帯域幅の上限が高くなります。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシナリオに最も適しています。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝的アルゴリズムなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなど、大きなボリュームのパケットの受信および転送のあるシナリオ。

インスタンス要件

M6インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのM6インスタンスの起動のみをサポートします。

利用可能なM6仕様については、以下を参照してください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	接続 数	キュー 数	プライベ ートネット ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イ ンバウン ド)	CPU 周波 数	備 考
M6.SMALL8	1	8	25万	25万	1	1.5	2.7 GHz	-
M6.MEDIUM16	2	16	30万	25万	2	2	2.7 GHz	-
M6.LARGE32	4	32	60万	50万	4	4	2.7 GHz	-
M6.2XLARGE64	8	64	120万	100 万	8	7	2.7 GHz	-
M6.4XLARGE128	16	128	250万	200 万	16	13	2.7 GHz	-
M6.8XLARGE256	32	256	500万	400 万	32	26	2.7 GHz	-
M6.16XLARGE512	64	512	1000万	800 万	48	52	2.7 GHz	-
M6.31MEDIUM470	62	470	1000万	800 万	48	50	2.7 GHz	-
M6.31XLARGE940	124	940	1900万	1600 万	48	100	2.7 GHz	-

セキュリティ強化メモリ型M6ce

セキュリティ強化メモリ型M6ceインスタンスは、最新世代のメモリ型インスタンスで、全く新しい最適化された仮想化プラットフォームをベースとしています。メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安

定したパフォーマンスを提供することを目的としており、ハイメモリコンピューティングアプリケーションにとってベストな選択です。

説明：

このインスタンスタイプは、ホワイトリストに登録されたユーザーのみが利用できるようになりました。アカウントマネージャーに連絡して購入してください。

特徴

Tencent Cloudにより自社開発された新世代の双方向通信対応Star Lakeサーバーは、第3世代Intel® Xeon®と組み合わせプロセッサを拡張可能です。

Intel® Xeon® Ice Lakeプロセッサ、クロック周波数2.7GHz、ターボブースト時3.3GHzを採用しています。

Intel® SGX暗号化計算をサポートし、単一インスタンスで最大428Gの暗号化メモリを搭載でき、主要なデータとコードのプライバシーとセキュリティを保障します。

プロセッサとメモリの比率は1：8で、メモリ内の暗号化メモリの占有率は約50%です。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは、その仕様によって異なります。仕様が低いほど、ネットワーク転送パフォーマンスが向上し、プライベートネットワークの帯域幅の上限が高くなります。

ユースケース_8">ユースケース

これらのインスタンスは次のシナリオに最も適しています。

データの共有と計算では、異なるユーザー間またはメーカー間の機密データ共有を保護可能

ブロックチェーンアプリケーションでは、トランザクション、キーStorage等のプライバシーとセキュリティを強化可能

高セキュリティ高信頼性が必要なケース、金融、政府機関、医療など

コンフィデンシャル・コンピューティングのケース、データ暗号化アプリケーション

インスタンス要件

M6ceインスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのM6ceインスタンスの起動のみをサポートします。

M6ceインスタンスは購入設定をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。

説明：

Intel SGX Enclaveでハードウェアとバインドされるキーストレージの暗号化データ（SGX Sealing等）を使用している場合、以下のケースではホストに変更が加えられると対応データを復号することができなくなります。アプリケーション層でデータバックアップを実行して、アプリケーションの信頼性を確保することをお勧めします。ホストに変更が加えられる可能性があるケース：ホストの故障、インスタンス仕様の調整、停止済みインスタンスの非課金化機能の使用、インスタンス設定グループの変更等。

セキュリティ強化されたメモリ型M6ceインスタンスの使用方法に関する詳細情報は、[SGXコンフィデンシャル・コンピューティング環境の構築](#)をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	コン フィデ ンシャ ルメモ リを含 む (GB)	パケッ トの受 信およ び転送 (pps) (アウ トバウ ンド+イ ンバウ ンド)	接 続 数	キュー 数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウ トバウ ンド+イ ンバウ ンド)	CPU周 数
M6ce.MEDIUM16	2	16	8	30万	25 万	2	2	2.7/3.5
M6ce.LARGE32	4	32	16	60万	50 万	4	4	2.7/3.5
M6ce.2XLARGE64	8	64	32	120万	100 万	8	7	2.7/3.5
M6ce.4XLARGE128	16	128	64	250万	200 万	16	13	2.7/3.5
M6ce.8XLARGE256	32	256	128	500万	400 万	32	26	2.7/3.5
M6ce.31MEDIUM428	62	428	214	1000万	800 万	48	50	2.7/3.5
M6ce.31XLARGE856	124	856	428	1900万	800 万	48	100	2.7/3.5

メモリ型 M5

メモリ型 M5 インスタンスは、最新世代のメモリ型インスタンスで、新しい最適化された仮想化プラットフォームに基づき、メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的とし、ハイメモリコンピューティングを必要とするアプリケーションに最適です。

特徴

Intel® Xeon® Cascade Lake または Intel® Xeon® Cooper Lake プロセッサ、クロック周波数 2.5GHz、ターボ 3.1GHz を採用。

新しい Intel Advanced Vector Extension (AVX-512) 命令セットを採用。

プロセッサとメモリの比率は 1:8。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝子コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

インスタンス要件

M5インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

M5インスタンスはVPCでのみ起動できます。

M5インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	接 続 数	キュー の数	プ ライ ベ ー ト ネ ット ワ ーク 帯 域 幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	CPU周 波数	備 考
M5.SMALL8	1	8	25万	25 万	1	1.5	2.5GHz	-
M5.MEDIUM16	2	16	30万	25 万	2	1.5	2.5GHz	-
M5.LARGE32	4	32	50万	25 万	2	1.5	2.5GHz	-
M5.2XLARGE64	8	64	80万	25 万	2	3.0	2.5GHz	-
M5.3XLARGE96	12	96	100万	25 万	3	5.0	2.5GHz	-
M5.4XLARGE128	16	128	150万	30 万	4	6.0	2.5GHz	-

M5.8XLARGE256	32	256	250万	60万	8	12.0	2.5GHz	-
M5.16XLARGE512	64	512	500万	120万	16	23.0	2.5GHz	-

メモリ型 MA2

メモリ型MA2インスタンスは、最新世代のメモリ型インスタンスで、新しい最適化された仮想化プラットフォームをベースとしています。メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的としており、ハイメモリコンピューティングアプリケーションにとって最適な選択です。

特徴

Tencent Cloudが自社開発した星星海サーバーをベースとして、信頼性、安全性、安定性の高いパフォーマンスを提供。

AMD EPYC™ ROMEプロセッサを採用、クロック周波数2.6GHz、ターボ3.3GHz。

プロセッサとメモリの比率は1:8。

同一サイズのメモリインスタンス、最低価格を実現。

インスタンスのネットワーク性能は仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送性能、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに非常に適しています。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝的コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

ビデオ弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

インスタンス要件

MA2インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのMA2インスタンスの起動のみをサポートします。

MA2インスタンスは購入構成をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	接 続 数	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド)	CPU周 波数	備 考
----	------	-------------	---	-------------	-----------	--	------------	--------

						+インバウンド)		
MA2.SMALL8	1	8	25万	25万	1	1.5	2.6GHz	-
MA2.LARGE32	4	32	50万	25万	4	1.5	2.6GHz	-
MA2.2XLARGE64	8	64	70万	25万	8	1.5	2.6GHz	-
MA2. 2XLARGE384	8	384	70万	25万	8	1.5	2.6GHz	-
MA2.4 XLARGE128	16	128	100万	30万	16	3	2.6GHz	-
MA2.8 XLARGE256	32	256	140万	70万	32	5	2.6GHz	-
MA2.12XLARGE384	48	384	210万	100万	48	7	2.6GHz	-

メモリ型 M4

メモリ型 M4は、次世代メモリ型インスタンスで、メモリ内の大規模なデータセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的とし、ハイメモリコンピューティングが必要なアプリケーションに最適です。

メモリ型 M4インスタンスは、最新のXeon®Skylakeプロセッサと最新のDDR4メモリを使用しており、デフォルトのネットワークは最適化され、最大プライベートネットワーク送受信能力は600万ppsに達し、最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝子コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

弾幕、ライブストリーミング、ゲームなどの高いネットワークパケット送受信シーン。

特徴

2.4GHz Intel® Xeon® Skylake 6148プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、帯域幅2666MT/sを実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるM4.16XLARGE512は64vCPUと512GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:8、一部は1:12。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

インスタンス要件

M4インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

M4インスタンスはVPCでのみ起動できます。

M4インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライベ ートネット ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	CPU周 波数	備 考
M4.SMALL8	1	8	25万	1	1.5	2.4GHz	-
M4.MEDIUM16	2	16	30万	2	1.5	2.4GHz	-
M4.LARGE32	4	32	50万	2	1.5	2.4GHz	-
M4.2XLARGE64	8	64	80万	2	3.0	2.4GHz	-
M4.3XLARGE96	12	96	100万	3	4.0	2.4GHz	-
M4.3XLARGE144	12	144	100万	3	4.0	2.4GHz	-
M4.4XLARGE128	16	128	150万	4	6.0	2.4GHz	-
M4.4XLARGE192	16	192	150万	4	6.0	2.4GHz	-
M4.8XLARGE256	32	256	250万	8	11.0	2.4GHz	-
M4.8XLARGE384	32	384	250万	8	11.0	2.4GHz	-
M4.16XLARGE512	64	512	500万	16	22.0	2.4GHz	-
M4.18XLARGE648	72	648	600万	16	24.0	2.4GHz	-

メモリ型 M3

メモリ型 M3 インスタンスは、比較的新しい世代のメモリ型インスタンスで、メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的とし、ハイメモリコンピューティングが必要なアプリケーションに最適です。

メモリ型 M3 インスタンスは最新のXeon®Skylakeプロセッサを使用し、メモリには最新のDDR4を使用しており、最大10Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝子コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Skylake 6133プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、帯域幅2666MT/sを実現。

さらに大きなインスタンス仕様であるM3.16XLARGE512は64vCPUと512GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:8、一部は1:12。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

インスタンス要件

M3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

M3インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

M3インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド+インバウンド)	キューの数	プライベートネットワーク帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周波数	備考
M3.SMALL8	1	8	30万	1	1.5	2.5GHz	-
M3.MEDIUM16	2	16	40万	2	1.5	2.5GHz	-

M3.LARGE32	4	32	80万	4	1.5	2.5GHz	-
M3.2XLARGE64	8	64	120万	8	1.5	2.5GHz	-
M3.3XLARGE96	12	96	120万	12	1.5	2.5GHz	-
M3.3XLARGE144	12	144	120万	12	1.5	2.5GHz	-
M3.4XLARGE128	16	128	120万	16	2.0	2.5GHz	-
M3.4XLARGE192	16	192	120万	16	2.0	2.5GHz	-
M3.8XLARGE256	32	256	120万	16	4.0	2.5GHz	-
M3.8XLARGE384	32	384	120万	16	4.0	2.5GHz	-
M3.16XLARGE512	64	512	120万	16	8.0	2.5GHz	-

メモリ型 M2

メモリ型 M2 インスタンスは、メモリ内の大型データセットを処理するワークロードに高速で安定したパフォーマンスを提供することを目的としています。大容量メモリを備えているため、ハイメモリコンピューティングを必要とするアプリケーションに最適です。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝子コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

特徴

2.4GHz Intel® Xeon® E5-2680v4 プロセッサ、DDR4メモリを搭載。

最大448GBのメモリ販売を提供でき、M2.14XLARGE448は56vCPUと448GBのメモリを提供。

プロセッサとメモリの比率は1:8。

同一サイズのメモリインスタンスの最低価格を実現。

インスタンス要件

M2 インスタンスは従量課金インスタンスとして使用でき、CVM Dedicated Hostのメモリ最適化ホストHM20の本番インスタンスとして使用することもできます。

M2 インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

M2 インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ	パケットの	キュー	プライベート	CPU周	備
----	------	-----	-------	-----	--------	------	---

		(GB)	受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イ ンバウン ド)	の数	ネットワーク 帯域幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イ ンバウン ド)	波数	考
M2.SMALL8	1	8	20万	1	1.5	2.4GHz	-
M2.MEDIUM16	2	16	25万	2	1.5	2.4GHz	-
M2.LARGE32	4	32	45万	4	1.5	2.4GHz	-
M2.2XLARGE64	8	64	50万	8	1.5	2.4GHz	-
M2.3XLARGE96	12	96	50万	8	2.5	2.4GHz	-
M2.4XLARGE128	16	128	50万	8	3.0	2.4GHz	-
M2.6XLARGE192	24	192	70万	8	4.5	2.4GHz	-
M2.8XLARGE256	32	256	70万	8	6.0	2.4GHz	-
M2.12XLARGE384	48	384	70万	8	9.0	2.4GHz	-
M2.14XLARGE448	56	448	70万	8	10.0	2.4GHz	-

メモリ型 M1

メモリ型 M1 インスタンスには、CPUとメモリの比率が約1:8のモデルであり、高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーションに対応。

特徴

2.3GHz Intel Xeon® E5-2670 v3プロセッサ、DDR3メモリ搭載、ユーザーにさらに大きなインスタンス仕様を提供するため、コンピューティング能力を強化。

メモリ集約型アプリケーションの黄金比率で、大規模なビジネスデプロイに対応。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

高性能データベース、分散メモリキャッシュなど、大量のメモリ操作、検索およびコンピューティングが必要なアプリケーション。

遺伝子コンピューティングなど、自身でHadoopクラスターまたはRedisを構築するユーザー。

インスタンス要件

M1インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

M1インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

インスタンス仕様リスト中の「-」は、当該仕様のネットワーク送受信パケットとプロセッサクロック周波数に特定のパフォーマンスコミットがないことを示します。パフォーマンスの適合性に対する強い要望がある場合は、パフォーマンスにコミットしたモデルのご購入を推奨します。

M1インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライベート ネットワーク 帯域幅 (Gbps) (ア ウトバウンド +インバウン ド)	CPU周 波数	備 考
M1.SMALL8	1	8	-	1	1.5	2.3GHz	-
M1.MEDIUM16	2	16	-	2	1.5	2.3GHz	-
M1.LARGE32	4	32	-	4	1.5	2.3GHz	-
M1.2XLARGE64	8	64	-	8	2.0	2.3GHz	-
M1.3XLARGE96	12	96	-	8	2.5	2.3GHz	-
M1.4XLARGE128	16	128	-	8	3.5	2.3GHz	-
M1.6XLARGE192	24	192	-	8	5.0	2.3GHz	-
M1.8XLARGE256	32	256	-	8	7.0	2.3GHz	-
M1.12XLARGE368	48	368	-	8	10.0	2.3GHz	-

説明：

M1 インスタンス仕様リスト中の「-」は、当該仕様のパケット転送速度に特定のパフォーマンスコミットがないことを示します。パフォーマンスの適合性に対する強い要望がある場合は、パフォーマンスにコミットしたモデルのご購入を推奨します。

ハイ I/O型インスタンスファミリー

ハイ I/Oインスタンスは、高いランダムIOPS、高スループット、低アクセスレイテンシーなどの特長を備え、ハードディスクの読み取り/書き込みやレイテンシー要件が高い高性能データベースなど、I/O集約型のアプリケー

ションに最適

説明：

IT3およびIT5インスタンスのデータディスクはローカルに保存されており、データが失われるリスクがあります（ホストがダウンしている場合など）。アプリケーションでデータ信頼性を有するアーキテクチャを実装できない場合、IT3またはIT5インスタンスの使用はお勧めしません。データディスクとしてCBSを選択できるインスタンスを使用することを強くお勧めします。

ハイ I/O型IT5

ハイ I/O型IT5インスタンスはI/O集約型のワークロードに特化して設計された最新世代のハイ I/O型インスタンスです。NVMe SSDインスタンスストレージに基づき、低レイテンシー、高いIOPS、高スループットのストレージリソースを提供します。最大205万IOPSおよび11GB/sスループット能力を提供し、低コストで非常に高いIOPSを提供します。このインスタンスタイプは、高性能リレーショナルデータベースやElasticsearchなどのI/O集約型ビジネスに最適です。

ユースケース

高性能データベース、NoSQLデータベース（MongoDBなど）、クラスター化されたデータベース。オンライントランザクション処理（OLTP）システム、Elastic Searchなどの低レイテンシーが必要とされるI/O集約型アプリケーション。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Cascade Lakeプロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載。

最大23Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

NVMe SSDのインスタンスストレージを採用し、低レイテンシー、非常に高いIOPSを提供。

最大65万IOPS（4KBブロックサイズ）に達するシングルディスクのランダム読み取りパフォーマンス、最大2.8GB/s（128KBブロックサイズ）に達するシーケンシャル読み取りスループット能力。

最大205万IOPS（4KBブロックサイズ）に達するCVM全体のランダム読み取りパフォーマンス、最大11GB/s（128KBブロックサイズ）に達するシーケンシャル読み取りスループット能力。

インスタンス要件

ローカルハードディスクが破損している場合は、ローカルハードディスクの交換を実行する前に、CVMインスタンスのシャットダウン操作を実行する必要があります。

CVMインスタンスがダウンした場合は、メンテナンス操作の実行を通知します。

監視コンポーネントをインストールしていない場合は、CVMインスタンスに対する詳細な監視が実行できません。CVMインスタンスに障害が発生した場合は、通知を受け取ることができず、リスクが高くなります。監視コンポーネントのインストールのその他詳細な内容については、[CVM監視コンポーネントのインストール](#)に関するドキュメントをご参照ください。

IT5インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

IT5インスタンスはVPCでのみ起動できます。

IT5インスタンスは構成の調整をサポートしていません。

IT5インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イ ンバウン ド)	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	CPU周 波数	備考
IT5.4XLARGE64	16	64	150万	4	6	2.5GHz	1 x 3570GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク
IT5.8XLARGE128	32	128	250万	8	12	2.5GHz	2 x 3570GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク
IT5.16XLARGE256	64	256	500万	16	23	2.5GHz	4 x 3570GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク

ハイ I/O型IT3

ハイ I/O型IT3インスタンスはI/O集約型のワークロードに特化して設計された次世代ハイ I/Oインスタンスです。

NVMe SSDインスタンスストレージに基づき、低レイテンシー、極めて高いIOPS、高スループットのストレージ

リソースを提供します。最大180万IOPSおよび11GB/sスループット能力を提供し、低コストで非常に高いIOPSを提供します。高性能リレーショナルデータベースやElasticsearchなどのIO集約型ビジネスに最適です。IT3インスタンスは安価で高密度のストレージを提供し、各CPUコアに高いIOPSとより大きなプライベートネットワーク帯域幅を提供することができます。

ユースケース

高性能データベース、NoSQLデータベース（MongoDBなど）、クラスター化されたデータベース。オンライントランザクション処理（OLTP）システム、Elastic Searchなどの低レイテンシーが必要とされるI/O集約型アプリケーション。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Skylake 6133プロセッサを搭載し、安定したコンピューティングパフォーマンスを実現。最新世代の6チャンネルDDR4メモリ。

最大23Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

NVMe SSDのインスタンスストレージを採用し、低レイテンシー、極めて高いIOPSを提供。

最大62万IOPS（4KBブロックサイズ）に達するシングルディスクのランダム読み取りパフォーマンス、最大2.9GB/s（128KBブロックサイズ）に達するシーケンシャル読み取りスループット能力。

最大180万IOPS（4KBブロックサイズ）に達するCVM全体のランダム読み取りパフォーマンス、最大11GB/s（128KBブロックサイズ）に達するシーケンシャル読み取りスループット能力。

インスタンス要件

ローカルハードディスクが破損している場合は、ローカルハードディスクの交換を実行する前に、CVMインスタンスのシャットダウン操作を実行する必要があります。

CVMインスタンスがダウンした場合は、メンテナンス操作の実行を通知します。

監視コンポーネントをインストールしていない場合は、CVMインスタンスに対する詳細な監視が実行できません。CVMインスタンスに障害が発生した場合は、通知を受け取ることができず、リスクが高くなります。監視コンポーネントのインストールのその他詳細な内容については、[CVM監視コンポーネントのインストール](#)に関するドキュメントをご参照ください。

IT3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

IT3インスタンスはVPCでのみ起動できます。

IT3インスタンスは構成の調整をサポートしていません。

IT3インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信および転送 (pps) (アウト	キュー の数	プライベート ネットワーク帯域 幅 (Gbps)	CPU周 波数	備考
----	------	-------------	-----------------------------------	-----------	-----------------------------------	------------	----

			バウンド +インバ ウンド)		(アウトバ ウンド+イ ンバウン ド)		
IT3.4XLARGE64	16	64	150万	4	6	2.5GHz	1 x 3720GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク
IT3.8XLARGE128	32	128	250万	8	12	2.5GHz	2 x 3720GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク
IT3.16XLARGE256	64	256	500万	16	23	2.5GHz	4 x 3720GB ローカル NVMe SSDハー ドディス ク

ビッグデータ型インスタンスファミリー

ビッグデータ型インスタンスはマストレージリソースを搭載し、高スループットの特長を備え、Hadoop分散コンピューティング、大量のログ処理、分散ファイルシステム、大型データウェアハウスなど、スループット集約型アプリケーションに適しています。

説明：

ビッグデータ型D3、D2インスタンスのデータディスクはローカルハードディスクであることから、データが失われるリスクがあります（ホストがダウンしている場合など）。自身のアプリケーションでデータ信頼性の高いアーキテクチャを構築できない場合は、CBSをデータディスクとして選択できるインスタンスの使用を強く推奨します。

ビッグデータ型D3

ビッグデータ型D3インスタンスは、最新世代のビッグデータインスタンスで、高スループットのマスタストレージリソースを装備し、最大94T SATA HDDローカルストレージを搭載することが可能です。Hadoop分散コンピューティング、並列データ処理など、スループット集約型サービスへの使用に適しています。

ユースケース

Hadoop MapReduce/HDFS/Hive/HBaseなどの分散コンピューティング。

Elasticsearch、ログ処理および大型データウェアハウスなどのビジネスシーンの設計。

インターネット業界、金融業界などのビッグデータコンピューティングとストレージ分析ニーズのある業界の顧客が、マスターストレージとコンピューティングを実施するビジネスシーン。

特徴

2.5GHz Intel® Xeon® Cascade Lakeプロセッサ、DDR4メモリ。

インスタンスに最大24個の4TBローカルハードディスクを搭載し、最大94TBのHDDベースのローカルストレージを装備。

単一ディスクのシーケンスリードのスループットパフォーマンスは190MB/s以上。

ミリ秒レベルのリード/ライトのレイテンシー。

プロセッサとメモリの比率は1:4で、ビッグデータシーンのための設計。

インスタンス要件

ローカルハードディスクが破損している場合は、ローカルハードディスクを交換する前に、CVMインスタンスのシャットダウン操作を実行する必要があります。

CVMインスタンスがダウンした場合は、メンテナンス操作の実行を通知します。

D3インスタンスにモニタリング用コンポーネントをインストールしていない場合は、プラットフォームはインスタンスの詳細なモニタリングを実行できません。インスタンスに障害が発生した場合は正しく通知されず、高いリスクが生じる恐れがあります。[CVMモニタリングユニットのインストール](#)を参照してモニタリングユニットのインストールを完了してください。

ビッグデータ型D3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのD3インスタンスの起動のみをサポートします。

D3インスタンスは設定の調整をサポートしていません。

D3インスタンスは購入設定をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド+イ	接続 数	キュー の数	プライベート ネットワーク帯 域幅 (Gbps) (アウトバウンド	CPU周 波数	備考

			ンバウ ンド)			+インバ ウンド)		
D3.2XLARGE32	8	32	80万	25 万	2	4.0	2.5GHz	4個の 3720GB SATA HDD ローカ ルハー ドディ スクを 搭載
D3.4XLARGE64	16	64	150万	30 万	4	7.0	2.5GHz	8個の 3720GB SATA HDD ローカ ルハー ドディ スクを 搭載
D3.8XLARGE128	32	128	250万	60 万	8	14.0	2.5GHz	12個の 3720GB SATA HDD ローカ ルハー ドディ スクを 搭載
D3.16XLARGE256	64	256	500万	120 万	12	27.0	2.5GHz	24個の 3720GB SATA HDD ローカ ルハー ドディ スクを 搭載
D3.21XLARGE320	84	320	600万	160 万	16	32.0	2.5GHz	24個の 3720GB SATA

								HDD ローカル ハード ディスクを 搭載
--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------------

ビッグデータ型D2

ビッグデータ型D2インスタンスは、次世代のビッグデータインスタンスで、高スループットのマストレージリソースを装備し、最大144T SATA HDDローカルストレージを搭載することが可能です。Hadoop分散コンピューティング、並列データ処理など、スループット集約型サービスへの使用に適しています。

ユースケース

Hadoop MapReduce/HDFS/Hive/HBaseなどの分散コンピューティング。

Elasticsearch、ログ処理および大型データウェアハウスなどのワークロード。

インターネット業界、金融業界などのビッグデータコンピューティングとストレージ分析ニーズのある業界の顧客が、マスターストレージとコンピューティングを実施するビジネスシーン。

特徴

2.4GHz Intel® Xeon® Skylake 6148プロセッサ、DDR4メモリを搭載。

インスタンスに最大12個の12TBローカルハードディスクを搭載し、最大144TBのHDDベースのローカルストレージを装備。

220 + MB/sに達するシングルディスクのシーケンシャル読み取りスループット能力、220 + MB/s（ブロックサイズ128KB、ビット深度32）に達するシーケンシャル書き込みスループット能力。

最大2.8GB/s（ブロックサイズ128KB、ビット深度32）に達するマシン全体のスループット能力。

2ms - 5msの読み取り/書き込みレイテンシー。

さらに大きなインスタンス仕様であるD2.19XLARGE320は最大76vCPUと320GBのメモリを提供。

ローカルストレージの単価はS2の1/10と低価格で、IDC自作Hadoopクラスターに近い総コストを実現。

プロセッサとメモリの比率は1：4で、ビッグデータシーンのための設計。

インスタンス要件

ローカルハードディスクが破損している場合は、ローカルハードディスクの交換を実行する前に、CVMインスタンスのシャットダウン操作を実行する必要があります。

CVMインスタンスがダウンした場合は、メンテナンス操作の実行を通知します。

ビッグデータ型D2インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

D2インスタンスはVPCでのみ起動できます。

D2インスタンスは構成の調整をサポートしていません。

D2インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバウ ンド)	CPU周 波数	備考
D2.2XLARGE32	8	32	80万	2	3.0	2.4GHz	1個の 11176GB SATA HDDロー カルハー ドディス ク
D2.4XLARGE64	16	64	150万	4	6.0	2.4GHz	2個の 11176GB SATA HDDロー カルハー ドディス ク
D2.6XLARGE96	24	96	200万	6	8.0	2.4GHz	3個の 11176GB SATA HDDロー カルハー ドディス ク
D2.8XLARGE128	32	128	250万	8	11.0	2.4GHz	4個の 11176GB SATA HDDロー カルハー ドディス ク
D2.16XLARGE256	64	256	500万	16	22.0	2.4GHz	8個の 11176GB SATA

							HDDローカルハードディスク
D2.19XLARGE320	76	320	600万	16	25.0	2.4GHz	12個の11176GB SATA HDDローカルハードディスク

コンピューティング型インスタンスファミリー

計算型インスタンスは、最大3.8GHzのCPU周波数を提供し、最高のシングルコアコンピューティング性能を備えています。バッチ処理、ハイパフォーマンスコンピューティング、大規模ゲームサーバーなど、コンピューティング集約型アプリケーションに適しています

コンピューティング型C6

コンピューティング型C6インスタンスは、まったく新しい仮想化プラットフォームをベースとしています。最新世代のコンピューティング型インスタンスであり、安定した信頼性の高いコンピューティングサービスを提供し、より広い帯域幅、より大きなスループット、より少ないレイテンシを実現します。CVMの中で最も強力なプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高いコンピューティングパフォーマンスと高い同時読み取り/書き込みを必要とするアプリケーションに最適です。

コンピューティング型C6インスタンスには、最新のIntel® Xeon® プロセッサが搭載されており、最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートします。

説明：

このインスタンスタイプは、ホワイトリストに登録されたユーザーのみが利用できるようになりました。アカウントマネージャーに連絡して購入してください。

特徴

Tencent Cloudによって開発された新世代の双方向通信対応のStar Lakeサーバと新しい第3世代インテル® Xeon® スケーラブルプロセッサを採用。

CPU周波数3.2GHz、ターボ周波数3.5GHzのIntel® Xeon® Ice Lakeプロセッサを搭載。

1：2や1：4などのさまざまなプロセッサとメモリの比率を提供。

最大100Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、超高速パケット転送速度により、高いプライベートネットワーク伝送要件を満たす。

あらゆる種類のクラウドディスクをサポート。

ユースケース

コンピューティング型C6インスタンスは次のシナリオに適しています：

バッチ処理ワークロード、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）。

トラフィック量の多いWebフロントエンドサーバー。

MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバーなど、コンピューティング集約型サービス。

インスタンス要件

C6インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

VPCでのC6インスタンスの起動のみをサポートします。

利用可能なC6仕様については、以下を参照してください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps)	接続数	キュー数	プライベートネットワーク帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周波数	備考
C6.LARGE8	4	8	80万	60万	4	5	3.2GHz	-
C6.LARGE16	4	16	80万	60万	4	5	3.2GHz	-
C6.2XLARGE16	8	16	160万	130万	8	9	3.2GHz	-
C6.2XLARGE32	8	32	160万	130万	8	9	3.2GHz	-
C6.4XLARGE32	16	32	330万	270万	16	18	3.2GHz	-
C6.4XLARGE64	16	64	330万	270万	16	18	3.2GHz	-
C6.8XLARGE128	32	128	660万	550万	32	35	3.2GHz	-
C6.23MEDIUM216	46	216	950万	800万	46	50	3.2GHz	-

C6.16XLARGE256	64	256	1300万	1100万	48	70	3.2GHz	-
C6.20XLARGE320	80	320	1600万	1390万	48	87	3.2GHz	-
C6.23XLARGE432	92	432	1900万	1600万	48	100	3.2GHz	-

コンピューティング型C5

コンピューティング型C5インスタンスは、新世代の仮想化プラットフォームをベースとしています。最新世代の計算型インスタンスであり、安定した信頼性の高いハイパフォーマンスコンピューティングサービスを提供し、より広い帯域幅と低遅延を備えています。CVMで最高の基準周波数のプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高速コンピューティング性能や高速同時リード/ライトなど、コンピューティングの制限を受けるアプリケーションにとって理想的な選択です。

コンピューティング型C5インスタンスは、Xeon®プロセッサCooper Lakeというまったく新しいプロセッサを採用しています。

説明：

このインスタンスはホワイトリストで一時的に公開されています。プリセールスマネージャーに、インスタンスの購入権限を有効にするよう依頼してください。

特徴

Intel® Xeon® Cooper Lakeプロセッサ、基本周波数3.4GHz、ターボ3.8GHz。

まったく新しいIntel Brain Floating Point 16-bit (bfloat16) 命令セットを搭載。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワーク性能は仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送性能、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCBSに対応。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

バッチ処理ワークロード、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）。

高トラフィックWebフロントエンドサーバー。

MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバーなど、その他のコンピューティング集約型サービス。

インスタンス要件

C5インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

基本ネットワークとVPCでのC5インスタンスの起動をサポートします。

C5インスタンスは購入設定をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケット の受信お よび転送 (pps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	接 続 数	キュー の数	プライ ベート ネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウト バウンド +インバ ウンド)	CPU周 波数	備 考
C5.LARGE8	4	8	50万	25 万	4	1.5	3.4GHz	-
C5.LARGE16	4	16	50万	25 万	4	1.5	3.4GHz	-
C5.2XLARGE16	8	16	80万	25 万	8	3.0	3.4GHz	-
C5.2XLARGE32	8	32	80万	25 万	8	3.0	3.4GHz	-
C5.4XLARGE32	16	32	150万	30 万	8	6.0	3.4GHz	-
C5.4XLARGE64	16	64	150万	30 万	8	6.0	3.4GHz	-
C5.8XLARGE64	32	64	250万	60 万	16	12.0	3.4GHz	-
C5.8XLARGE128	32	128	250万	60 万	16	12.0	3.4GHz	-
C5.12XLARGE96	48	96	400万	90 万	24	18.0	3.4GHz	-
C5.12XLARGE192	48	192	400万	90 万	24	18.0	3.4GHz	-
C5.13XLARGE184	52	184	400万	100 万	32	19.0	3.4GHz	-
C5.16XLARGE256	64	256	500万	120	32	24.0	3.4GHz	-

				万				
C5.26XLARGE368	104	368	600万	200万	32	36.0	3.4GHz	-

コンピューティング型C4

コンピューティング型C4インスタンスは、最新世代の計算型インスタンスであり、プライベートネットワーク帯域幅が最大25Gbpsに達し、より広い帯域幅と低遅延を備えています。CVMで最高の基準周波数のプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高速コンピューティング性能や高速同時リード/ライトなど、コンピューティングの制限を受けるアプリケーションにとって理想的な選択です。

コンピューティング型C4インスタンスはXeon®プロセッサCascade Lakeの最新プロセッサを採用し、プライベートネットワーク帯域幅は最大25Gbpsに達します。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です：

バッチ処理ワークロード、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）。

高トラフィックWebフロントエンドサーバー。

MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバーおよびその他の計算集約型サービス。

特徴

3.2GHz Intel® Xeon® Cascade Lake プロセッサ、ターボ3.7GHz。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCBSに対応。

インスタンス要件

C4インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

基本ネットワークとVPCでのC4インスタンスの起動をサポートします。

C4インスタンスは購入構成をサポートします。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ	キュー の数	プライベ ートネッ トネット ワーク帯 域幅 (Gbps) (アウトバ	CPU周 波数	備考
----	------	-------------	-------------------------------------	-----------	--	------------	----

			ウンド+イン バウンド)		ウンド+イ ンバウン ド)		
C4.LARGE8	4	8	60万	4	2.0	3.2GHz	-
C4.LARGE16	4	16	60万	4	2.0	3.2GHz	-
C4.2XLARGE16	8	16	100万	8	4.0	3.2GHz	-
C4.2XLARGE32	8	32	100万	8	4.0	3.2GHz	-
C4.4XLARGE64	16	64	100万	16	7.0	3.2GHz	-
C4.8XLARGE174	32	174	100万	16	13.0	3.2GHz	-
C4.16XLARGE348	64	348	100万	16	25.0	3.2GHz	-

コンピューティング型CN3

コンピューティング型CN3インスタンスは、最新世代の計算型インスタンスであり、プライベートネットワーク帯域幅が最大25Gbpsに達し、より広い帯域幅と低遅延を備えています。CVMで最高の基準周波数のプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高速コンピューティングパフォーマンスや高速同時読み取り書き込みなど、コンピューティングによって制限されるアプリケーションに対し理想的な選択です。

コンピューティング型CN3インスタンスは最新のXeon®Skylakeプロセッサと最新のDDR4メモリを使用し、最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、コンピューティング型C3の2.5倍を実現しました。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

バッチ処理ワークロード、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）。

高トラフィックのWebフロントエンドサーバー。

MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバーおよびその他のコンピューティング集約型サービス。

特徴

3.2GHz Intel® Xeon® Skylake 6146プロセッサを搭載。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

最大25Gbpsのプライベートネットワーク帯域幅をサポートし、極めて高度なプライベートネットワーク伝送ニーズに対応。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

インスタンス要件

CN3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

C3インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

C3インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライベ ートネット ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	CPU周 波数	備 考
CN3.LARGE8	4	8	60万	4	3.0	3.2GHz	-
CN3.LARGE16	4	16	60万	4	3.0	3.2GHz	-
CN3.2XLARGE16	8	16	100万	8	5.0	3.2GHz	-
CN3.2XLARGE32	8	32	100万	8	5.0	3.2GHz	-
CN3.4XLARGE32	16	32	100万	16	9.0	3.2GHz	-
CN3.4XLARGE64	16	64	100万	16	9.0	3.2GHz	-
CN3.8XLARGE64	32	64	100万	16	17.0	3.2GHz	-
CN3.8XLARGE128	32	128	100万	16	17.0	3.2GHz	-
CN3.12XLARGE160	48	160	100万	16	25.0	3.2GHz	-

コンピューティング型C3

コンピューティング型C3インスタンスは最新世代の計算型インスタンスであり、CVMで最高の基準周波数のプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高速コンピューティングパフォーマンスや高速同時読み取り書き込みなど、コンピューティングによって制限されるアプリケーションに対し理想的な選択です。

コンピューティング型C3インスタンスには、最新のXeon®Skylakeプロセッサ、DDR4メモリを使用しており、より高いプライベートネットワーク帯域幅をサポートしています。

ユースケース

これらのインスタンスは次のシーンに最適です。

バッチ処理ワークロード、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）。

高トラフィックのWebフロントエンドサーバー。

MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバーおよびその他のコンピューティング集約型サービス。

特徴

3.2GHz Intel® Xeon® Skylake 6146プロセッサを搭載。

新しいIntel Advanced Vector Extension (AVX-512)命令セットを採用。

最新世代の6チャンネルDDR4メモリを搭載し、メモリ帯域幅2666MT/sを実現。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

インスタンス要件

C3インスタンスは従量課金インスタンスとして使用できます。

C3インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

C3インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの 受信および 転送 (pps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	キュー の数	プライベ ートネット ワーク帯域 幅 (Gbps) (アウトバ ウンド+イン バウンド)	CPU周 波数	備考
C3.LARGE8	4	8	60万	2	2.5	3.2GHz	-
C3.LARGE16	4	16	60万	2	2.5	3.2GHz	-
C3.2XLARGE16	8	16	100万	2	3.0	3.2GHz	-
C3.2XLARGE32	8	32	100万	2	3.0	3.2GHz	-
C3.4XLARGE32	16	32	100万	4	4.5	3.2GHz	-
C3.4XLARGE64	16	64	100万	4	4.5	3.2GHz	-
C3.8XLARGE64	32	64	100万	8	8.0	3.2GHz	-

C3.8XLARGE128	32	128	100万	8	8.0	3.2GHz	-
---------------	----	-----	------	---	-----	--------	---

コンピューティング型C2

コンピューティング型C2インスタンスは、最高性能のプロセッサと最高のコストパフォーマンスを提供し、高速コンピューティングパフォーマンスや高速同時読み取り書き込みなど、コンピューティングによって制限されるアプリケーションに対し理想的な選択です。

ユースケース

コンピューティング型C2は次のシーンに最適です。

バッチ処理ワークロード。

高トラフィックのWebサーバー、MMO（マッシブリー・マルチプレイヤー・オンライン）ゲームサーバー。

ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）およびその他のコンピューティング集約型アプリケーション。

特徴

3.2GHz Intel® Xeon® E5-2667v4プロセッサ、最大ターボ周波数が3.6GHz、DDR4メモリを搭載。

プロセッサとメモリの比率は1:2、1:4。

インスタンスのネットワークパフォーマンスは仕様に対応しており、仕様の高さに応じて、ネットワーク転送パフォーマンス、プライベートネットワーク帯域幅の上限も高くなります。

全種類のCloud Block Storageをサポート。

インスタンス要件

C2インスタンスは従量課金インスタンスとして使用でき、CVM Dedicated HostのコンピューティングホストHC20の本番インスタンスとして使用することもできます。

C2インスタンスは、基本ネットワークとVPCで起動できます。

C2インスタンスの構成を購入できます。下記インスタンス仕様をご参照ください。

[トップへ戻る](#)

仕様	vCPU	メモリ (GB)	パケットの受信および転送 (pps) (アウトバウンド+インバウンド)	キュー の数	プライベート ネットワーク 帯域幅 (Gbps) (アウトバウンド+インバウンド)	CPU周 波数	備考
C2.LARGE8	4	8	55万	4	2.5	3.2GHz	-
C2.LARGE16	4	16	55万	4	2.5	3.2GHz	-
C2.LARGE32	4	32	55万	4	2.5	3.2GHz	-

C2.2XLARGE16	8	16	55万	8	3.5	3.2GHz	-
C2.2XLARGE32	8	32	55万	8	3.5	3.2GHz	-
C2.4XLARGE32	16	32	85万	8	6.0	3.2GHz	-
C2.4XLARGE64	16	64	85万	8	6.0	3.2GHz	-
C2.8XLARGE96	32	96	85万	8	10.0	3.2GHz	-

異種コンピューティングインスタンスファミリー

異種コンピューティングインスタンスは、GPU、FPGAなどの異種ハードウェアを搭載し、リアルタイムの高速並列コンピューティング機能と浮動小数点演算機能を備え、ディープラーニング、計算科学、ビデオのコーデック、グラフィックワークステーションなどの高性能アプリケーションに最適です。

AMD GPUシリーズのインスタンスは、AMD FirePro S7150を採用し、優れたグラフィックス処理能力を提供します。リモートデスクトップ、3Dレンダリング、クラウドゲームなどのアプリケーションシーンでの最優先の選択肢です。

NVIDIA GPUシリーズのインスタンスは、前世代のM40、現在主流のP4/P40、および最新世代のV100などを含めたNVIDIA TeslaシリーズのGPUを採用し、優れた汎用コンピューティング能力を提供します。ディープラーニングの学習/推論、計算科学などのアプリケーションシーンでの最優先の選択肢です。 [NVIDIA GPUシリーズインスタンス >](#)

ライフサイクル

最終更新日：2020-07-24 16:41:00

Tencent Cloud CVMインスタンスのライフサイクルは、インスタンスの起動からリリースまで経過した状態のことです。Tencent Cloudインスタンスの起動から廃棄までの期間を適切に管理することにより、インスタンスで実行されているアプリケーションが経済的かつ効率的にサービスを提供することを確保できます。

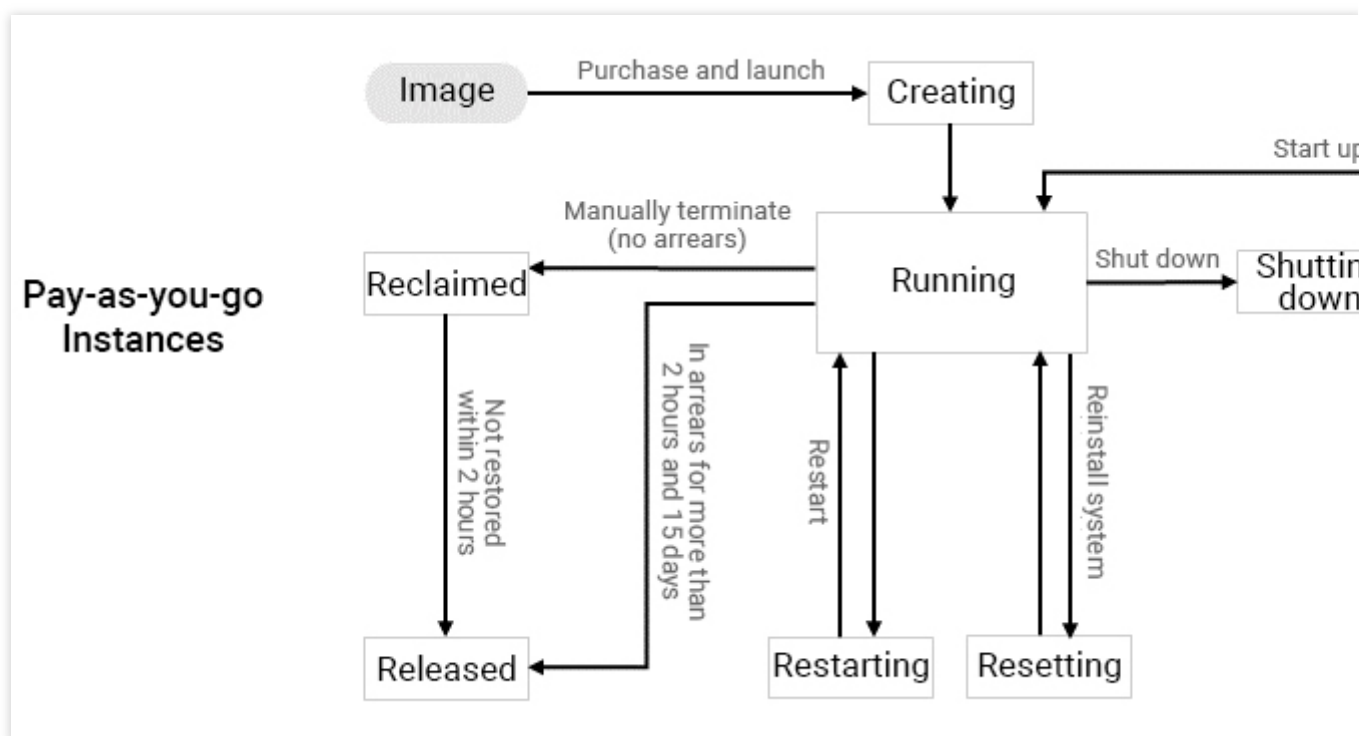
インスタンスの状態

インスタンスには次のような状態があります。

状態名	状態の属性	状態の説明
作成中	中間状態	インスタンスは作成されましたが、まだ実行されていません。
実行中	安定状態	インスタンスが正常に実行している状態で、ユーザがこの状態にあるインスタンスでサービスを実行することができます。
再起動中	中間状態	コンソールまたはAPIを介してインスタンスに対して再起動操作が実行されましたが、インスタンスはまだ実行されていません。長時間にこの状態にある場合は、異常が発生している可能性があります。
リセット中	中間状態	インスタンスはコンソールまたはAPIを介してシステムが再インストールされたか、そのディスクを再構成されましたが、インスタンスはまだ実行されていません。
シャットダウン中	中間状態	コンソールまたはAPIを介してインスタンスに対してシャットダウン操作が実行されましたが、インスタンスはまだシャットダウンされていません。長時間にこの状態にある場合は、異常が発生している可能性があります。また強制終了をお勧めしません。
シャット	安定状態	インスタンスは正常にシャットダウンされており、外部サービスを提供できません。インス

トダウンした	定状態	タンスの一部の属性はシャットダウン状態ではしか変更できません。
廃棄中	中間状態	インスタンスが有効期限が切れた日から7日後、或いはユーザーが積極的に廃棄操作を行った時に、廃棄がまだ完了されていない状態です。
回収済み	安定状態	手動で終了した従量課金インスタンスが2時間以内、ごみ箱に入った状態となり、この状態ではインスタンスは外部サービスを提供していません。
リリース済み	安定状態	リリース操作が実行され、元のインスタンスが存在しなく、サービスを提供できず、データが完全にクリアされました。

インスタンス状態間の遷移：



インスタンスの起動

インスタンスが起動すると、作成中状態になります。この状態では、ハードウェア仕様は指定された [インスタンスタイプ](#) に従って構成され、システムは起動時に指定されたイメージを使用してインスタンスを起動します。インスタンスは、作成後に実行状態になります。実行中の状態にあるインスタンスは、通常どおり接続してアクセスできます。

インスタンスの起動の詳細については、[インスタンスの作成](#)、[Windowsインスタンスへのログイン](#) 及び [Linuxインスタンスへのログイン](#) をご参照ください。

インスタンスの再起動

インスタンスでOSの再起動コマンドを実行することなく、Tencent CloudコンソールまたはTencent Cloud APIを介してインスタンスを再起動することをお勧めします。

インスタンスの再起動操作を行うと、インスタンスが再起動中の状態になります。

インスタンスを再起動することは、コンピューターを再起動することと同等です。再起動後にインスタンスはそのパブリックIPアドレス、プライベートIPアドレス及びディスクのすべてのデータを保持します。

インスタンスの再起動は一般的に数十秒から数分程度の時間がかかります。この時間は具体的にインスタンスの設定次第です。

インスタンスを再起動する方法の詳細については、[インスタンスの再起動](#) をご参照ください。

インスタンスのシャットダウン

ユーザーはコンソールまたはAPIなどの方法によりインスタンスをシャットダウンすることができます。

インスタンスのシャットダウンは、コンピューターのシャットダウンに相当しています。

シャットダウンしたインスタンスは外部サービスを提供しなくなりますが、課金が停止されません。

シャットダウンされたインスタンスは引き続きコンソールに表示されます。

ハードウェア構成の調整やパスワードのリセットなど、一部の構成操作にはシャットダウンが必要です。

シャットダウン操作そのものは、CVMのパブリックIPアドレス、プライベートIPアドレス及びディスクのすべてのデータを変更しません。

インスタンスのシャットダウンに関する詳細情報は、[インスタンスのシャットダウン](#) をご参照ください。

インスタンスの終了及びリリース

ユーザーがCVMインスタンスを必要としなくなった場合は、Tencent Cloud コンソールまたはAPIを介してインスタンスを終了およびリリースできます。

手動による終了：従量課金インスタンスは、ごみ箱で最大2時間まで保持された後に完全にリリースされます。

期限切れ/支払い延滞による自動終了：従量課金インスタンスは残高0以下の状態が2時間+15日間続くと、自動的にリリースされます（最初の2時間は引き続き課金され、その後の15日間はシャットダウンされ課金が停止されます。支払い延滞になった従量課金インスタンスはごみ箱に入れられなく、インスタンスリストで表示できます）。指定された期間以内に更新すると、インスタンスを引き続き使用できます。

インスタンスが終了すると、購入時に指定されたシステムディスクとデータディスクがそれに伴いリリースされるが、インスタンスにマウントされたクラウドディスクは影響を受けません。

インスタンスの終了に関する詳細情報は、 [インスタンスを終了/リターン](#) をご参照ください。

スポットインスタンス

最終更新日：2023-03-15 10:35:04

スポットインスタンスとは

スポットインスタンス（Spot）はCloud Virtual Machine（CVM）の課金モデルの1つです。その最も重要な特徴は、ディスカウント販売とシステム中断メカニズムです。具体的には、一定の値引きでインスタンスを購入できますが、それに対して、システムは自動的にディスカウント販売されたインスタンスを回収する可能性があります。スポットインスタンスを購入した場合、その利用（コンソール操作、リモートログイン、サービスデプロイ、VPCの関連付けなどを含む）は、従量課金のCVMインスタンスとほぼ同じです。

関連リンク：[FAQ > インスタンスについて > スポットインスタンス](#)

関連リンク：[スポットインスタンスの購入方法](#)

現段階の特殊ポリシー

在庫不足によるシステムの中断：現段階では、システムは市場価格により中断しませんが、スポットインスタンスリソースプールの在庫不足により中断することがあります。在庫不足の場合は、システムは割り当てたスポットインスタンスからランダムに回収します。この場合、インスタンスデータが保持されません。

全リージョンでのリリース：スポットインスタンスはほぼすべてのTencent Cloudリージョンでリリースされています。スポットインスタンスでサポートされるインスタンスタイプは、従量課金インスタンスでサポートされるインスタンスタイプと同じです。サポートしている最新のリージョンとインスタンスタイプについては、[スポットインスタンス - スポットインスタンス対応のリージョンとタイプ](#)をご参照ください。

製品の特徴

I. 高いコストパフォーマンス

CVM CPU MEM Items eligible for discount System disk Data disk Bandwidth/Traffic Paid Image *****	Guangzhou Zone 3 Take S2.2XLARGE16 as an example Unit: USD/hour	Pay-as-you-go Instances	Spot Instance (Take maximum as an example)
	CPU (8-core) MEM (16 GB)	0.38	
	System Disk (50 GB HDD disk)	0.01	
	Bandwidth (1 Mbps, bill-by-bandwidth)	0.06	
	Total Fee	0.45	

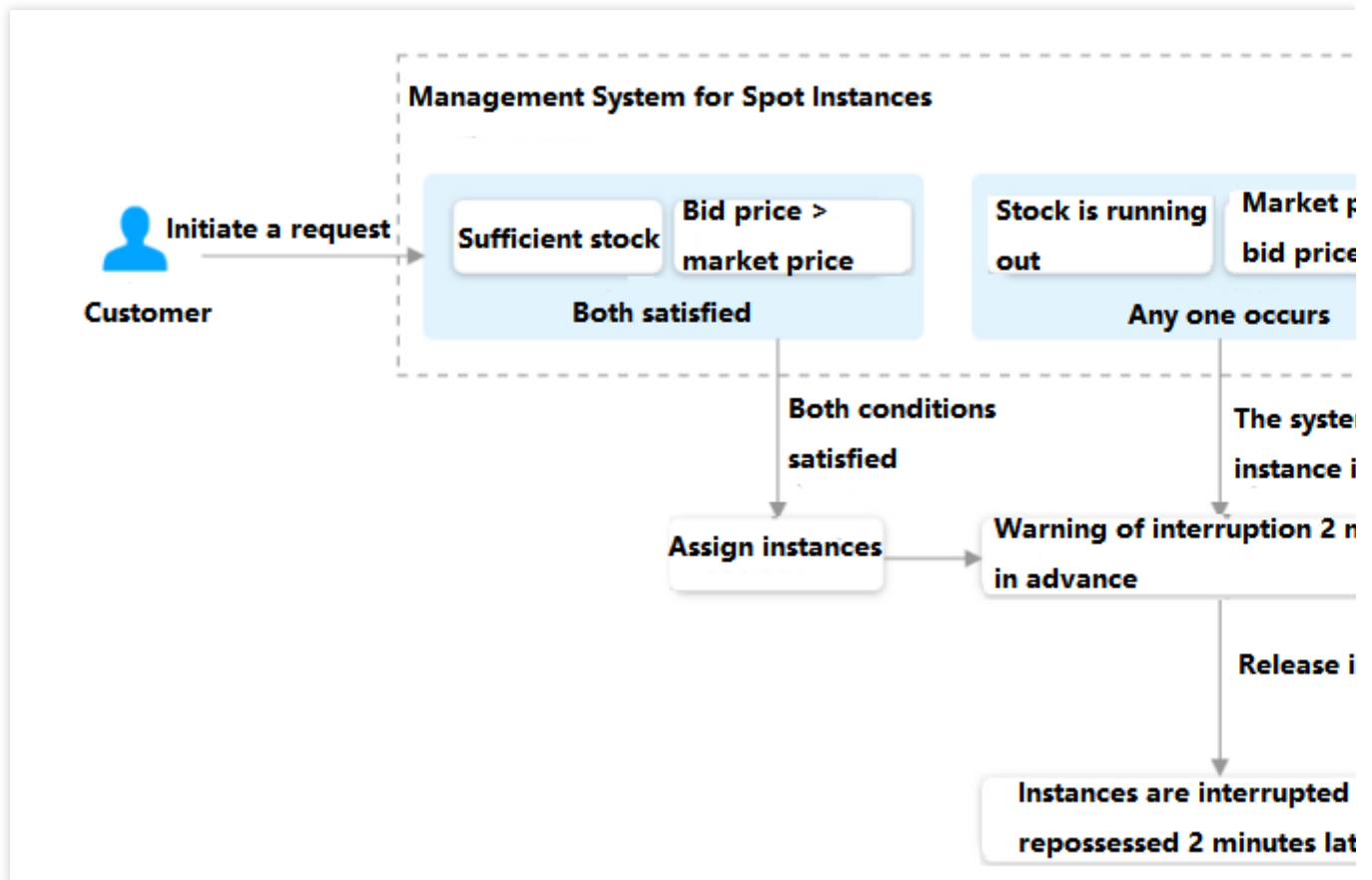
スポットインスタンスは、従量課金のインスタンスの割引価格で販売されており、最大95%オフです。

割引の幅：スポットインスタンスは、同じ仕様の従量課金インスタンスに比べ、最大95%オフのお得な価格で購入できます。

割引対象：割引対象はCVMのCPUとメモリのみです。システムディスク、データディスク、帯域幅、有料イメージなど、その他のCVMに関する課金項目は割引対象外とします。

価格変動：一定期間内にこの割引は変わりませんが、アベイラビリティゾーンで大量購入があった場合、価格が変わる可能性があります。

II. システム中断メカニズム



ユーザーのみがリリースできる従量課金制インスタンスとは異なり、スポットインスタンスは、システムによって中断されることがあります。システムは現在の価格とリソースプール等の総合的な状況に基づいて、割り当てられたスポット インスタンスを中断するかどうかを決定します。

在庫不足によるシステムの中断：現段階では、システムは市場価格により中断しませんが、スポットインスタンスリソースプールの在庫不足により中断することがあります。在庫不足の場合は、システムは割り当てたスポットインスタンスからランダムに回収します。この場合、インスタンスデータが保持されません。

適用しない運用シーン

スポットインスタンスは中断される可能性があるため、ユーザーはスポットインスタンスのライフサイクルを完全に把握できません。そのため、スポットインスタンスで高い安定性が要求されるサービスを実行しないことをお勧めします。例えば以下になります。

データベースサービス

ロードバランサーを使用しないオンライン サービスと Webサイト サービス

分散式アーキテクチャの中核であるマスターコントロールノード

長時間（10時間以上）のビッグデータコンピューティング作業

適用できる運用シーンと業界

運用シーン

ビッグデータコンピューティング

ロード バランサーを使用したオンライン サービスと Web サイト サービス

ネットワーククローラーサービス

細かい粒度コンピューティングシナリオ、またはチェックポイントからの再起動をサポートするコンピューティングシナリオ

業界

遺伝子配列解析及び分析

薬物結晶分析

ビデオのトランスコーディング、ビデオレンダリング

金融、取引データの分析

画像及びマルチメディアの処理

科学技術コンピューティング（地理、流体力学等）

制限

クォータ制限：CVMの台数制限とは違い、スポットインスタンスはユーザーのアベイラビリティゾーンにおけるスポットインスタンスのvCPUコアの総数をクォータ制限の指標としています。現段階では、各アカウントはアベイラビリティゾーンごとに最大vCPUコアの総数が50個であるスポットインスタンスを持つことが可能です（クォータを拡張するには、[チケット](#)で申請してください）。

購入制限：スポットインスタンスの購入には、[クーポン券](#)を使用できません。

操作制限1：スポットインスタンスは設定のアップグレード・ダウングレードをサポートしません。

操作制限3：スポットインスタンスはシャットダウン時無料をサポートしません。

操作制限4：スポットインスタンスはシステムの再インストールをサポートしません。

操作制限5：スポットインスタンスはシステムディスクとデータディスクの容量拡張をサポートしません。

ベストプラクティス

I. タスク粒度の切り分け

大きなタスクを小タスクに分割して、中断の可能性を低くします。

EMRのような切り分け思惟を持つビッグデータキットを利用します。

II. ロードバランサーによるオンラインとWebサービス安定性の確保

アクセスレイヤーでは、CLBなどのロードバランサーを使用します。

バックエンドリソースは一部の従量課金インスタンス + 大量のスポットインスタンスの組合せを使います。

スポットインスタンスの中断状況をモニタリングし、間もなく中断されるインスタンスをCLBから削除します。

III. チェックポイントからの再起動をサポートするコンピューティングスケジューリングモードの使用

コンピューティングの中間結果をCOS/CFS/NASなどの永続ストレージサービスに保存します。

インスタンスメタデータにより間もなく中断されるインスタンスを監視し、2分間の保留期間以内にコンピューティング結果を保存します。

スポットインスタンスが再起動すると、前回のコンピューティングを続けます。

ストレージ

ストレージ概要

最終更新日：：2020-07-24 17:15:20

Tencent CloudはCVMインスタンスに多様で経済的かつ使いやすい各種データストレージデバイスを提供しております。ストレージデバイス別にパフォーマンスと料金が異なり、さまざまなユースケースに適しています。

ストレージデバイスの分類

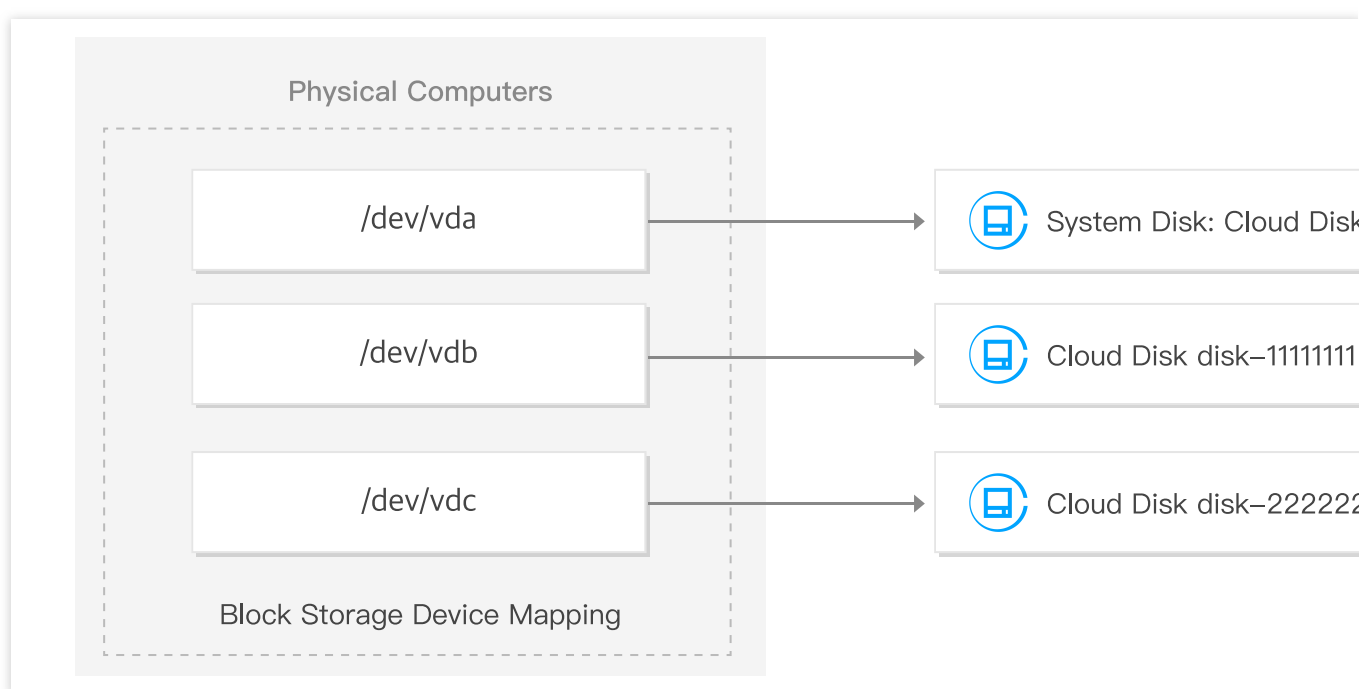
ストレージデバイスは、ディメンションごとに次のカテゴリに分類できます。

分類方法	カテゴリー	説明
ストレージメディア	通常ディスク	ストレージメディアはハードディスクドライブです。低価格で、読み取り/書き込み速度に優れている特徴があります。
	SSDディスク	ストレージメディアはソリッドステートドライブ（SSD）を採用しています。IOPSと読み込み/書き込み速度の両方に優れている特徴があります。通常ディスクより、IOPSが20倍に、スループットが16倍になっています。価格も通常ディスクより高いです。
ユースケース	システムディスク	CVMの動作を制御およびスケジューリングするシステムのコレクションを保存するために使用されます。イメージを使用して操作します。
	データディスク	すべてのユーザーデータを格納するために使用されます。
アーキテクチャパターン	Cloud Block Storage	Cloud Block Storageは、柔軟で高可用性、高信頼性、低コストのカスタマイズ可能なネットワークブロックデバイスであり、CVMの独立した拡張可能なディスクとして使用できます。Cloud Block Storageは、データブロックレベルのデータストレージを提供し、CVMのデータ信頼性を保証するために、3-copyの分散式メカニズムを採用しています。 Cloud Block Storageを備えたCVMは、ハードウェア、ディスク及びネットワークの調整を行うことができます。
	Cloud Object Storage	Cloud Object Storage（COS）は、インターネット上にあるデータストレージデバイスであり、CVMインスタンスまたはインターネット上の任意の場所からデータを取得できるため、ストレージコストを削減できますが、低レイテンシーや高IOシナリオに適していません。

ブロックストレージデバイスマッピング

各インスタンスには、基本的な動作データを確保するためのシステムディスクがあり、インスタンスにより多くのデータディスクをマウントできます。インスタンスは、ブロックデバイスマッピング（device-mapping）を使用して、これらのストレージデバイスを自分自身が識別できる場所にマッピングします。

ブロックストレージは、バイト単位でパーティション化されたストレージデバイスで、ランダムアクセスをサポートします。Tencent Cloudは、ローカルディスクとCloud Block Storageの2種類のブロックストレージデバイスをサポートしています。



この図は、CBSがブロックストレージデバイスをCVMにマッピングする方法を示しています。`/dev/vda` をシステムディスクにマッピングし、2つのデータディスクを `/dev/vdb` と `/dev/vdc` にそれぞれマッピングします。

CVMインスタンスは、それにマウントされたローカルディスクおよびCloud Block Storageにブロックストレージデバイスマッピングを自動的に作成します。

Cloud Block Storage

最終更新日：2022-09-27 16:50:51

Tencent Cloud Block Storage (CBS) は、CVM インスタンスに永続的なブロックストレージサービスを提供します。

CBS内のデータは、アベイラビリティゾーンに自動的にマルチコピーで冗長的に保存して、データのシングルポイント障害のリスクが排除され、99.9999999%のデータ信頼性を確保します。

CBSでは、高速かつ安定したストレージパフォーマンスを実現するために、複数の種類と仕様のクラウドディスクを提供します。

CBSは、同じアベイラビリティゾーン内のインスタンスへのマウントとアンマウントをサポートします。数分でストレージ容量を調整できるため、柔軟なデータ要件を満たすことができます。使った分だけのシンプルな料金体系で上記の機能を利用可能です。

典型的なユースケース

使用中にCVMディスクの空き容量が不足している場合、1つまたは複数のクラウドディスクを購入してCVMにマウントすることで、ストレージのニーズを満たします。

CVMを購入する際、追加のストレージ容量は必要なく、ストレージ要件がある場合、クラウドディスクを購入することでCVMのストレージ容量を拡張できます。

複数のCVMの間にデータ転送の要求がある場合、クラウドディスクをアンマウントして他のCVMにマウントすることによって実現できます。

複数のクラウドディスクを購入してLVM（Logical Volume Manager）論理ボリュームを構成することで単一クラウドディスクのストレージ容量を増やせます。

複数のクラウドディスクを購入してRAID（Redundant Array of Independent Disks）ポリシーを構成することにより、単一クラウドディスクのI/Oパフォーマンスを向上させます。

ライフサイクル

非エラスティックCBSのライフサイクルは完全にCVMに追従し、CVMと一緒に購入し、システムディスクとして使用します。マウントやアンマウントはサポートしていません。

エラスティックCBSのライフサイクルはCVMインスタンスから独立し、インスタンスの運用状況の影響を受けません。複数のCBSを同一のインスタンスにつなげてマウントすることができ、またCBSをインスタンスから切り離して、別のインスタンスにマウントし、データディスクとして使用することもできます。

タイプの選択

CBS製品では**高性能CBS**、**SSD CBS**、**強化型SSD CBS**、**超高速型SSD CBS**の4種類のCBSタイプを提供し、それぞれのハードディスクタイプ、性能、特徴、価格はいずれも異なります。[CBSタイプ](#) および [CBS価格一覧](#) ドキュメントを参照し、デプロイするユースケースの要件に基づき、ご自身で選択いただけます。

関連操作

CVMとCBSの設定については、[CBSの作成](#) および [CBSのマウント](#) をご参照ください。

CBSの拡張、アンマウント、廃棄およびその他のCBSのベストプラクティスの操作については、[CBS製品ドキュメント](#) をご参照ください。

ローカルディスク

最終更新日：2022-06-29 15:44:12

ローカルディスクの概要

ローカルディスクはCloud Virtual Machine (CVM) インスタンスと同一の物理サーバー上にあるストレージデバイスであり、高読み取り/書き込みIO、低レイテンシーの特性を有します。

ローカルディスクはCVMインスタンスの存在する物理マシンに由来するローカルストレージであり、CVMインスタンスの存在する物理マシン上で割り当てられたストレージエリアです（現在は一部のHigh IO型モデルおよびビッグデータモデルでのみサポートしています）。ローカルディスクは1台の物理マシンに由来するため、データの信頼性は物理マシンの信頼性に左右され、単一点障害が発生するリスクがあります。

ご注意：

インスタンスの存在する物理マシンにハードウェア障害が発生した場合、ローカルディスクのデータが消失するリスクがあります。アプリケーション層でデータ冗長化を行い、データ可用性を保証することをお勧めします。アプリケーションにデータ信頼性のアーキテクチャ設計がない場合は、データの信頼性を高めるため、インスタンスにCBSを併用することをお勧めします。

ローカルディスクのみを購入したCVMでは、ハードウェア（CPU、メモリ、ハードディスク）のアップグレードをサポートしていません。サポートは帯域幅のアップグレードのみとなります。

適用ケース

IO集約型アプリケーション：大型のリレーショナルデータベース、NoSQL、ElasticSearchなどのI/O集約型アプリケーションでは、ストレージ遅延に対する要件が低いため、High IO型CVM付属のNVME SSDローカルディスクタイプを使用することができます。ただし単一点障害のリスクに注意が必要です。

ビッグデータ型業務：EMRなどのビッグデータ処理業務は、それ自体は遅延に対して敏感ではなく、かつ上層にデータ冗長性があるため、単一点データ障害が容認でき、ビッグデータ型CVM付属のSATA HDDローカルディスクタイプを使用することができます。

ライフサイクル

ローカルディスクのライフサイクルはマウントしたCVMインスタンスと同一となります。簡単に言えば、ローカルディスクはマウントしたCVMが起動すると起動し、終了すると終了します。

タイプ

ローカルディスクはマウントしたCVMインスタンスが存在する物理マシンに由来するローカルストレージであり、メディアの違いにより、SATA HDDローカルディスクとNVME SSDローカルディスクに分けられます。

CVMタイプ	仕様と性能
SATA HDDローカルディスク	ビッグデータモデル
NVME SSDローカルディスク	High IO型モデル

購入

ローカルディスクはCVMインスタンスの購入時にのみ同時購入することができます。CVMの購入に関するその他の内容については、[インスタンスの作成](#)をご参照ください。

Cloud Object Storage

最終更新日：：2022-09-16 16:55:43

Cloud Object Storage(COS)は、Tencent Cloud が提供する大量のファイルを保存する分散型データストレージサービスです。ユーザーは、ネットワーク上のどこからでも簡単に、お好みの量のデータを保存および取得できます。CVMを使用するユーザーは、インスタンス内から、またはネットワーク上のいつでも、どこからでも必要な量だけデータを格納および取得できます。COSは、複数のアベイラビリティ ゾーンにわたってデータを冗長的に保存し、複数のクライアントまたはアプリケーション スレッドがデータに対して読み取り処理と書き込み処理を同時に実行できるようにします。Tencent Cloud COS はCVMを使用するユーザーに業界トップクラスのスケーラビリティ、低コスト、安全なデータストレージソリューションを提供します。

Tencent Cloud COSに関する詳細情報は、[COS 製品ドキュメント](#) をご参照ください

イメージ

イメージの概要

最終更新日：：2022-09-27 16:57:42

イメージとは何ですか。

Tencent Cloudイメージは、Cloud Virtual Machine（CVM）インスタンスの起動に必要なすべての情報を提供します。必要なイメージを指定した場合、このイメージから必要な任意の数のインスタンスを起動できます。必要に応じて任意の複数の異なるイメージからインスタンスを起動することもできます。わかりやすく言えば、イメージとはつまり、CVMの「インストールディスク」です。

イメージタイプ

Tencent Cloud は、次のタイプのイメージを提供します。

パブリックイメージ：すべてのユーザーが使用可能です。大部分の主流オペレーティングシステムをカバーしています。

カスタムイメージ：実行中のインスタンスから作成するか、外部ソースからインポートできます。

共有イメージ：その他のユーザーによって共有されるイメージです。インスタンスを作成するためにのみ使用されます。

イメージタイプの詳細については [イメージタイプの概要](#) をご参照ください。

イメージの課金方法

使用したイメージに対して課金される場合があります。課金の詳細については、[課金概要](#) をご参照ください。

イメージを利用したデプロイと手動デプロイ

方式 比較 項目	イメージデプロイ	手動デプロイ
デブ ロイ 時間	3分間 ～ 5分間	1日 ～ 2日

デプロイのプロセス	成熟したサービスマーケットソリューションまたはすでに使われているソリューションに基づき、迅速に適切なCVMを作成します。	適切なオペレーティングシステム、データベース、アプリケーションソフトウェア、プラグインなどを選択します。インストールおよびデバッグが必要です。
セキュリティ	パブリックイメージとカスタムイメージは、Tencent Cloud によってテストおよび監査されています。共有イメージのソースは、ユーザーが自分で選別する必要があります。	開発デプロイメンバーのレベルへの依存。
適用ケース	パブリックイメージ：パブリックイメージ：Tencent Cloudが提供する初期化されたコンポーネントを含む正規版のOSです。カスタムイメージ：既存のCVMと同じソフトウェア環境を迅速に作成します。または環境のバックアップを実行します。共有イメージ：その他のユーザーの既存のCVMと同じソフトウェア環境を迅速に作成します。	基本設定を提供せずに、自分でCVMを構成します。

イメージアプリケーション

特定のソフトウェア環境のデプロイ

共有イメージ、カスタムイメージを使用すると、特定のソフトウェア環境を迅速に作成する助けになります。自らの環境設定、ソフトウェアのインストールなどの煩雑で時間がかかる作業を回避し、サイト構築、アプリケーションの開発、可視化管理など複数の個別化ニーズを満たします。「開けばすぐに使える」CVMは、時間の節約になり便利です。

ソフトウェア環境の一括デプロイ

すでに環境をデプロイしたCVMインスタンスでイメージを作成し、CVMインスタンスをバッチ作成する際、そのイメージをオペレーティングシステムに使用し、CVMインスタンスの作成が完了すると、それまでのCVMインスタンスと一致するソフトウェア環境が得られます。これらにより、ソフトウェア環境を一括デプロイする目的を達成します。

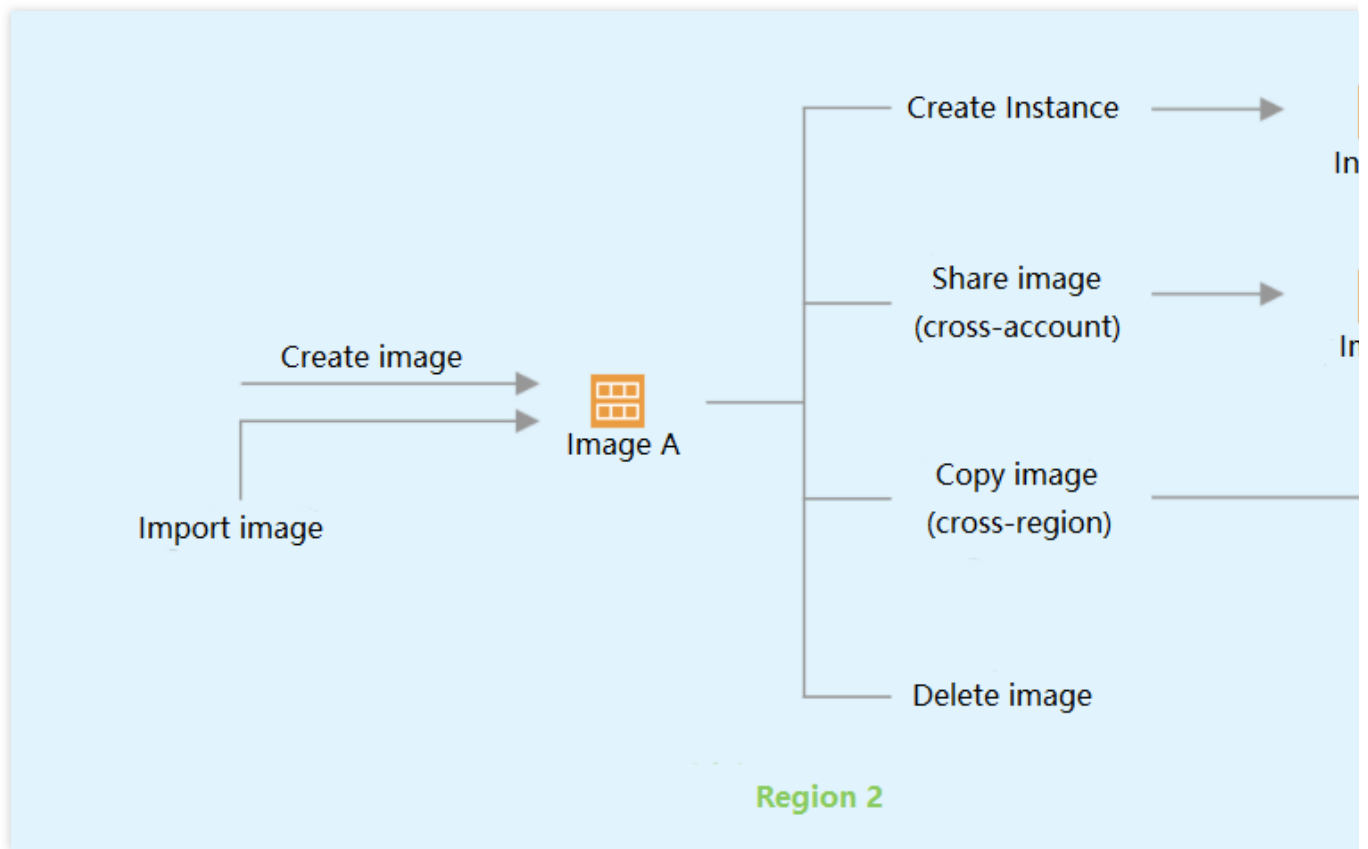
サーバーランタイム環境のバックアップ

CVM インスタンスのイメージを作成して、実行中の環境をバックアップできます。ソフトウェア環境が破損しCVM インスタンスが正常に動かなくなってしまった場合、このイメージを使用して環境を回復できます。

イメージのライフサイクル

下図はカスタムイメージのライフサイクルをまとめたものです。新しいカスタムイメージを作成あるいはインポート後に、ユーザーはそれを新しいインスタンスの起動に使用することができます（ユーザーは既存のパブリック

イメージからインスタンスを起動することもできます)。カスタムイメージが同じアカウントのその他のリージョンにコピーされると、そのリージョンで独立したイメージになることができます。ユーザーはカスタムイメージを、その他のユーザーと共有することもできます。



イメージタイプ

最終更新日：2024-05-16 10:24:31

ユーザーは以下の特徴に応じてイメージを選択することができます。

リージョン（[リージョンとアベイラビリティゾーン](#) をご参照ください）

OSの種類

アーキテクチャ（32ビットまたは64ビット）

異なるソースに応じて、Tencent Cloudはパブリックイメージ、カスタムイメージ、および共有イメージという 3 種類のイメージを提供します。

パブリックイメージ

パブリックイメージはTencent Cloudが提供するOSと初期化されたコンポーネントを含む、すべてのユーザーが使用できるイメージです。

パブリックイメージの特徴:

OSの種類：自由選択（例：LinuxタイプのシステムまたはWindowsタイプのシステム）で、定期的に更新されます。

ソフトウェアのサポート：Tencent Cloudが提供するソフトウェアパッケージを統合し、複数のバージョンのJava、MySQL、SQL Server、Python、Ruby、Tomcat等の一般的なソフトウェアおよびそれらの完全な権限をサポートしています。

セキュリティ：提供するオペレーティングシステムは完全に合法的なものであり、すべて公式の正規版OSを使用しています。Tencent Cloud内の専門的なセキュリティメンテナンスチームにより作成され、厳格なテストが実行されました。内蔵されているTencent Cloudセキュリティコンポーネントを選択することができます。

制限：なし。

料金：すべてのパブリックイメージは無料です。ただし、中国本土以外の特定の地域では、Windows タイプのイメージには一定のライセンス料が発生する可能性があります。

テクニカルサポート：

Tencent Linux は、Tencent Cloud によって提供および維持されます。さまざまなイメージに関連する問題を支援するテクニカルサポートが提供されます。

サードパーティイメージに関連する問題については、オープンソースコミュニティまたはOSベンダーに連絡してテクニカルサポートを求めることができます。Tencent Cloudは問題の調査を支援するテクニカルサポートが提供されます。

カスタムイメージ

カスタムイメージはユーザーがイメージ作成機能を使用して作成、またはイメージインポート機能を使用してインポートするイメージです。作成者および共有者のみ使用することができます。

カスタムイメージの特徴：

ユースケース：アプリケーションがデプロイされた **CVM** インスタンスから作成されたイメージを使用して、同様の設定を含むさらに多くのインスタンスを素早く作成することができます。

機能のサポート：ユーザーによる自由な作成、コピー、共有および破棄をサポートしています。

制限：リージョン毎に最大**500**のカスタムイメージがサポートされます。

料金：作成すると料金が発生する場合がありますが、具体的な価格はインスタンス作成時に表示される料金に基づきます。カスタムイメージのクロスリージョン レプリケーションは無料です。

さらに多くの操作方法および制限については、[カスタムイメージの作成](#)、[カスタムイメージのコピー](#)、[カスタムイメージの共有](#)、[カスタムイメージの共有解除](#)、[カスタムイメージのインポート](#) をご参照ください。

共有イメージ

共有イメージは、他のTencent Cloud ユーザーがイメージ共有機能を通じて自分のカスタムイメージを現在のユーザーに共有することです。

共有されたイメージは、元のイメージと同じリージョンに表示されます。

共有イメージの特徴

ユースケース：他のユーザーが**CVM**を素早く作成するために役立ちます。

機能のサポート：共有イメージは**CVM**の作成にのみ使用され、名前の変更、コピー、共有等の他の操作を実行することはできません。

セキュリティ：共有されたイメージはTencent Cloudの審査を受けないため、セキュリティリスクが存在する可能性があります。そのため、ソース元が不明なイメージを受け入れないように強くお勧めします。

制限：カスタムイメージ毎に最大**500**のTencent Cloudユーザーと共有することができます。イメージ共有はアカウントが同じリージョンの相手との共有のみをサポートしています。

詳細手順については、[カスタムイメージの共有](#)、[カスタムイメージの共有解除](#) をご参照ください。

パブリックイメージ OSのサポート終了について

最終更新日：：2024-03-22 14:59:58

Tencent Cloudが提供するパブリックイメージのメンテナンスサイクルは公式に発表されているメンテナンスサイクルと一致します。このドキュメントでは、各バージョンのイメージに対するOSプラットフォームごとのメンテナンスプランを確認できます。

ご注意：

OSのメンテナンスが終了すると、問題の修正や機能の更新を含むソフトウェアのメンテナンスやサポートを受けることができなくなります。最新のバージョンに更新するか、より安定したイメージバージョンを選択することをお勧めします。

Tencent Cloud独自開発OS

TencentOS Server

バージョン	メンテナンス終了日
TencentOS Server 2	2027-12-31
TencentOS Server 3	2029-12-31

OpenCloudOS

バージョン	メンテナンス終了日
OpenCloudOS 8	2029-12

サードパーティ製OS

CentOS

バージョン	完全更新終了日	メンテナンス更新終了日
CentOS Stream 9	2027-05-31	2027-05-31
CentOS Stream 8	2024-05-31	2024-05-31

CentOS 8	2021-12-31	2021-12-31
CentOS 7	2020-08-06	2024-06-30
CentOS 6	2017-05-10	2020-11-30

公式メンテナンスプランの詳細については、[CentOS公式サイト](#) をご参照ください。

説明：

CentOS は、CentOS Linux のサポートを正式に終了する予定です。Tencent Cloudは、代替案としてCentOS互換のOpenCloudOSまたはTencentOS Serverを提供しています。

Ubuntu

バージョン	標準サポート終了日	拡張更新終了日
Ubuntu 22.04 LTS	2027-04	2032-04
Ubuntu 20.04 LTS	2025-04	2030-04
Ubuntu 18.04 LTS	2023-04	2028-04
Ubuntu 16.04 LTS	2021-04	2026-04

公式メンテナンス プランの詳細については、[Ubuntu公式サイト](#) をご参照ください。

Debian

バージョン	サポート終了日	EOL-長期サポート終了日 (LTS)	EOL-延長・長期サポート終了日 (ELTS)
Debian 11	2024-07	2026-06	なし
Debian 10	2022-07	2024-06	2029-06-30
Debian 9	2020-07-06	2022-06-30	2027-06-30

公式メンテナンス プランの詳細については、[Debian公式サイト](#) をご参照ください。

Red Hat Enterprise Linux

バージョン	フルサポート終了日	メンテナンスサポート 1 の終了日	メンテナンスサポート 2 の終了日	延長ライフサイクルサポートの終了日
Red Hat Enterprise Linux	2024-05-31	非該当	2029-05-31	2031-05-31

8				
Red Hat Enterprise Linux 7	2019-08-06	2020-08-06	2024-06-30	2026-06-30

詳細については、[Red Hat公式サイト](#) をご参照ください。

説明：

CVMを購入したときにRed Hat Enterprise Linux認証に合格したインスタンスタイプを選択した場合は、Red Hat Enterprise Linuxイメージを使用できます。サポートされているイメージタグとインスタンスタイプについては、[Red Hat Enterprise Linux イメージに関するよくあるご質問](#) をご参照ください。

AlmaLinux

バージョン	メンテナンス終了日
AlmaLinux 8.5	2031-11

公式メンテナンス プランの詳細については、[AlmaLinux公式サイト](#) をご参照ください。

CoreOS

バージョン	メンテナンス終了日
CoreOS Container Linux	2020-05-26

FreeBSD

バージョン	メンテナンス終了日
FreeBSD 13.1	2023-06-30
FreeBSD 13.0	2022-08-31
FreeBSD 12.3	2023-03-31
FreeBSD 12.2	2022-03-31

公式メンテナンスプランの詳細については、[FreeBSD公式サイト](#) をご参照ください。

Rocky Linux

バージョン	メンテナンス終了日
-------	-----------

Rocky Linux 9.0	2032-05-31
Rocky Linux 8.6	2029-05-31
Rocky Linux 8.5	2029-05-31

公式メンテナンスプランの詳細については、[Rocky Linux公式サイト](#) をご参照ください。

OpenSUSE

バージョン	メンテナンス終了日
OpenSUSE Leap 15.4	2023-11
OpenSUSE Leap 15.3	2022-11
OpenSUSE Leap 15.2	2022-01-04
OpenSUSE Leap 15.1	2021-02-02

公式メンテナンスプランの詳細については、[OpenSUSE公式サイト](#) をご参照ください。

Windows

バージョン	メインストリームサポート終了日	延長サポート終了日
Windows Server 2022 Datacenter	2026-10-13	2031-10-14
Windows Server 2019 Datacenter	2024-01-09	2029-01-09
Windows Server 2016 Datacenter	2022-01-11	2027-01-12
Windows Server 2012 R2 Datacenter	2018-10-09	2023-10-10

公式メンテナンスプランの詳細については、[\[Microsoft Windows Server公式サイト\]](#)をご参照ください。

TencentOS Server

TencentOS Serverの説明

最終更新日：：2022-05-06 16:57:27

TencentOS Server (Tlinux、TSと略記) は、クラウドシナリオのためにTencent Cloudによって開発されたLinux OSです。特定の機能とパフォーマンスの最適化を提供し、CVMインスタンスのアプリケーションにより高いパフォーマンスとより安全で信頼性の高い動作環境を提供します。TSは、Linuxカーネルに基づいて独自に開発および設計されており、OS分野でTencentの技術的蓄積を10年以上蓄積しており、Tencentの内部の大規模サービスによって長年にわたって検証および洗練されています。Tencentの内部OSの99%以上を占めています。Tencentのすべてのサービスをカバーしています。同時に、Tencentは、ソーシャルネットワーキング、ゲーム、金融支払い、AI、セキュリティなど、中国で最も多様なサービスエコシステムを備えており、安定性、セキュリティ、互換性、パフォーマンスなどのコア機能が完全に検証されています。コミュニティOSバージョンと比較して、TSは、安定性、パフォーマンス、コンテナのインフラストラクチャなどのコア機能の点で全面的に強化および最適化されており、企業に安定的かつ可用性の高いサービスを提供しています。このシステムは、サービスの厳しい負荷要件を満たし、最高のクラウドOSの作成に取り組み、CentOSよりも優れたエンタープライズクラスOSのソリューションでもあります。

TSは現在使用可能であり、ユーザーモード環境はCentOSと互換性があります。CentOSで開発されたアプリケーションはTSで直接実行できます。

ユースケース

TSは、標準型、コンピューティング型、メモリ型、ハイIO型など、ほとんどの標準型に適しています。また、Cloud Physical Machine (CPM) 2.0および高性能コンピューティングクラスターもサポートしています。

ご注意：

TSを使用してGPUインスタンスを実行する必要がある場合、対応するGPUドライバーをインストールしてください。

TSの優位性

非常に安定し、数千万のノードによって検証されている

TSは、大規模なサービスによって長期間にわたって実地テストを受けており、合計で数千万のデプロイがあり、全体の可用性は99.999%に達しています。

完全に最適化された、パフォーマンスがより高い

深く最適化された高性能OSは、システム内のさまざまなソフトウェアを最適化しており、通常のサービスパ

パフォーマンスは50%以上向上しています。Tencent Cloudを介してTSを使用すると、より高いパフォーマンスを得ることができます。

オープンソースと互換性があり、クラウド上のより優れたOS

100%オープンソースのLinuxリリースバージョンです。ユーザーモードは、CentOSとの互換性を維持し、安定性とパフォーマンスの面でより多くの利点があります。クラウド上のCentOSのより優れた代替手段です。

クラウド向けに生じて、特別にカスタマイズされる

オープンスタンダードベースに基づいた最新の仮想化およびクラウドネイティブツールを含み、さまざまなワークロードに適したクラウド向けに開発されています。

安全でコンプライアンス、ダウンタイムゼロのリカバー

セキュリティラボは、システムセキュリティを保護します。システムレベルのセキュリティを強化し、さまざまな脆弱性をタイムリーに修正し、ホットパッチ修復をサポートして不要なダウンタイムを回避できます。

TSのイメージバージョン

現在、TencentCloudには、ユーザーが選択できる3つのTSイメージがあります：

イメージバージョン	説明
TencentOS Server 3.1	CentOS 8ユーザーモードと完全に互換性があり、コミュニティ5.4 LTSカーネルに基づいて深く最適化されたtkernel4バージョンをサポートします。
TencentOS Server 2.4	CentOS 7ユーザーモードと完全に互換性があり、コミュニティ4.14 LTSカーネルに基づいて深く最適化されたtkernel3バージョンをサポートします。
TencentOS Server 2.4 (TK4)	CentOS 7ユーザーモードと完全に互換性があり、コミュニティ5.4 LTSカーネルに基づいて深く最適化されたtkernel3バージョンをサポートします。

TSカーネル

TencentOS Server kernel (tkernelと略記) は、リリースバージョンからデカップリングされ、現在のメインカーネルは2つのバージョンに分けられます。

コミュニティ5.4 LTSに基づいて深く最適化されたtkernel4 (tk4と略記)。

コミュニティ4.14 LTSに基づいて深く最適化されたtkernel3 (tk3と略記)。

詳細については、[TencentOS kernel githubウェアハウス](#) をご参照ください。

TencentOS Serverの使用

クラウド上の使用

インスタンスの作成または既存インスタンスOSのリインストールのときに、パブリックイメージを選択し、対応するバージョンのOpenCloudOSを使用することを選択できます。操作の詳細については、[インスタンスの作成](#) および [システムのリインストール](#) をご参照ください。

ローカルエクスペリエンス

次の方法によってTSをローカルでエクスペリエンスできます：

TencentOS Server 2.4：[iso](#) および [qcow](#)。

TencentOS Server 3.1：[iso](#) および [qcow](#)。

サービスと更新

Tencent Cloudは、TSメジャーバージョンごとに5年以上、定期的なイメージの更新、新機能と最適化の導入、タイムリーなセキュリティの脆弱性の修正、バグの修正などを含むメンテナンスと更新を提供します。ストックサーバーは、yumを介してアップグレードし、脆弱性の修正をタイムリーに完了できます。

TSの詳細を理解する必要がある場合、アプレットからTencent Cloud Assistantに相談してください。

TencentOS Serverイメージ更新ログ

最終更新日：2024-07-04 11:48:01

説明：

イメージ更新履歴は発行時間順で表示されます。

イメージの発行は地域ごとにテストされます。CVMを作成したときに、イメージが更新履歴の最新バージョンでない場合は、その地域にまだ発行されていない場合があります。

更新履歴の特定のイメージがコンソールで見つからない場合は、当該イメージがまだ完全にオープンされていない場合があります。

イメージ更新履歴

このドキュメントに記載されているイメージのアーキテクチャはすべてX86です。更新日と特徴は次のとおりです：

TencentOS Server 3 (TK4)

2024-08-11

他のユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード。

yumソースの切り替え。

2024-06-07

他のユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード。

カーネルを5.4.119-19.0009.44にアップグレードする。

2024-05-22

イメージのデフォルトの crashkernel 設定の最適化。

他のユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード。

2024-03-28

カーネルを5.4.119-19.0009.40にアップグレードする。

他のユーザーモードソフトウェアパッケージをアップグレードする。

2024-01-31

ユーザーモードソフトウェアを更新する。

カーネルを0009.37にアップグレードする。

/etc/motdの表示内容を最適化する。

mysql関連のソフトウェアパッケージはデフォルトではプレーインストールされなくなる。

chrony.confでntp*.tencent.comを追加する。

2023-09-05

カーネルを5.4.119-19.0009.28にアップグレードする。

他のユーザーモードソフトウェアをアップグレードする。

2022-11-07

ユーザーモードソフトウェアを更新する。

カーネルを5.4.119-19-0009.11に更新する。

cloud_init構成ファイルでdisk_setupをオンにする。

ミラーリングのデフォルトopen filesの構成を変更する。

2022-10-13

ユーザーモードソフトウェアを更新する。

カーネルを5.4.119-19-0009.6に更新する。

プレーインストールされたkernel-debuginfoパッケージを追加する。

プレーインストールされたdocker-ceパッケージを取り除く。

2022-07-21

カーネルを5.4.119-19.0009-3に更新する。

他のユーザーモードソフトウェアを更新する。

2022-04-19

Broadcom NICドライバーを1.10.2-218.1.182.18にアップグレードする。

2022-02-23

java-8-konajdk-8.0.8-1.1.312.x86_64をインストールします。

polkitを0.112-26.tl.1に更新します。

2022/01/28

カーネルを5.4.119-19-0009.1に更新します。

CVE-2022-0185を修正します。

2022/01/05

カーネルを5.4.119-19-0009に更新します。

デフォルトのyumソースドメイン名を更新します。

docker-ceはデフォルトでインストールされます。

デフォルトではenable rngdサービスです。

2021/09/28

カーネルを5.4.119-19-0008に更新します。

複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

2021/06/23

カーネルを5.4.119-19-0007に更新します。

複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

2021/03/19

カーネルを5.4.32-19-0003に更新します。

複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

TencentOS Server 2 (TK4)

2024-06-07

カーネルを5.4.119-19.0009.44にアップグレードする。
他のユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード。

2024-05-22

他のユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード。
イメージのデフォルトの `crashkernel` 設定の最適化。

2024-04-03

他のユーザーモードソフトウェアパッケージをアップグレードする。
カーネルを5.4.119-19.0009.40にアップグレードする。
`kernel-debuginfo`バージョンが期待を満たさない問題を修復する。

2023-12-01

ユーザーモードソフトウェアを更新する。
カーネルを5.4.119-19.0009.37にアップグレードする。
MLNXドライバーを5.4-3.6.8.1にアップグレードする。

2023-09-05

カーネルを5.4.119-19.0009.28にアップグレードする。
他のユーザーモードソフトウェアをアップグレードする。

2022-11-07

ユーザーモードソフトウェアを更新する。
カーネルを5.4.119-19-0009.11に更新する。
`cloud_init`構成ファイルで`disk_setup`をオンにする。
ミラーリングのデフォルト`open files`の構成を変更する。

2022-10-13

ユーザーモードソフトウェアを更新する。
カーネルを5.4.119-19-0009.6に更新する。
デフォルトでインストールされた`scl`、`devtoolset-8`、`devtoolset-9`コンポーネントを追加する。

2022-05-12

`rdma`ドライバーを5.4-3.1.0.0LTSに更新する。
カーネルを5.4.119-19.0009.3にアップグレードする。
ユーザーモードソフトウェアを更新する。
Broadcom NICドライバーを1.10.2-218.1.182.18にアップグレードする。

2022-02-23

`java-8-konajdk-8.0.8-1.1.312.x86_64`をインストールします。
`polkit`を0.112-26.tl.1に更新します。

2022/01/28

カーネルを5.4.119-19-0009.1に更新します。
CVE-2022-0185を修正します。

2022/01/11

カーネルを5.4.119-19-0009に更新します。
複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

2021/10/26

カーネルを5.4.119-19-0008に更新します。
複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

2021/07/16

カーネルを5.4.119-19-0007に更新します。
複数のセキュリティの脆弱性を修正します。

2021/03/03

TencentOS Server 2.4 (TK4)はパブリッククラウドに導入されました。

TencentOS Server 2.4**2023-06**

更新を停止しました。2023年6月にオフラインにする。

2022-08-31

他のユーザーモードソフトウェアを更新する。
起動パラメーター中のcrashkernelを更新する= 設定する。

2022-07-28

カーネルを4.14.105-19.0024に更新する。
他のユーザーモードソフトウェアを更新する。

2022-04-19

Broadcom NICドライバーを1.10.2-218.1.182.18にアップグレードする。

2022-02-23

java-8-konajdk-8.0.8-1.1.312.x86_64をインストールします。

2021/11/30

デフォルトではenable rngdサービスです。
ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2021/10/27

カーネルを4.14.105-19-0022に更新します。
ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2021/07/21

カーネルを4.14.105-19-0020に更新します。
ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2021/04/14

カーネルを4.14.105-19-0018に更新します。
ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2020/09/24

カーネルを4.14.105-19-0017に更新します。

ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2020/06/11

カーネルを4.14.105-19-0016に更新します。

ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2019/12/23

カーネルを4.14.105-19-0015に更新します。

ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2019/08/23

カーネルを4.14.105-19-0014に更新します。

ユーザーモードのソフトウェアを最新バージョンに更新します。

2019/06/28

TencentOS Server 2.4はパブリッククラウドに導入されました。

TencentOS Serverの特徴

最終更新日：2022-03-16 16:54:43

カーネルカスタマイズ

カーネルコミュニティにより長期間サポートされるバージョンに基づきカスタマイズしました。クラウドのシナリオに適した特徴が追加され、カーネル性能が改善され、重大なバグが修正されました。

Container Servicesにおけるパフォーマンスの最適化

Container Servicesに対する最適化が実行されました。以下のような隔離強化およびパフォーマンス最適化特性を提供します。

meminfo、vmstat、cpuinfo、stat、loadavgなどの隔離。

Sysctl隔離。例えばtcp_no_delay_ack、tcp_max_orphans。

大量のファイルシステムおよびネットワークのBUGFIX。

IPVSモードの高並列処理ケースで、接続を再利用すると接続異常が発生する問題が解決されました。

IPVSモードがハイスpekノード（多コア数）の時、IPVSルールが過度にネットワークグリッチを生成する問題が解決されました。

コンテナが密集するケースで（単一ノード上のコンテナ量が比較的多い）、cAdvisorがmemcgを読み取るときにカーネルステータスが長くなりすぎ、ネットワークグリッチが発生する問題が解決されました。

Podが大きい（占有コア数が多く、単一コア占有率が高い）ハイスpekノード（多コア数）のケースで、CPUのCLBによりネットワークグリッチが発生する問題が解決されました。

高並列処理ケースで、TCP接続監視（例えば、単独のデプロイcAdvisor設定がTCP接続を監視）によりネットワーク周期ジッターが発生する問題が解決されました。

ネットワーク受信パケットのソフトウェア割り込みを最適化し、ネットワークパフォーマンスが改善されました。

Container Servicesカスタマイズの特徴

Container Servicesリソース表示の隔離

ホストレベルスイッチの追加：カーネルでは類似のLXCFS特性がすでに実現しています。ユーザーはノードでLXCFSファイルシステムをデプロイしてPOD specを変更する必要はありません。ノードでグローバルスイッチ（`sysctl -w kernel.stats_isolated=1`）を有効にして、`/proc/cpuinfo` および `/proc/meminfo` 等のファイルを取得するだけで、Container Services隔離をオンにすることができます。

ご注意：

TencentOS Server 2.4バージョンのみが `kernel.stats_isolated` パラメータをサポートしており、TencentOS Server 2.4（TK4）および3.1以降のバージョンではサポートしていません。

Container Servicesレベルのスイッチの追加：類似のノード監視コンポーネント等の特殊コンテナのために、Container Servicesレベルのスイッチ `kernel.container_stats_isolated` を追加しました。ホストレベルのスイッチを有効にする時は、Container Servicesの起動スクリプトでContainer Servicesレベルのスイッチを閉じると（`sysctl -w kernel.container_stats_isolated=0`）、Container Servicesで `/proc/cpuinfo` および `/proc/meminfo` ファイルを読み取る時にホスト情報を取得することができません。

カーネルパラメータの隔離

以下のカーネルパラメータのnamespace化隔離を実現します。

```
net.ipv4.tcp_max_orphans
net.ipv4.tcp_workaround_signed_windows
net.ipv4.tcp_rmem
net.ipv4.tcp_wmem
vm.max_map_count
```

Container Servicesのデフォルトカーネルパラメータの最適化

Container Servicesネットワークのnamespace中の `net.core.somaxconn` のデフォルト値を4096に調整して、高並列処理の状況で半接続キューが一杯になるパケットロスの問題が減少します。

パフォーマンスの最適化

Compute、Storage、およびNetworkingのサブシステムは、以下を含めてすべて最適化済みです。

xfsメモリ割り当てを最適化して、xfs kmem_alloc割り当て失敗のアラームを解決しました。

ネットワーク受信パケット大容量メモリの割り当て問題を最適化して、UDPパケットが大きい時にメモリ占有が多すぎる問題を解決しました。

システムpage cacheの占有メモリ率を制限して、メモリの不足が業務に影響するパフォーマンスまたはOOMを回避するようにしました。

ソフトウェアパッケージサポート

TencentOS Server 2ユーザーステータスのソフトウェアパッケージは最新版のCentOS 7との間で互換性を有しています。CentOS 7バージョンのソフトウェアパッケージはTencentOS Server 2.4で直接使用することができます。

TencentOS Server 3 ユーザーステータスのソフトウェアパッケージは最新版の RHEL 8 との間で互換性を有しています。そのため、RHEL 8 バージョンのソフトウェアパッケージは、TencentOS Server 3.1 でそのまま使用することができます。

YUM を使用したソフトウェアパッケージのアップデートおよびインストールをサポートします。

YUM を介して `epel-release` パッケージをインストールすると、`epel` ソース内のソフトウェアパッケージを使用することができます。

バグのサポート

オペレーティングシステムクラッシュ後の `kdump` カーネルコアダンプ機能を提供します。

カーネルのホットパッチアップグレード機能を提供します。

セキュリティ更新

TencentOS Server は定期的に更新を実行し、セキュリティおよび機能を強化します。

TencentOS Serverに関するよくあるご質問

最終更新日：2023-11-30 16:33:26

TencentOS Serverとは何ですか

TencentOS Server（別名Tencent Linux、略称はTSまたはtlinux）はTencentがクラウドシナリオのために研究開発したLinux オペレーティングシステムです。特定の機能および性能を最適化し、CVMインスタンスのアプリケーションプログラムに高性能で安全かつ信頼性の高い運用環境を提供します。

TencentOS ServerにはTencentOSチームが研究開発したTencent OSカーネルが含まれ、クラウド環境の高度なカスタマイズを基に最新のLinuxイノベーションを市場に投入し、各種エンタープライズソフトウェアに抜群の性能、高いスケーラビリティと信頼性を提供します。TencentOS Serverは無料で使用でき、ユーザーは引き続きTencentOSチームによる更新メンテナンスとテクニカルサポートを受けることができます。

TencentOS Serverにはどのような特徴がありますか

TencentOS Server製品の特徴は次のとおりです。

高度にカスタマイズされ、箱から出してすぐに使用でき、複雑な設定が不要です。

セキュリティコンプライアンス、ホットパッチをサポートし、ダウンタイムなしで修復します。

長期的なサポートを提供し、強力な運営サポートチームを擁し、完全なオープンソースです。

クラウドシナリオ向けに設計され、完全に最適化された高性能なOSです。

他のLinux オペレーティングシステムに比べ、TencentOS Serverにはどのようなメリットがありますか

CentosやUbuntuなどのリリース版と比較した場合のTencentOS Serverの主なメリットは次のとおりです。

Tencentの10数年にわたる大量の内部業務の検証と研鑽の結晶です。

権威あるカーネルエキスパートチームがサポートします。

重要な性能の最適化とクラウドおよびコンテナシナリオ向けのカスタム特性を具備し、箱から出してすぐに使用できます。

強力な運営サポートチームを擁し、少額の費用で強力なビジネスサポートを受けられます。

TencentOS Serverにはどのようなバージョンがありますか

現在、次の2つのバージョンがあります。

TencentOS Server 2 (TS2)：CentOS7の最新ユーザーステータスパッケージをベースにしています。

TencentOS Server 3 (TS3)：RHEL8の最新ユーザーステータスパッケージをベースにしています。

TencentOS ServerユーザーステータスソフトウェアパッケージはRHELと100%バイナリー互換です。

TencentOS Serverのカーネルにはどのようなバージョンがありますか

TencentOS Serverのカーネル（略称TK）には次の2つのバージョンがあります。

TK3：コミュニティ4.14longtermカーネルバージョンをベースにしています。

TK4：コミュニティ5.4longtermカーネルバージョンをベースにしています。

TKのコードはGitHubで取得できます。詳細については、[Tencent OS-kernel](https://github.com/Tencent/Tencent-OS-kernel)をご参照ください。

TencentOS Serverのライフサイクルはどのくらいですか

TencentOS Server各バージョンのライフサイクルは次のとおりです。bugfixとセキュリティパッチの更新はライフサイクルが終了するまで継続的に提供されます。

TencentOS Server 2リリース版：2024年12月31日までサポートされます。

TencentOS Server 3リリース版：2029年12月31日までサポートされます。

Tencent CloudでのTencentOS Serverはどのように使用しますか

Tencent CloudはTencentOS Serverの2つバージョンのパブリックイメージを提供しています。Linux オペレーティングシステムのCVMを作成する際に、TencentOS Serverのイメージバージョンを選択して使用することができます。

TencentOS ServerはどのようなCVMインスタンスタイプをサポートしていますか

TencentOS ServerはCVMインスタンスタイプの大部分をサポートしています。[CVM購入ページ](#) でイメージを選択して使用を開始することができます。

TencentOS Server使用後のソフトウェアのインストールとアップグレード方法は

TencentOS Serverリリース版は、`yum` コマンドまたはTencentOS Serverに付属の `te` コマンドを使用してソフトウェアパッケージを管理できます。なお、TencentOS Server3は、`dnf` コマンドを使用してもソフトウェアパッケージを管理できます。

ローカルでTencentOS Serverをインストールして使用できますか

できます。TencentOS Serverリリース版ISOはTencent Cloudソフトウェアソースに移動してダウンロードを実行できます（[ここをクリックしてダウンロード](#) TencentOS Server 2、[ここをクリックしてダウンロード](#) TencentOS Server 3）。

ローカルサーバーまたはvirtualboxなどの仮想マシンにインストールして使用できます。

TencentOS Serverのソースコードを確認できますか

TencentOS Server は完全なオープンソースです。[Tencent Cloudソフトウェアソース](#) に移動してソースコードパッケージを取得できます。またシステムで `yum downloader --source glibc` コマンドを使用して取得することもできます。

TencentOS Server は32ビットアプリケーションプログラムとライブラリをサポートしていますか

現時点ではサポートしていません。TencentOS Server2はyumを介した一部の32ビットソフトウェアパッケージのインストールのみをサポートしています。

TencentOS Serverはシステムのセキュリティをどのように保証していますか

TencentOS ServerバージョンはRHEL7とRHEL8とバイナリー互換であり、RHELのセキュリティ仕様に準拠しています。Tencent Cloudは次の面からTencentOS Serverシステムのセキュリティを保証しています。

Tencentが自社開発した脆弱性スキャンツールと業界標準の脆弱性スキャンとセキュリティ検査ツールを使用して、定期的にセキュリティスキャンを実施します。

Tencent Securityチームと共同で、TencentOS Serverのセキュリティスキャンとセキュリティ強化をサポートします。

RHELとコミュニティのCVEパッチを定期的に評価し、ユーザーステータスソフトウェアパッケージを定期的に更新して、セキュリティの脆弱性を修復します。

Tencent CloudのCloud Workload Protection機能を介してシステムのセキュリティヘルスチェックを定期的に実行し、ユーザーにセキュリティ警告と修復方法を通知します。

OpenCloudOS

OpenCloudOS概要

最終更新日：2023-08-14 11:16:24

オープンソースOSコミュニティ OpenCloudOSはTencentとパートナーの共同イニシアチブにより提出され、完全に中立、全面的に開放され、安全で安定した、高性能なOSおよびエコです。OpenCloudOSは多くのメーカーのソフトウェアとオープンソースのエコにおける優位性を蓄積し、TencentのOSとカーネルレベルでの10年以上の技術の蓄積を継承し、クラウドネイティブ、安定性、性能、ハードウェアサポートなどの面で確実に支えられ、すべてのハードウェアプラットフォームを平等かつ全面的にサポートできます。

OpenCloudOS 8.6は、OpenCloudOSコミュニティがリリースした最新のバージョンです。そのベーシックライブラリとユーザスペースコンポーネントは、CentOS 8と完全な互換性を持っています。また、1000万以上のノードで検証した結果、カーネルの最適化とエンハンスメントにより、安定性が70%向上し、特定の運用シーンでの性能が50%向上し、ユーザにCentOS 8より優れたソリューションが提供されます。

ユースケース

OpenCloudOSはCVM、CBMなど、クラウド上のほとんどのモデルの本番インスタンスに適します。

ご注意：

現在OpenCloudOSにはGPUドライバがプリインストールされていませんが、GPUインスタンスで使用する場合は手動でGPUドライバをインストールしてください。

OpenCloudOSのイメージバージョン

現在、Tencent CloudでOpenCloudOS 8 (すなわち8.6の最新バージョン)のイメージがサポートされています。このイメージはCentOS 8のユーザスペースと完全な互換性を持ち、コミュニティ5.4 LTSベースのOpenCloudOS Kernelが搭載されています。

OpenCloudOSカーネル

OpenCloudOS Kernelは、コミュニティ5.4 LTSをベースにした安定で高性能なKernelです。コミュニティの最新の中核特徴と、様々な業務シーン向けの最適化が含まれています。カーネルの安定性を確保した上で、常にリードし続ける技術力を保っています。

OpenCloudOSの使用

インスタンスを作成する時、または既存のインスタンスのOSを再インストールする時に、パブリックイメージ及び対応するOpenCloudOSのバージョンを選択できます。詳細については、[インスタンスの作成](#) 及び [OSの再インストール](#) をご参照ください。

OpenCloudOSの取得

[OpenCloudOS 8.6](#) でOpenCloudOSを取得してください。

更新履歴

詳細については、[OpenCloudOSイメージ更新ログ](#) をご参照ください。

サービスと更新

OpenCloudOSコミュニティでは、OpenCloudOSのメジャーバージョンごとに（OpenCloudOS 8など）、最新のkernel特徴、脆弱性修正、バグフィックスなどを含め、最大10年間のメンテナンスと更新が提供されます。既存のサーバーはyumでアップデートすることにより、タイムリーに脆弱性を修正できます。

OpenCloudOSイメージ更新ログ

最終更新日：2024-05-23 21:49:39

説明：

イメージ更新履歴は発行時間順で表示されます。

イメージは地域ごとに発行されます。CVMインスタンスの作成時に更新履歴にあるイメージが最新バージョンではない場合、その地域にまだ発行されていない可能性があります。

イメージ更新履歴内のイメージがコンソールで見つからない場合は、当該イメージが全面的に公開されていません。この場合、[チケットを送信](#)してイメージに関する詳細情報を取得できます。

2024年

機能更新	更新日
/etc/default/grubで設定されているcrashkernel値の最適化 ユーザーモードソフトウェアパッケージのアップグレード	2024-05-07

2023年

機能更新	更新日
i8042.noauxパラメーターの問題の修復 keymapが空である問題の修復 一部のrepo urlにmirrors.tencentyun.comが欠けている問題の修復	2023-07-15
カーネルをkernel-5.4.119-20.0009.20.oc8にアップグレードする ユーザーモードソフトウェアのアップグレード dracut関連のソフトウェアのアップグレード、 kdumpサービスの起動異常の問題の修復 OpenCloudOS 8.6オンラインパブリッククラウド	2023-03-15

2022年

機能更新	更新日
firewalld\sssd\rngd サービスを無効にしました microcode_ctl/nss-softoken/avahi パッケージをアンインストールしました keymapを設定しました timezoneを設定しました kdumpのブート用のcloudinit.target依存関係を設定しました Mirrors.tencentyun.com をrepoの最初のURLとして設定しました /etc/rc.d/rc.local ファイルの権限を755に変更しました /var/lib/ 内の一部のディレクトリの権限エラーを修正しました	2022-09-16
カーネルバージョンを5.4.119-19.0010に更新しました 他のユーザーモードソフトウェアを更新しました イメージのタイムスタンプを更新しました	2022-07-27
パブリッククラウド向けOpenCloudOS 8.5をリリースしました	2022-03-04

OpenCloudOS V9 ミラーリング更新ログ

最終更新日：2024-05-23 21:50:03

説明

ミラーリング更新記録は発行時間の順番に準ずる。

ミラーリングリリースは地域グレースケールに基づいている。CVMを作成する際に、ミラーリングでは記録の最新バージョンが更新されたことではない場合、まだその地域にリリースされていない可能性がある。

であることを説明する。コンソールで更新記録のあるミラーリングが見つからない場合、そのミラーリングが完全にリリースされていない可能性がある。詳細については、[伝票提出](#)にお問い合わせください。

ミラーリング更新記録

2024年

更新特性	更新日
カーネルを6.6.6-2401.0.1.oc9.4にアップグレードする 他のユーザーモードソフトウェアパッケージをアップグレードする yum構成に2つの重複のurlがある問題の修復 /etc/default/grubに設定されているcrashkernel値の最適化	2024-05-07

2023年

更新特性	更新日
特定のモデルに適応するようにdracut.confを構成する	2023-08-04
irqbalance.serviceをオフにする selinux = disableを構成する localeをen_US.UTF-8に設定する	2023-04-19
cloud-initを修復する localeを修復する	2023-03-27
OpenCloudOS 9.0オンラインパブリッククラウド	2023-03-17

スナップショット

最終更新日：2022-10-27 16:50:24

機能説明

オンラインデータのリアルタイムレプリカ

スナップショットは、CBSを完全にコピーしてそのまま利用できるものです。すでにスナップショットを作成したCBSで問題が発生した場合、スナップショットを利用すれば、問題発生前の状態に速やかに復元できます。業務を大きく変更する前に、関連CBSのスナップショットを作成することをお勧めします。こうすれば、業務の変更に失敗した場合、データを速やかに復元できます。

重要なマイルストーンに対する持続的なバックアップ

スナップショットは業務データの持続的なバックアップとして、業務データのマイルストーン状態を記録することに使えます。

迅速な業務デプロイ

業務のスナップショットファイルを使用し、複数のCBSを迅速にクローンできます。これにより、サーバの迅速なデプロイが可能になります。

ユースケース

スナップショットは便利で効率的なデータ保護サービスであり、以下の業務シーンに使用することをお勧めします：

日常のデータバックアップ

誤操作、攻撃、ウイルスなどによるデータの紛失に備え、スナップショットを使用し、定期的に重要な業務データをバックアップします。

素早いデータリカバリー

OSの変更、アプリケーションのアップデート、業務データの移行など、重要な操作を実施する前に、スナップショットを1つまたは複数作成します。操作中に問題が発生した場合、作成されたスナップショットで業務データを素早く復元できます。

本番データによるレプリカの豊富な運用

本番データのスナップショットを作成することにより、データマイニング、レポートクエリ、開発・テストなどのアプリケーションにほぼリアルタイムな本番データを提供できます。

迅速な環境デプロイ

CVMのスナップショットを作成し、作成されたスナップショットでカスタムイメージを作成します。作成されたイメージから1つまたは複数のインスタンスを作成できます。これにより、環境が同じなCVMの一括デプロイを短時間で完了し、繰り返して設定することにかかる時間を節約できます。

課金ルール

スナップショットの料金については、[スナップショットの課金概要](#)と[スナップショットの価格一覧](#)をご参照ください。

クォータ制限

スナップショットのクォータ制限については、[使用制限](#)をご参照ください。

スナップショットタイプ

手動スナップショット

ある時点のCBSデータのスナップショットを手動で作成します。このスナップショットは、短時間でデータが同じなCBSを複数作成すること、また、将来CBSをこの時点の状態に復元することに使用できます。操作の詳細については、[スナップショットの作成](#)をご参照ください。

定期的なスナップショット

継続的に業務を更新する時、定期的にスナップショットを作成することで、持続的なバックアップ機能を提供できます。バックアップポリシーを作成し、ポリシーの適用対象CBSを指定すれば、一定期間内にCBSのデータを継続的にバックアップすることが可能となり、データの安全性が大幅に向上します。操作の詳細については、[定期的なスナップショット](#)をご参照ください。

説明：

スナップショット作成中に、一部のアプリケーションの作成データがメモリに保存され継続的に保存できなかったことがあります。これが原因で、スナップショットは最新かつ完全なCBSを網羅できない問題が発生します。[注意事項](#)を確認し、スナップショットのデータの一致性を確保してください。

事例の振り返り

事例1：リスクの高い操作を実施する前に、スナップショットを作成しなかったため、データは失われました

例：顧客AはCBSのスナップショットを作成したことがありません。2019年5月のある日、操作者がCBSに対して fio テストを実施し、ファイルシステムが壊れ、データを復元できませんでした。

分析：顧客Aがテスト前にCBSのスナップショットを作成していれば、データが壊れた場合、スナップショットでロールバックを実行し、業務を迅速に復元することができます。

事例2：重要なデータディスクに対して定期的にスナップショットを作成しなかったため、データは失われました

例：複数のCBSに対して顧客Bはスナップショットを作成しました。ただし、コストを考え、2019年1月以降新たに購入したCBSのスナップショットを作成しませんでした。2019年6月のある日、スナップショットのないあるCBSは、ファイルシステムレイヤーのデータが誤操作で削除されたため、データを復元できませんでした。

分析：顧客Bが問題の発生したCBSのスナップショットを作成していれば、データが誤操作で削除された場合、前回スナップショット作成時点の状態に復元し、損を抑えることができます。事故発生後に、顧客Bは問題が発生したCBSのスナップショットを作成し、データの保護を強化しました。

事例3：誤操作後に定期的なスナップショットでロールバックを実施し、データを復元しました

例:顧客CはすべてのCBSのスナップショットを作成しています。2019年5月のある日、誤操作でマシンを起動できませんでした。

分析：顧客Cは2日前に定期的に作成したスナップショットを使用しデータを復元しました。業務には影響を及ぼしませんでした。

上記のすべての事例では、誤操作によってデータの紛失が発生しました。比較して以下が分かります：

スナップショットを未作成の場合、サーバまたはCBSで問題が発生すれば、データを復元するのが非常に難しく、大きく損をします。

スナップショットを作成済みの場合、サーバまたはCBSで問題が発生すれば、基本的にデータを復元でき、それほど損をしません。

業務のタイプに応じて定期的にスナップショットを作成することで、データの安全性を向上させ、業務の低コスト高ディザーストリカバリーを実現することをお勧めします。

その他

その他の [スナップショット問題](#) が発生した場合、トラブルシューティングのためにこちらからFAQを提供します。

ネットワークとセキュリティ

概要

最終更新日：：2022-10-11 16:38:36

Tencent Cloudはネットワークインフラストラクチャとセキュリティ サービスを提供し、お客様のインスタンスが安全、自由、かつ高効率で外部と内部にサービスを提供するように保障します。

暗号化ログイン方法

Tencent Cloudでは、[パスワードによるログイン](#)と[SSHキーによるログイン](#)という2種類の暗号化ログイン方法を提供します。これらいずれかの方法を使用してCVM インスタンスに接続することができます。SSHキーを使用したWindows CVMのログインはサポートされていません。

ネットワークアクセス

同じTencent Cloud上にあるクラウド製品は、[Internetアクセス](#) または [プライベートネットワークアクセス](#) 経由で互いに安全に通信することができます。

Internetアクセス：Internetアクセスは、Tencent Cloudがインスタンスの公開データ伝送用サービスとして提供するものです。インスタンスにはパブリックIPアドレスが割り当てられ、ネットワーク上の他のコンピュータと通信を行うことができます。

プライベートネットワークアクセス：ローカルエリアネットワーク（LAN）サービスであり、Tencent Cloud は、インスタンスにプライベート IP アドレスを割り当て、同じ LAN 上で相互に無料で通信できるようにします。

ネットワーク環境

Tencent Cloudの [ネットワーク環境](#) は、基本ネットワークとVirtual Private Cloud（VPC）に分けられます。

基本ネットワーク：基本ネットワークはTencent Cloud上のすべてのユーザーのための公共のネットワークリソースプールです。Tencent Cloudを知り、使用し始めたばかりのユーザーに適しています。

Virtual Private Cloud：Tencent Cloud内の、論理的に分離したカスタム仮想ネットワークです。VPCの IPアドレス空間を選択した範囲で定義できます。ユーザーが定義する IPアドレス範囲でCVM インスタンスを起動して、自分のリソースを他のユーザーのリソースから分離できます。VPCは、ネットワーク管理に慣れているユーザーに向いています。

セキュリティグループ

セキュリティグループ は、パケットフィルタリング機能を備えた仮想ファイアウォールであり、単一または複数の CVM インスタンスのネットワークアクセス制御を設定するために使用されます。これは Tencent Cloud が提供するネットワークセキュリティ分離の重要な手段です。

以下の方法を使用して、インスタンスのアクセス権限を制御することができます。

複数のセキュリティグループを作成し、セキュリティグループごとに異なるルールを指定します。

各 CVM インスタンスに 1 つ以上のセキュリティグループを関連付けます。これらのルールに基づいて、Tencent Cloud はインスタンスにアクセスできるトラフィックと、インスタンスがアクセスできるリソースを確定します。特定の IP アドレスまたは特定のセキュリティグループのみがインスタンスにアクセスできるように、セキュリティグループを構成します。

Elastic IP(EIP)

Elastic IP（略称 EIP）は、単独で購入および所有が可能な、あるリージョンにおいて固定かつ不変のパブリック IP アドレスです。

次のようなケースでは、EIP の使用を推奨します。

インスタンスは制御不能な原因によりダウンする可能性があるため、同一 IP アドレスの代替インスタンスによってアクセスを保証する必要があります。

インスタンスはパブリック IP アドレスがないため、静的 IP アドレスが必要です。

Elastic Network Interface

Elastic Network Interface（ENI）は、VPC 上の CVM インスタンスに接続可能な仮想ネットワークインタフェースであり、インスタンス間で自由に移行できます。ENI はネットワーク管理の設定、信頼性の高いネットワークソリューションの構築の際に役立ちます。

Cloud Workload Protection

Cloud Workload Protection は、Tencent Security に蓄積された膨大な脅威データに基づき、機械学習を利用して、ハッカー侵入検知および脆弱性リスクの事前警告などのセキュリティ保護サービスをユーザーに提供します。これには主に、パスワード解除ブロック、リモートログイン通知、トロイの木馬ファイル検出、ハイリスク脆弱性検出などのセキュリティ機能が含まれ、サーバーが直面する主要なネットワークセキュリティリスクを解決し、企業によるサーバーセキュリティ保護システムの構築とデータ漏洩防止に役立ちます。

Anti-DDoS Basic

Anti-DDoS BasicはTencent CloudがCVM、CLBなどのリソース向けに無料で提供する基本的なAnti-DDoS機能であり、日常的なセキュリティオペレーションのニーズを満たすものです。Tencent Cloudはユーザーのセキュリティ信用ステータスに基づき、ブロックのしきい値を動的に調整します。Anti-DDoS Basicはデフォルトで有効になっており、ネットワークのトラフィックをリアルタイムに監視し、攻撃を検出するとただちに駆除し、Tencent Cloud上のパブリックIPを秒レベルで保護します。

プレイスメントグループ

最終更新日：2024-03-21 09:20:09

プレイスメントグループは、インスタンスを基盤となるハードウェアに分散するためのポリシーです。プレイスメントグループで作成したインスタンスは、起動時にディザスターリカバリーと高可用性機能を備えています。Tencent Cloud CVM はインスタンスのプレイスメントポリシーを提供します。これにより、特定のポリシーを使用してインスタンスを強制的に分散させ、基盤となるハードウェア/ソフトウェア障害が CVM サービスに与える影響を軽減できます。プレイスメントグループを使用してサービスに関する CVM インスタンスを異なる物理サーバーに別々にデプロイし、サービスの高可用性と基盤となる災害復旧機能を確保できます。プレイスメントグループでインスタンスを作成すると、事前に設定したデプロイポリシーに従って指定したリージョンでインスタンスを起動します。インスタンスにプレイスメントグループを設定していない場合、サービスの高可用性を確保するために、なるべく異なる物理サーバーでインスタンスを起動します。

スプレッドプレイスメントグループ

現在、プレイスメントグループはスプレッドプレイスメントグループをサポートしています。スプレッドプレイスメントグループは、同時障害のリスクを軽減するために異なる基盤となるハードウェアに配置されるインスタンスのグループです。マスター/スレーブデータベースや高可用性クラスターなど、重要なインスタンスが互いに分離して保持される必要があるアプリケーションに推奨されます。スプレッドプレイスメントグループでインスタンスを起動すると、インスタンスが同じ基盤となるハードウェアを共有するときに発生し得る同時障害のリスクが軽減されます。

スプレッドプレイスメントグループは地域属性があり、複数のアベイラビリティゾーンに展開できます。各グループに配置できるインスタンスの数には制限があります。詳細については、公式Webサイトのコンソールページをご参照ください。

説明：

スプレッドプレイスメントグループでインスタンスを起動すると、ハードウェアが不十分な場合、リクエストは失敗します。通常、しばらく待ってから操作を再試行することができます。

スプレッドプレイスメントグループのルールと制限事項

スプレッドプレイスメントグループを使用する前に、次のルールに注意してください。

プレイスメントグループを結合することができません。

インスタンスは、1つのプレイスメントグループにのみ追加できます。

スプレッドプレイスメントグループは、物理マシン、スイッチ、またはラックに配置できます。

放置グループは、物理マシン、スイッチ、ラックの3つのレベルでのアフィニティー設定をサポートします。アフィニティーの範囲は1～10で、対応するレベルで分散可能なインスタンスの最大数を表し、比較的厳格な分散ポリシーに従いながら、ある程度の柔軟性を考慮します。

グループのプレイスメントレベルによって、サポート可能なインスタンスの最大数が異なります。詳細については、公式Webサイトをご参照ください。

ディザスタリカバリグループポリシーを使用すると、ご指定のポリシーが厳守されます。インスタンスを分散するのに十分なハードウェアがない場合、一部のインスタンスの作成が失敗することに注意してください。

専用 CVM インスタンスは、スプレッドプレイスメントグループをサポートしません。

操作ガイド

より詳細な情報については、[スプレッドプレイスメントグループ](#)をご参照ください。

ネットワーク環境

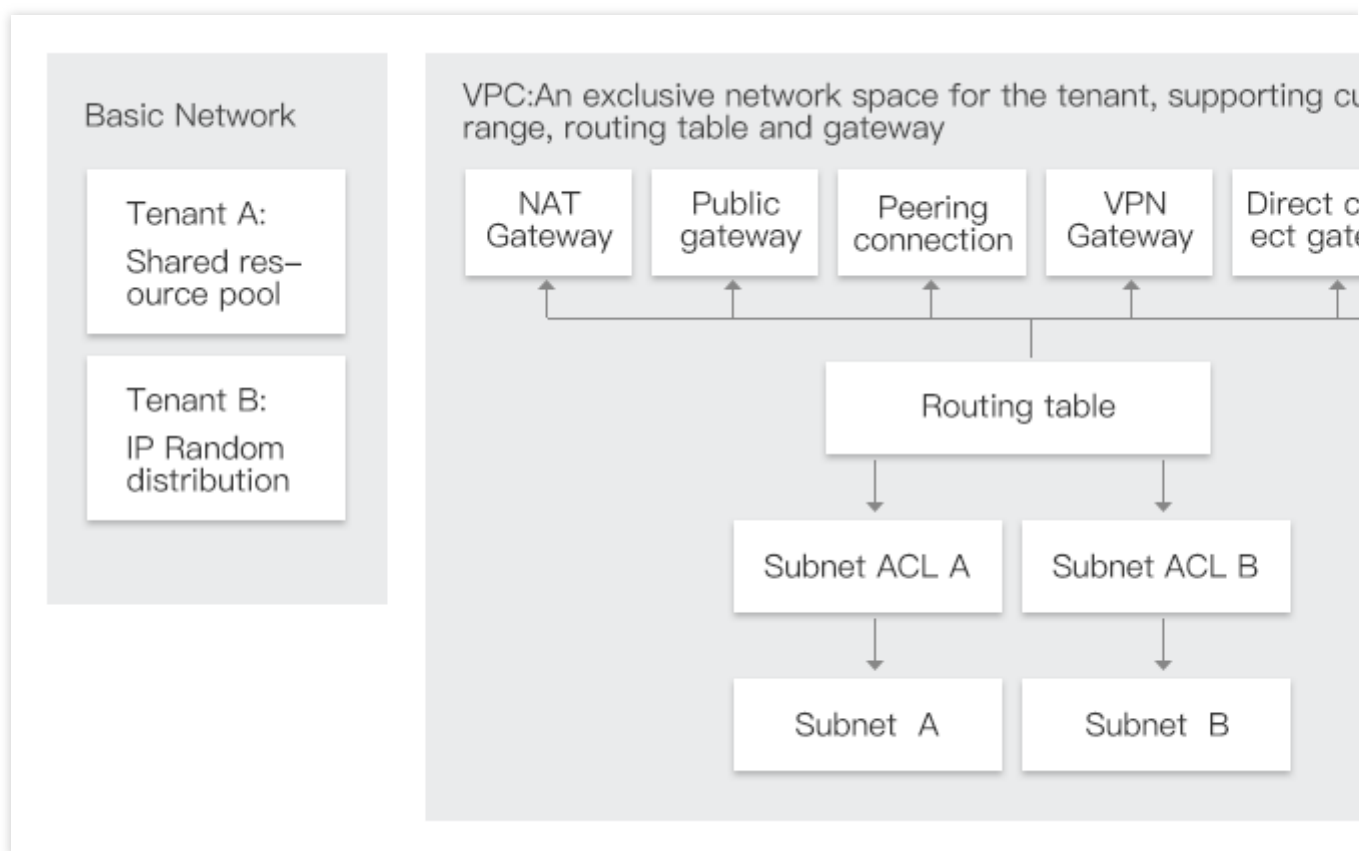
最終更新日：：2022-10-14 11:12:23

Tencent Cloudでは、「[Virtual Private Cloud \(VPC\)](#)」と「[Classic Network](#)」の2つのネットワーク環境をご提供します。

Virtual Private CloudとClassic Network

VPC

Tencent Cloud [VPC](#) は、Tencent Cloud上に定義した論理的に分離されたプライベート仮想ネットワーク空間です。同じリージョン内であっても異なるVPCはデフォルトでは相互に通信できません。データセンターで実行するレガシーネットワークと同様に、[Cloud Virtual Machine](#)、[Cloud Load Balancer](#)、[TencentDB for MySQL](#) などの Tencent Cloud リソースは、Tencent Cloud の VPC でホストされ、仮想ネットワーキング環境を完全に制御できます。構成とユースケースの詳細については、[VPC製品の概要](#) をご参照ください。VPC は、より複雑なネットワークアーキテクチャを構築するのに役立ち、ネットワーク管理に精通しているユーザーに適しています。



Classic Network

Classic Networkは、すべてのTencent Cloudユーザー向けのパブリックネットワークリソースプールです。すべてのTencent Cloud リソースは、Tencent Cloud によって集中管理されます。

Virtual Private CloudとClassic Networkの機能比較

機能	Classic Network	VPC
テナントに関連付ける	テナントに関連付ける	GRE カプセル化に基づく論理的に分離されたネットワーク
ネットワークのカスタマイズ	未対応	対応
ルーティングのカスタマイズ	未対応	対応
カスタム IP	未対応	対応
相互接続ルール	同じリージョン内の同じテナントは、相互接続されています	クロスリージョン、クロスアカウントでの相互接続がサポートされています
セキュリティ制御	セキュリティグループ	セキュリティグループと ネットワークACL

Virtual Private CloudとClassic Network間のリソースの共有とアクセス

一部のTencent Cloud リソースと機能は、Virtual Private CloudとClassic Networkの両方をサポートし、2つの異なるネットワーク経由で共有またはアクセスできます。

リソース	説明
イメージ	イメージを使用してあらゆるネットワーク環境で CVM インスタンスを起動できます
Elastic IP	EIPは、あらゆるネットワーク環境でCVMインスタンスに関連付けることができます
インスタンス	Virtual Private CloudとClassic Network内のインスタンスは、 パブリックIP または ClassicLink を介して相互に通信できます
SSHキー	SSH キーは、あらゆるネットワーク環境での CVM インスタンスの読み込みをサポートします
セキュリティグループ	セキュリティ グループは、あらゆるネットワーク環境下でCVMインスタンスに関連付けることができます

説明：

[Cloud Load Balancer](#) はClassic NetworkとVPCの間で共有できません。

ネットワーク間の相互接続が構築されていても、Cloud Load BalancerをVirtual Private CloudとClassic Network内のインスタンスに同時に関連付けることはできません。

Classic Network内のインスタンスを VPCに移行する

[VPC への切り替え](#) を参照して、Classic Network内のインスタンスを VPC に移行してください。

プライベートネットワーク サービス

最終更新日：2024-01-04 10:50:14

プライベートネットワークサービスは、クラウドサービスが内部リンクを通じて相互にアクセスできるローカルエリアネットワーク（LAN）サービスです。Tencent Cloudのクラウド製品は、[Internet](#) またはTencent Cloud のプライベートネットワークを介して相互にアクセスすることができます。Tencent Cloudデータセンターはメガバイト/ギガバイトの基盤となるネットワークと相互接続され、高帯域幅と低遅延のプライベートネットワーク通信サービスを提供し、ネットワーク アーキテクチャを柔軟に構築するのに役立ちます。

プライベートIPアドレス

概要

プライベートIPアドレスはインターネット経由でアクセスできないアドレスであり、Tencent Cloudのプライベートネットワークサービスの実現形式です。各インスタンスには、プライベートIPを割り当てるためのデフォルトのネットワークインターフェース（eth0）があります。プライベートIPはTencent Cloudによって自動的に割り当てられるか、ユーザーによってカスタマイズできます（[Virtual Private Cloud](#) 環境のみ）。

説明：

OSの内部でプライベートIPを自分で変更すると、プライベートネットワークが中断される可能性があります。

属性

プライベートネットワークサービスはユーザー属性があり、ユーザー間のプライベートネットワークは互いに分離されています。つまり、デフォルトではプライベートネットワークを介して他のユーザーのクラウドサービスにアクセスすることはできません。

プライベートネットワークサービスはリージョン属性があり、異なるリージョン間のプライベートネットワークは互いに分離されています。つまり、デフォルトではプライベートネットワークを介して同じアカウントの異なるリージョンのクラウドサービスにアクセスすることはできません。

アプリケーションシナリオ

プライベートIPを使用すると、CLBとCVMインスタンス間、およびCVMインスタンスとその他のクラウドサービス(TencentDB など)間の通信が可能になります。

IPアドレスの割り当て

各CVMインスタンスは、起動時にデフォルトのプライベートIPアドレスが割り当てられます。異なる [ネットワーク環境](#) によってプライベートIPも異なります：

Classic network：プライベートIPアドレスはTencent Cloudに自動的にアサインされて、変更不可です。

Virtual Private Cloud：現在、Tencent Cloud VPC CIDR では、3つのプライベートネットワークセグメントのいずれかを使用できます。IPアドレス範囲は次のとおりです。

10.0.0.0 - 10.255.255.255（マスク範囲は/12 から /28 まで）

172.16.0.0 - 172.31.255.255（マスク範囲は/12 から /28 まで）

192.168.0.0 - 192.168.255.255（マスク範囲は/16 から /28 まで）

プライベートネットワーク DNS

DNS サーバーアドレス

プライベートネットワークDNSサービスはドメイン名の解析に使用されます。DNSが正しく設定されていないと、ドメイン名にアクセスできなくなります。

Tencent Cloudは様々なリージョンに信頼できるプライベートネットワークDNSサーバーを提供しています。具体的な構成は以下のようになります：

ネットワーク環境	リージョン	プライベートネットワークDNSサーバー
Classic Network	広州	10.225.30.18 110.225.30.223
	上海	10.236.158.114 10.236.158.106
	北京	10.53.216.182 10.53.216.198
	上海金融	10.48.46.77 10.48.46.27
	深セン金融	100.83.224.91 100.83.224.88
	北アメリカ	10.116.19.188 10.116.19.185
	中国香港	10.243.28.52 10.225.30.178
	シンガポール	100.78.90.19 100.78.90.8
	広州Open	10.59.218.18 10.112.65.51
	成都	100.88.222.14

		100.88.222.16
	シリコンバレー	100.102.22.21 100.102.22.30
	フランクフルト	100.120.52.60 100.120.52.61
	ソウル	10.165.180.53 10.165.180.62
Virtual Private Cloud	全リージョン	183.60.83.19 183.60.82.98

操作ガイド

インスタンスのプライベートIPアドレスを表示または変更できます。詳細な手順については、次のドキュメントをご参照ください：

[インスタンスのプライベートIPアドレスの取得と DNS の設定](#)

[インスタンスのプライベート IP アドレスの変更](#)

パブリックサービス

最終更新日：2020-12-30 14:10:15

ユーザーはCVMインスタンスでデプロイしたアプリケーションが公共サービスとして提供する場合、Internetに介してデータを転送し、InternetでのIPアドレス（パブリックIPアドレスとも呼ばれる）が必要です。Tencent CloudのInternetアクセスはTencent Cloudデータセンターの高速インターネットに介して提供します。中国国内のマルチ回線BGPネットワークは20以上のネットワークキャリアをカバーし、BGPパブリックネットワークIPは秒レベルで複数のリージョンを切り替えられます。ユーザーがどのネットワークを使用しても、高速で安全なネットワークを享受できます。

パブリックIPアドレス

概要：パブリックIPアドレスはInternet上で保持しないアドレスです。パブリックIPアドレスをもつCVMはインターネットの他のコンピューターと相互にアクセスできます。

獲得：CVMを作成する時、ネットワークで帯域幅を0Mbpsより大きく設定します。設定完了後、Tencent Cloudシステムは自動的にパブリックIPアドレスプールからIPを取得してインスタンスにアサインします、このアドレスは変更することができます。詳細操作は [パブリックネットワークIPの置き換え](#) をご参照ください。

設定：InternetでパブリックネットワークIPアドレスをもつCVMインスタンスにログインして、関連設定を行います。CVMインスタンスのログイン詳細情報について、[Linux インスタンスのログイン](#) と [Windows インスタンスのログイン](#) をご参照ください。

変換：パブリックIPアドレスはネットワークアドレス変換(NAT)を通して、インスタンスの [プライベートIPアドレス](#) にマッピングされます。

メンテナンス：Tencent CloudのすべてのパブリックネットワークインターフェースはTencent Gateway(TGW)に処理されます。Tencent Cloud CVMインスタンスのパブリックネットワークENIは統合インターフェイスレイヤーTGWで構成されているため、CVMが感知無しです。ユーザーがCVMで `ifconfig` (Linux) また `ipconfig` (Windows) コマンドを使用して、ネットワークインターフェースの情報を確認する時、[プライベートネットワーク](#) の情報のみ確認できます。パブリックネットワーク情報はユーザー自ら [CVM コンソール](#) にログインしてCVMのリスト/詳細画面で確認します。

費用：インスタンスがパブリックIPアドレスによってサービスを提供する時、関連する費用を支払い必要があります。詳細については、[ネットワーク帯域幅の購入](#) をご参照ください。

パブリックIPアドレスをリリースする

ユーザーがインスタンスと関連するパブリックIPアドレスを主動にアソシエイト・リリースすることができません。

以下のような状況が発生した場合、パブリックIP アドレスはリリースされ、また再アサインされます：

****インスタンスを廃棄する時****ユーザーが自主的に従量課金タイプのインスタンスを廃棄する時、Tencent Cloud は該当パブリックIP アドレスをリリースします。

ElasticパブリックIP アドレス はインスタンスと関連付け・関連付けを解除する時。インスタンスはElasticパブリックIP アドレスに関連付けられると、Tencent Cloudはこのインスタンスの元のパブリックIPアドレスをリリースします。インスタンスとElastic IP アドレスの関連付けを解除する時、インスタンスが新しいパブリックIPアドレスにアサインされ、リリースされた元のパブリックIPアドレスはパブリックIPアドレスプールに戻されて、再利用することができません。

固定の永続なパブリックIPアドレスが必要な場合、**ElasticパブリックIP アドレス** を使用できます。

操作ガイド

パブリックIPアドレスの獲得・置き換えなどの操作を実行できます、詳細な手順については、以下をご参照ください。

[インスタンスパブリックIPアドレスの獲得](#)

[インスタンスパブリックIPアドレスの置き換え](#)

Elastic IP

最終更新日：2023-01-06 15:22:30

概要

Elastic IP (EIP) は、動的なクラウドコンピューティングのために設計された静的 IPv4 アドレスです。EIPを使用すると、アドレスをアカウント内の別のインスタンスまたは NAT ゲートウェイインスタンスに迅速に再マッピングすることで、インスタンスやソフトウェアの障害をマスクできます。

EIPは、リリースされる前にアカウントに保持できます。CVMと一緒にしか解放できないパブリック IP と比較して、EIPはCVMのライフサイクルから切り離され、クラウドリソースとして独立して動作することができます。たとえば、サービスと密に関連付けられている特定のパブリックIPを保持したい場合、それをEIPに変換してアカウントに保持できます。

EIPと一般的なパブリックIPの違い

パブリックIPアドレスはInternet上の非予約アドレスであり、パブリックIPアドレスを持つCVMはInternet上の他のコンピュータと相互にアクセスすることができます。一般のパブリックIPとEIPはいずれもパブリックIPアドレスであり、両方はクラウドリソースにパブリックへのアクセスとパブリックからのアクセスの能力を提供しています。

一般的なパブリックIP：CVMの購入時に自動的に割り当てられ、CVMの関連付けを解除できません。購入時にパブリックIPアドレスが割り当てられていない場合は取得できません。

EIP：個別に購入して保有できるパブリックIPアドレスのリソースです。CVM、NATゲートウェイ、ENI、高可用性仮想IPなどのクラウドリソースといつでも関連付け/関連付けを解除することができます。

説明：

現在、一般的なパブリックIPは、標準BGP IP線路タイプのみサポートしています。

EIP は、一般的なパブリックIPと比較して、次の表に示すように、より柔軟な管理方法を提供します。詳細については、[パブリックIPv4アドレス](#) をご参照ください。

比較項目	一般的なパブリックIP	EIP
パブリックへのアクセス/パブリックからのアクセス	✓	✓
個別に購入または保有する	×	✓
いつでも関連付け/関連付け解除	×	✓
帯域幅のリアルタイム調整 ¹	✓	✓

IPリソースの占有費	×	✓
------------	---	---

説明：

パブリックIPコンソール はEIPの帯域幅調整のみをサポートしています。一般的なパブリックIPの帯域幅調整については、[一般的なパブリックIPネットワーク設定の調整](#) をご参照ください。

EIPは、クラウドリソースのライフサイクルから切り離され、クラウドリソースとして独立して動作することができます。例えば、ビジネス関連性の高いパブリックIPアドレスを保持する必要がある場合は、一般的なパブリックIPをEIPに変換してアカウントに保持することができます。

ルールと制限

使用ルール

EIP は、Classic networkとVirtual Private Cloudのインスタンス、およびVirtual Private Cloud内の [NATゲートウェイ](#) インスタンスに適用されます。

EIP をCVMインスタンスに関連付ける場合は、インスタンスの現在のパブリックIPアドレスはリリースされます。CVM/NAT ゲートウェイインスタンスが終了すると、EIPとの関連付けが解除されます。

EIP 課金ルールの詳細については、[EIP課金](#) をご参照ください。

EIPの操作手順の詳細については、[EIP](#) をご参照ください。

クォータ制限

リソース	制限
アカウントごとに1つのリージョンに申請できるEIPアドレスの最大数	20個
アカウントごとに1つのリージョンに毎日購入可能回数	クォータ数 * 2回
EIPアドレスの関連付けを解除する場合、各アカウントは1日に無料でパブリック IP を再割り当てできる回数	10回

説明：

デフォルトでは、EIPのクォータ値は調整できません。[NAT Gateway](#)と[Cloud Load Balancer](#) を介してIPを集約します。

クォータを調整する必要がある場合は、アカウントには対応する同レベルのクラウドサービスリソースが存在し、合理的に使用してください。

CVMに関連付けるパブリック IP の制限

説明：

2019年9月18日の00:00 より前に購入されたCVMインスタンス、この制限は適用されません。各CVMインスタンスに関連付けできるパブリック IP の数は、サーバーでサポートされている [プライベートIPの数](#)と同じです。

CVMのCPU 数	関連付けできるパブリック IP の最大数（一般的なパブリックIPとEIPを含む
CPU : 1 - 5	2
CPU : 6 - 11	3
CPU : 12 - 17	4
CPU : 18 - 23	5
CPU : 24 - 29	6
CPU : 30 - 35	7
CPU : 36 - 41	8
CPU : 42 - 47	9
CPU : ≥ 48	10

Elastic Network Interface (ENI)

最終更新日：2022-10-24 16:27:34

Elastic Network Interface(ENI)は、VPC上のCVMインスタンスにアタッチできる仮想ネットワークインタフェースであり、インスタンス間で自由に移行できます。ENIは、ネットワークの設定と管理、および信頼性の高いネットワークソリューションの構築の際に非常に役立ちます。

ENIには、VPC、アベイラビリティーゾーン、およびサブネットの属性があり、同じアベイラビリティーゾーン内のCVMインスタンスにのみアタッチすることができます。CVMインスタンスに複数のENIをアタッチでき、アタッチできるENIの最大数はCVMの仕様によって異なります。

関連概念

プライマリENIとセカンダリENI：PCでCVMを作成するときにデフォルトで作成されるネットワークカードはプライマリENIであり、ユーザーによって作成されるネットワークカードはセカンダリENIです。プライマリENIはアタッチ/デタッチをサポートしませんが、セカンダリENIはアタッチ/デタッチをサポートします。

プライマリプライベートIP：ENIのプライマリプライベートIPは、ENIの作成時にシステムによってランダムに割り当てられるか、ユーザーによってカスタマイズされます。プライマリENIのプライマリプライベートIPを変更できますが、セカンダリENIのプライマリプライベートIPを変更できません。

セカンダリプライベートIP：ENIの作成または変更時にユーザーによって構成されます。ユーザーは、セカンダリプライベートIPをアタッチ/デタッチすることができます。

EIP：EIPとENIのプライベートIPの間に1対1の関連付けを作成します。

セキュリティグループ：ENIでは1つ以上のセキュリティグループを関連付けます。

MAC アドレス：ENIはグローバルに一意のMAC アドレスがあります。

ユースケース

プライベートネットワーク、パブリックネットワーク、管理ネットワーク間の分離：

重要なビジネスのネットワーク展開は、安全なデータ転送を実現するために、プライベートネットワーク、パブリックネットワーク、および管理ネットワーク間の分離が必要です。さまざまなルーティングポリシーとセキュリティポリシーにより、データセキュリティとネットワーク分離を保証できます。物理サーバーのように、CVMインスタンスに異なるサブネット上の3つのENIをアタッチすることにより、3つのネットワーク間の分離を実現できます。

信頼性の高いアプリケーションの展開：

システムアーキテクチャにおける主要コンポーネントの高可用性は、マルチサーバーホットバックアップによっ

て保証されます。Tencent Cloudは柔軟にアタッチ・デタッチできるENIとプライベートIPを提供します。

Keepalived ディザスタリカバリーを設定することにより主要コンポーネントの高可用性展開を実現できます。

使用制限

CPUとメモリの構成に基づいて、CVMインスタンスにアタッチできるENIの最大数は、ENI にアタッチできるプライベート IPの最大数とは異なります。ENIと単一のENI IPのクォータ数は以下のとおりです：

ご注意：

1つのENI にアタッチする IP の数は、ENI にアタッチできるIPの数の上限を表すのみで、上限に応じてEIPクォータを提供することをお約束するものではありません。アカウントのEIPクォータは、EIP使用制限に従って提供されます。

CVMインスタンスにアタッチできるENIの数

CVMインスタンスの単一のENIにアタッチできるプライベートIPの数

モデル	インスタンス タイプ	ENIクォータ							
		CPU : 1コア	CPU : 2コア	CPU : 4コア	CPU : 6コア	CPU : 8コア	CPU : 10コア	CPU : 12コア	CPU : 14コア
標準型	標準型 S5	2	4	4	-	6	-	-	-
	標準ス トレージ拡張 型S5se	-	-	4	-	6	-	-	-
	標準型 SA2	2	4	4	-	6	-	-	-
	標準型 S4	2	4	4	-	6	-	-	-
	標準 ネット ワーク 最適化 型 SN3ne	2	4	4	-	6	-	8	-
	標準型 S3	2	4	4	-	6	-	8	-

	標準型 SA1	2	2	4	-	6	-	-	-
	標準型 S2	2	4	4	-	6	-	8	-
	標準型 S1	2	4	4	-	6	-	8	-
High IO型	High IO 型IT5	-	-	-	-	-	-	-	-
	High IO 型IT3	-	-	-	-	-	-	-	-
メモリ 型	メモリ 型M5	2	4	4	-	6	-	8	-
	メモリ 型M4	2	4	4	-	6	-	8	-
	メモリ 型M3	2	4	4	-	6	-	8	-
	メモリ 型M2	2	4	4	-	6	-	8	-
	メモリ 型M1	2	4	4	-	6	-	8	-
コン ピュー ティン グ型	コン ピュー ティン グ型C4	-	-	4	-	6	-	-	-
	コン ピュー ティン グネッ トワー ク拡張 型CN3	-	-	4	-	6	-	-	-
	コン ピュー ティン グ型C3	-	-	4	-	6	-	-	-

	コン ピュー ティン グ型C2	-	-	4	-	6	-	-	-
GPU モデル	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN2	-	-	-	-	-	-	-	-
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN6	-	-	-	-	-	-	-	-
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN6S	-	-	4	-	6	-	-	-
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN7	-	-	4	-	6	-	-	-
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN8	-	-	-	4	-	-	-	8
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN10X	-	-	-	-	6	-	-	-

	GPUコン ピュー ティン グ型 GN10Xp	-	-	-	-	-	6	-	-
FPGA モデル	FPGAア クセラ レー ション 型FX4	-	-	-	-	-	6	-	-
ビッグ データ 型	ビッグ データ 型D3	-	-	-	-	6	-	-	-
	ビッグ データ 型D2	-	-	-	-	6	-	-	-
	ビッグ データ 型D1	-	-	-	-	6	-	-	-
Cloud Physical Machine2.0		ENIのアタッチをサポートしません							

モデル	インス タンス タイプ	単一のENIにアタッチできるプライベートIPの数							
		CPU : 1コア	CPU : 2コア	CPU : 4コア	CPU : 6コア	CPU : 8コア	CPU : 10コア	CPU : 12コア	CPU : 14コア
標準型	標準型 S5	6	10	10	-	20	-	-	-
	標準ス トレージ拡張 型S5se	-	-	20	-	20	-	-	-
	標準型 SA2	6	10	10	-	20	-	-	-

	標準型 S4	6	10	10	-	20	-	-	-
	標準 ネット ワーク 最適化 型 SN3ne	6	10	10	-	20	-	30	-
	標準型 S3	6	10	10	-	20	-	30	-
	標準型 SA1	メモリ =1G : 2メモリ >1G : 6	10	メモリ =8G : 10メモリ =16G : 20	-	20	-	-	-
	標準型 S2	6	10	10	-	20	-	30	-
	標準型 S1	6	10	10	-	20	-	30	-
High IO型	High IO 型IT5	-	-	-	-	-	-	-	-
	High IO 型IT3	-	-	-	-	-	-	-	-
メモリ 型	メモリ 型M5	6	10	10	-	20	-	30	-
	メモリ 型M4	6	10	10	-	20	-	30	-
	メモリ 型M3	6	10	10	-	20	-	30	-
	メモリ 型M2	6	10	10	-	20	-	30	-
	メモリ 型M1	6	10	10	-	20	-	30	-
コン	コン	-	-	10	-	20	-	-	-

コンピューティング型	コンピューティング型C4								
	コンピューティングネットワーク拡張型CN3	-	-	10	-	20	-	-	-
	コンピューティング型C3	-	-	10	-	20	-	-	-
	コンピューティング型C2	-	-	10	-	20	-	-	-
GPUモデル	GPUコンピューティング型GN2	-	-	-	-	-	-	-	-
	GPUコンピューティング型GN6	-	-	-	-	-	-	-	-
	GPUコンピューティング型GN6S	-	-	10	-	20	-	-	-
	GPUコンピューティング	-	-	10	-	20	-	-	-

	グ型 GN7								
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN8	-	-	-	10	-	-	-	30
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN10X	-	-	-	-	20	-	-	-
	GPUコ ン ピュー ティン グ型 GN10Xp	-	-	-	-	-	20	-	-
FPGA モデル	FPGAア クセラ レー ション 型FX4	-	-	-	-	-	20	-	-
ビッグ データ 型	ビッグ データ 型D3	-	-	-	-	20	-	-	-
	ビッグ データ 型D2	-	-	-	-	20	-	-	-
	ビッグ データ 型D1	-	-	-	-	20	-	-	-
Cloud Physical Machine2.0		ENIのアタッチをサポートしません							

APIの概要

ここでENIとCVMに関するAPIインターフェースを次の表に示します。他のENIに関する操作については、[ENI API 一覧](#)をご参照ください。

インターフェース機能	Action ID	機能説明
ENIの作成	CreateNetworkInterface	ENIの作成
プライベートIPアドレスをENIに割り当てる	AssignPrivateIpAddresses	プライベートIPアドレスをENIに割り当てる
CVMインスタンスへのENIのアタッチ	AttachNetworkInterface	CVMインスタンスへのENIのアタッチ

ログインパスワード

最終更新日：：2022-10-20 17:21:51

パスワードは、CVM インスタンスの一意のログイン資格情報です。インスタンスの安全性と信頼性を確保するために、Tencent Cloud は次の 2 つの暗号化されたログイン方法を提供します。

パスワードでログインする

[SSHキー](#)ペアでログインする

CVMのOSにより、下記のドキュメントを参考し、CVMを作成する時に異なるログイン方法を選択することができます。

[Windows CVMのカスタム設定](#)

[Linux CVMのカスタム設定](#)

インスタンスのログインパスワードを持っているユーザーはだれでもセキュリティグループによって許可されているパブリックアドレスでCVMインスタンスにログインできます。推測されにくい安全なパスワードを作成し、大切に保管してください。また、定期的にパスワードを変更することをお勧めします。

パスワードに関する詳細は、[ログインパスワードの管理](#) をご参照ください。

SSHキー

最終更新日：2021-11-01 15:56:27

インスタンスの安全性と信頼性を確保するために、Tencent Cloudは [パスワードログイン](#) とSSH キーペア・ログインの2種類の暗号化ログイン方式を提供します。本ドキュメントはSSH キーペア・ログインの設定について説明します。

[Linux CVM のカスタマイズ設定](#) を行う時、SSHキーはCVMの暗号化ログイン方式として選択することができます。

SSHキーの概要

Tencent Cloudでは**SSHキーペア**を使用したLinuxインスタンスへのログインを推奨しています。SSHキーペアは暗号化アルゴリズムによって生成された一対のキーです。Tencent Cloudが作成するSSHキーペアはRSA 2048ビットの暗号化方式を採用しており、公開するキー（公開鍵）と秘密のキー（秘密鍵）を含むキーを生成します。

公開鍵：SSHキーペアの生成が完了した後、Tencent Cloudは公開鍵のみを保存します。Linuxインスタンスの場合、公開鍵の内容は `~/.ssh/authorized_keys` ファイルに保存されます。

秘密鍵：秘密鍵はダウンロードして適切に保管する必要があります。秘密鍵にはダウンロードの機会が一度しかなく、Tencent Cloudは秘密鍵を保存しません。お客様の秘密鍵があれば誰でもお客様のログイン情報を復号することができるため、秘密鍵は安全な場所に保存する必要があります。

キーペアによって安全にCVMに接続することができます。キーペアを使用したCVMへのログインは通常のパスワード使用に比べてより安全です。インスタンス作成時にキーペアを指定するか、インスタンス作成後にキーペアをバインドするだけで、秘密鍵を使用してLinuxインスタンスにログインすることが可能になり、パスワードの入力が不要になります。

機能とメリット

従来のユーザー名とパスワードの認証方式と比較して、SSHキーは以下の利点があります。

SSH キーを利用してログイン認証はより高い安全性と信頼性を提供して、総当たり攻撃の脅威を防ぎます。

SSH キーログイン方式はより簡単で、コンソールとローカルクライアントで簡単に設定するだけで、リモートでインスタンスにログインできます。再度ログインする時にパスワードを入力する必要がありません。

使用制限

Linuxインスタンスのみをサポートしています。

各Tencent Cloudアカウントにつき、最大100個のSSHキーペアを持つことができます。

Tencent Cloudは秘密鍵の情報を保管しませんので、SSHキーの作成後は秘密鍵をダウンロードし、適切に保管する必要があります。

データセキュリティ上の観点から、キーのロードはシャットダウン状態で行う必要があります。

CVMの安全性を高めるため、インスタンスをキーにバインドした後は、デフォルトではパスワードログイン方式が使用できなくなります。パスワードでのログインを同時に使用する必要がある場合は、CVMコンソールの[インスタンスのパスワードをリセット](#)にお進みください。

ユースケース

キーの作成、バインディング/バインド解除、および削除方法については、[SSHキーの管理](#)をご参照ください。。

SSHキーを使用してCVMインスタンスにリモートでログインする方法については、以下をご参照ください。

[リモートログインソフトウェアを使用してLinuxインスタンスにログイン](#)

[SSHを使用してLinuxインスタンスにログイン](#)

クラウドワークロードプロテクション

最終更新日：2022-09-22 11:27:46

概要

Cloud Workload Protection Platformは、Tencent Securityに蓄積された膨大な脅威データに基づき、機械学習を利用して、ハッカー侵入検知および脆弱性リスクの事前警告などのセキュリティ保護サービスをユーザーに提供します。これには主に、パスワード解除ブロック、リモートログイン通知、トロイの木馬ファイル検出、ハイリスク脆弱性検出などのセキュリティ機能が含まれ、サーバーが直面する主要なネットワークセキュリティリスクを解決し、企業によるサーバーセキュリティ保護システムの構築とデータ漏洩防止に役立ちます。

Cloud Workload Protection Platformは基本的な保護および特別な保護という2つのバージョンに区分され、Tencent Cloud CVM作成時にデフォルトでCloud Workload Protection Platformの基本的な保護の無償アクティブ化を選択できます。

説明：

Cloud Workload Protection Platformの基本的な保護および特別な保護機能の説明と比較については、[機能説明とバージョン比較](#) をご参照ください。

課金方式

Cloud Workload Protection Platformの基本的な保護は無料です。

Cloud Workload Protection Platformの基本的な保護のインストール

実際の状況に応じて、次の方法でCloud Workload Protection Platformの基本的な保護をインストールできます。

CVM作成時に自動インストール

既存CVMへの手動インストール

Tencent CloudCVMの作成時に、デフォルトでCloud Workload Protection Platformの基本的な保護の無償アクティブ化を選択できます。下図に示すように、CVMインスタンス購入ページの「セキュリティ強化」で「無償アクティブ化」にチェックを入れれば、Cloud Workload Protection Platformが自動的にインストールされます。

Security ☒ Enable for Free
Reinforcement Free Anti-DDoS Protection and CWP Basic (component installation required) [Details](#)

既存のインスタンスにCloud Workload Protection Platformをインストールしたい場合は、対応するインスタンスオペレーティングシステムに次の方法でインストールしてください。

[Windows CVM環境](#)

[Linux CVM環境](#)

正常にインストールされた後、[CVMコンソール概要ページ](#) または [Cloud Workload Protection Platformコンソール](#) でCVMのセキュリティ状態を確認できます。

関連ドキュメント

Cloud Workload Protection Platformの基本的な保護および特別な保護 [機能説明とバージョン比較](#)
[セキュリティの概要](#)

アンチDDoSベーシック

最終更新日：2021-11-01 16:27:51

概要

Anti-DDoS BasicはTencent CloudがCVM、CLBなどのリソース向けに無料で提供する基本的なAnti-DDoS機能であり、日常的なセキュリティオペレーションのニーズを満たすものです。Tencent Cloudはユーザーのセキュリティ信用ステータスに基づき、ブロックのしきい値を動的に調整します。Anti-DDoS Basicはデフォルトで有効になっており、ネットワークのトラフィックをリアルタイムに監視し、攻撃を検出するとただちに駆除し、Tencent Cloud上のパブリックIPを秒レベルで保護します。

課金方式

Anti-DDoS Basicは無料のサービスです。その他のAnti-DDoSソリューションが必要な場合は、[Anti-DDoSソリューションの比較](#) をご参照ください。

Anti-DDoS Basicのアクティブ化

Tencent Cloud CVMでは作成時にデフォルトでAnti-DDoS Basicを無料でアクティブ化することを選択できます。

下図に示すように、CVMインスタンス購入画面の「Security Reinforce」で、「無料でアクティブ化する」にチェックを入れると、Anti-DDoS Basicをアクティブ化することができます。

アクティブ化後、[CVMコンソール概要ページ](#) またはAnti-DDoSコンソールの [Anti-DDoS Basic](#) 画面でCVMの保護設定を確認できます。

運用・保守・監視 インスタンス自己検出

最終更新日：：2022-05-06 16:57:27

概要

インスタンスセルフチェックは、Cloud Virtual Machine（CVM）インスタンスのパフォーマンス、費用、ネットワーク、ディスクなどの状態を検出できます。インスタンスの実行状態を理解するのに役立ちます。この機能を使用して、インスタンス関連の問題をタイムリーに検出して解決できます。

ユースケース

次の2つのシナリオでは、インスタンスのセルフチェックをお勧めします。

トラブルシューティング：インスタンスの操作中に障害または問題が発生した場合は、インスタンスのセルフチェックを使用して問題のトラブルシューティングと特定を行い、対応する提案に従って異常を処理できます。

インスタンスの全面的なチェック：日常のメンテナンスプロセスでは、インスタンスのセルフチェックを使用して、インスタンスの全体的な実行状態を把握し、問題をタイムリーに検出して解決し、サービスの正常な運用を保証できます。

チェックアイテムの説明

インスタンスのセルフチェックアイテムについて、以下の通り説明します：

ローカルネットワークチェック

チェックアイテム	チェック説明	リスクレベル	ソリューション
ネットワークディレイ	HTTPリクエストを送信して、インスタンスのネットワークディレイが高すぎるかどうかを検出します。標準は以下の通りです： 600ms以上の場合、ネットワーク不良と判断します 5秒を超えて応答がない場合、リクエストはタイムアウトしたと見なされます すべてのリクエストがタイムアウトした場合、ネットワーク障害と判断します	異常	ローカルネットワークの問題を確認し、特定の問題を修正してください。
ネット	隣接するリクエスト間の遅延値の差を取得します。その平均値はネット	-	

ワーク ジッ ター	トワークジッター値です。ネットワークジッター値/ネットワーク遅延値が0.15以下の場合、ネットワークは安定することを示します。0.15より大きい場合、ネットワークジッターを示します。		
アップ リンク 帯域幅	データパッケージをインスタンスにアップロードして、インスタンスのアップリンク帯域幅を計算します	-	
ダウン リンク 帯域幅	インスタンスからデータパッケージをダウンロードして、インスタンスのダウンリンク帯域幅を計算します	-	

セキュリティグループルールのチェック

チェック アイ テム	チェック説明	リス クレ ベル	ソリ ュー ション
セキュ リティ グルー プルー ルが共 通ポー トを許 可する か	インバウンド方向のTCPプロトコルの22、3389などの共通ポートのリクエストが禁止されているのはセキュリティグループにより起こされるか。	警告	インスタンスのセキュリティグループのインバウンド（Ingress）ルールのTCPプロトコルのポート22のリクエストは禁止されるため、SSHログインに失敗する可能性があります。必要なポートをオープンできます。詳細については、 セキュリティグループの適用例 をご参照ください。

アカウント料金のチェック

チェックアイテム	チェック説明	リス クレ ベル	ソリ ュー ション
Cloud Block Storage（CBS）の有効期限が切れているかどうか、インスタンスとCBSの有効期限が同じであるかどうか	インスタンスにバインディングされたCBSの有効期限が切れているかどうか、CBSの読み取りまたは書き込みができないかどうか	異常	インスタンスのCBSの有効期限が切れています。 CBSコンソール へ進んで、できるだけ早く更新してください。
	CBSの有効期限が切れているため、従量課金制インス	警告	インスタンスのCBSは自動更新に設定されていない場合、CBSが期限切れになって使用できなくなる可能性があります

タンスのCBSを使用できなくなるかどうか

ます。[CBSコンソール](#)へ進んで、CBSの自動更新を設定することをお勧めします。

インスタンスストレージのチェック

チェックアイテム	チェック説明	リスクレベル	ソリューション
CBSの遅延が長いかどうか	IOパフォーマンスsvctm指標は異常であるかどうか	警告	インスタンスのCBSには遅延が長いという問題があります。CBSの使用方法に注意することをお勧めします。
CBSにIO HANGの問題があるかどうか	CBSにIO HANGの問題があるかどうか	警告	インスタンスのCBSにIO HANGの問題があります。CBSの使用方法に注意することをお勧めします。
システムディスクのinode使用率	CBSのinode使用率が100%に達するかどうか	警告	CBSの使用方法に注意してください。トラブルシューティングについては、 カーネルおよびIO関連問題 をご参照ください。
システムディスクが読み取り専用であるかどうか	CBSが現在、読み取り専用であるかどうか	異常	
システムディスクのキャパシティー使用率	CBSのディスク使用率が100%に達するかどうか	警告	
合計時間に対するディスクパーティションのIO操作時間の割合	CBSのio_utilが100%に達するかどうか	警告	

インスタンス状態のチェック

チェックアイテム	チェック説明	リスクレベル	ソリューション
インスタンスの電源が	現在、インスタンスの電源がオフに	警告	インスタンスの電源がオフになっています。 CVMコンソール へ進んで、電源をオンにすることができます。

オフになっているかどうか	なっているかどうか		
インスタンスがリスタートされるかどうか	インスタンスが過去12時間以内にリスタートされたかどうか	警告	インスタンスは過去12時間以内にリスタートされました。インスタンスの実行状態に注意してください。
インスタンスカーネルのクラッシュ	インスタンスは過去12時間以内にhungtaskが発生したかどうか	異常	インスタンスは過去12時間以内にhungTask/panic/ソフトデッドロックが発生しました。インスタンスの実行状態に注意してください。トラブルシューティングについては、 カーネルおよびIO関連問題 をご参照ください。
	インスタンスは過去12時間以内にpanicが発生したかどうか	異常	
	インスタンスは過去12時間以内にソフトデッドロックが発生したかどうか	異常	

インスタンスパフォーマンスのチェック

チェックアイテム	チェック説明	リスクレベル	ソリューション
CPU使用率	インスタンスは過去12時間以内にCPU負荷が高すぎるかどうか	警告	サービスのボトルネックにならないように、CPU使用率を確認し、設定をタイムリーに調整することをお勧めします。トラブルシューティングについては、インスタンスのOSに対応して、次のドキュメントをご参照ください。 Windows インスタンス： CPUまたはメモリの占有率が高いため、ログインできません Linux の場合、 CPUまたはメモリの占有率が高いため、ログインできません
メモリ使用量	インスタンスは過去12時間以内にメモリ負荷が高すぎるかどうか	警告	
基本CPU使用率	インスタンスは過去12時間以内にCPU負荷が高すぎるかどうか	警告	

インスタンスネットワークチェック

チェックアイテム	チェック説明	リスクレベル	ソリューション
パブリックネットワークIPが滞納して機能していないかどうか	パブリックネットワークIPが滞納して分離されているかどうか	異常	パブリックネットワークIPは、滞納により外部のネットワークと通信できない場合があります。 料金センター に行って、できるだけ早くアカウントを請求・更新することをお勧めします。
パブリックネットワークIPがあるかどうか	インスタンスにはパブリックネットワークIPがあるかどうか	警告	インスタンスにはパブリックネットワークIPがありません。パブリックネットワークIPを使用して、パブリックネットワークにアクセスする必要がある場合、 ElasticパブリックネットワークIPコンソール へ進んで、EIPをバインディングできます。
パブリックネットワークIPがDDOSによってブロックされているかどうか	パブリックネットワークIPがDDOSによってブロックされているかどうか	異常	インスタンスのパブリックネットワークIPがDDOS攻撃によりブロックされている。
パブリックネットワーク帯域幅の使用率	インスタンスは過去12時間以内にパブリックネットワークのインバウンド帯域幅が高すぎるかどうか	警告	サービスのボトルネックにならないように、ネットワークの使用状況を確認することをお勧めします。トラブルシューティングについては、 帯域幅の使用率が高いため、ログインできない をご参照ください。
	インスタンスは過去12時間以内にパブリックネットワークのアウトバウンド帯域幅が高すぎるかどうか	警告	
プライベートネットワーク帯域幅の使用率	インスタンスは過去12時間以内にプライベートネットワークのインバウンド帯域幅が高すぎるかどうか	警告	
	インスタンスは過去12時間以内にプライベートネットワークのアウトバウンド帯域幅が高すぎるかどうか	警告	

	トバウンド帯域幅が高すぎるかどうか		
パケットロス	インスタンスは過去12時間以内にレート制限をトリガーして、TCPパケットロスを引き起こしたかどうか	警告	サービスのボトルネックにならないように、サービスの状態を確認することをお勧めします。詳細については、 CVMネットワークアクセスパケットロス をご参照ください。
	インスタンスは過去12時間以内にレート制限をトリガーして、UDPパケットロスを引き起こしたかどうか	警告	
	インスタンスは過去12時間以内にソフト割り込みをトリガーして、パケットロスを引き起こしたかどうか	警告	
カーネルネットワーク状態	インスタンスは過去12時間にUDP送信バッファがいっぱいになったかどうか	警告	
	インスタンスは過去12時間にUDP受信バッファがいっぱいになったかどうか	警告	
	インスタンスは過去12時間以内にTCPフル接続キューがいっぱいになったかどうか	警告	
	インスタンスは過去12時間以内にTCPリクエストのオーバーフローが発生したかどうか	警告	
接続数の使用状況	インスタンスは過去12時間以内に接続の上限に達したかどうか	警告	

関連する操作

[インスタンスセルフチェックの使用](#) を参照して、インスタンスチェック結果報告を生成するか、または過去のチェック報告を確認できます。

監視とアラーム

最終更新日：2022-05-07 16:03:45

モニタリングとアラートは、Cloud Virtual Machine（CVM）の高信頼性、高可用性および高性能を確保するために重要な役割を果たします。CVMを作成するとき、デフォルトでBasic Cloud Monitor（BCM）が無料で有効化になります。BCMを介してアラートを分析および実装し、マスター監視指標を取得することができます。

このドキュメントでは、CVMに提供するモニタリングとアラート機能の概要について説明します。詳細については、[BCM製品ドキュメント](#) をご参照ください。

概要

CVMのモニタリングとアラームは、CVMをリアルタイムに監視するための管理ツールです。モニタリングとアラーム機能は、最も完全で詳細なモニタリングデータを表示し、CVMから主要指標をリアルタイムで取得し、モニタリンググラフの形式で表示できます。CVMのリソース使用率、パフォーマンス、および運用状況を完全に理解するのに役立ちます。また、カスタマイズされたアラームしきい値の設定にも対応し、カスタマイズされたルールに基づいて通知を送信できます。

基本機能

コンソールは、CVMのモニタリングとアラームに以下の機能のエントリーを提供します：

モジュール	機能	主要機能
モニタリングの概要	BCMの概要	全体の概要、アラートの概要、モニタリング情報全般の一覧を提供します
アラートポリシー	ユーザーのカスタマイズされたアラートしきい値をサポートします	現在、CVMのアラート設定サービスをサポートします
CVMモニタリング	クラウド製品のモニタリングビューを確認します	現在のCVMモニタリングビュー
Dashboard	モニタリングデータのカスタマイズビューをサポートします	指標モニタリングデータをグラフ形式で集約し、指標の動的な分析を容易にします
カスタマイズモニタリング	ユーザーのカスタマイズされた監視指標データを確認します	ユーザーがあらかじめ定義したカスタマイズ監視指標と報告したデータです
トラフィックモニタリング	トラフィックを監視します	ユーザー全体の帯域幅情報を確認します

詳細については、[BCMの基本機能] (<https://www.tencentcloud.com/document/product/248/32799>) をご参照ください。

ユースケース

日常管理：BCMコンソールにログインして、各BCMの動作状態を表示します。

異常状況のタイムリーな処理：モニタリングデータがアラームしきい値に達するとき、アラーム情報が送信されるため、異常通知をタイムリーに受信して、異常原因の照会に役立ちます。

タイムリーな容量拡張：帯域幅、接続数、ディスク使用率などの監視項目にアラームルールを設定すると、クラウドサービスの現在の状況を簡単に確認できます。サービスの使用量が増加した場合に、アラーム通知をタイムリーに受信して、容量を拡張することができます。

監視内容

インスタンスのパフォーマンスベンチマークを監視するには、少なくとも次のことを監視してください。[CVMコンソール](#)へ進み、インスタンスの詳細ページから関連する監視情報を取得することができます。

監視項目	監視指標	説明
CPU利用率	cpu_usage	CPU利用率は、サーバーの内部モニタリングコンポーネントを介して収集および報告され、データはより正確になります。
メモリ利用率	mem_usage	バッファとシステムキャッシュによって占有されているメモリを除いた総メモリに対する、ユーザーの実際に使用しているメモリ量の比率。
プライベートネットワークのアウトバウンド帯域幅	lan_outtraffic	プライベートネットワークENIの1秒あたりの平均アウトバウンドトラフィック。
プライベートネットワークのインバウンド帯域幅	lan_intraffic	プライベートネットワークENIの1秒あたりの平均インバウンドトラフィック。
パブリックネットワークのアウトバウンド帯域幅	wan_outtraffic	パブリックネットワークの1秒あたりの平均アウトバウンドトラフィック、最小粒度データは10秒で、総トラフィック/10秒から計算されます。
パブリックネットワークのインバウンド帯域幅	wan_intraffic	パブリックネットワークの1秒あたりの平均インバウンドトラフィックです。

ディスク使用率	disk_usage	ディスクの使用率です。
ディスクI/O待機時間	disk_io_await	1回の操作あたりのハードディスクI/Oの平均待機時間です。

モニタリングデータ

モニタリング間隔：現在のBCMは、1分間、5分間、1時間、1日間などさまざまなモニタリングデータの統計粒度を提供します。CVMは1分間の監視粒度をサポートします。すなわち、1分間ごとにデータを統計します。デフォルトの間隔は5分間です。

データ保存：1分間、5分間、1時間粒度のモニタリングデータは31日間保存され、1日間粒度のモニタリングデータは半年間保存されます。

アラーム表示：データは読みやすいグラフ形式で表示されます。コンソールはすべての製品の監視データを統合します。これは、ユーザーが全体的な運用状況を取得するのに役立ちます。

アラート設定：監視指標のしきい値を設定し、条件に達した時点で当該グループにアラート情報を送信することができます。詳細については、[アラートポリシーの作成](#)をご参照ください。

Dashboard設定：指標を監視するためのDashboardを設定し、Dashboardを通じて指標異常の原因を動的に分析することが可能です。また、指標の変化をリアルタイムに観察し、タイムリーなリソース拡張を行うことができます。詳細については、[Dashboardの新規作成](#)をご参照ください。

Access Management

Cloud Access Managementの概要

最終更新日：：2020-04-26 18:24:43

Tencent CloudでCloud Virtual Machine（CVM）、Virtual Private Cloud、クラウドデータベースなどのサービスをご使用されている場合、これらのサービスは異なる管理者によって管理されますが、すべてご利用のクラウドアカウントのキーを共有するため、次の問題が発生する可能性があります。

ご利用のキーは複数のユーザーによって共有されているため、漏えいのリスクが高くなります。

他のユーザーのアクセス権限を制限することはできませんので、誤操作によりセキュリティリスクが発生する可能性があります。

この場合、サブアカウントを割り当てすることにより、異なるサービスを異なる管理者に管理させることで、上記の問題を対処できます。デフォルトでは、サブアカウントにはCVMの権限またはCVM関連リソースにアクセスする権限がありません。従って、サブアカウントが必要なリソースまたは権限をアクセスできるようにする適切なポリシーを作成する必要があります。

Cloud Access Management（CAM）は、Tencent Cloudが提供するWebサービスであり、主にお客様がTencent Cloudアカウントのリソースへのアクセス権限を安全に管理するのに役立ちます。CAMを使用すると、ユーザ（グループ）を作成、管理、および廃棄でき、ID管理とポリシー管理を介して、Tencent Cloudリソースへのアクセスと使用を許可するユーザーを制御できます。

CAMを使用する場合、1つのユーザーまたはユーザーグループにポリシーを関連付けることができます。ポリシーによって特定リソースの特定タスクを実行するユーザーの権限が許可または拒否されます。CAMポリシーの基本情報については、[ポリシー構文](#)をご参照ください。CAMポリシーの使用の詳細については、[ポリシー](#)をご参照ください。

サブアカウントのCVM関連リソースへのアクセス許可を管理する必要がある場合は、このセクションをスキップできます。この部分をスキップし、ドキュメントの残りの内容の理解と利用には影響しません。

入門

CAMポリシーは、1つ以上のCVM操作の実行を許可または拒否する必要があります。また、操作に利用できるリソース（すべてのリソースか、特定の操作の特定のリソース）を指定する必要もあります。ポリシーにはリソース操作に設定された条件も含めることができます。

一部のCVM API操作はリソースレベルの権限をサポートします。つまり、そのようなAPI操作を使用する時に特定のリソースを指定して使用することができなく、すべてのリソースを指定して使用する必要があります。

タスク	リンク
ポリシーの基本的な構造の詳細	ポリシー構文
ポリシーで操作を定義する	CVMの操作
ポリシーでリソースを定義する	CVMのリソースパス

条件でポリシーを制限する	CVMの条件キー
CVMがサポートするリソースレベルの権限	CVMがサポートするリソースレベルの権限
コンソール例	コンソール例

授權可能なのリソースタイプ

最終更新日：2020-09-17 10:23:24

リソースレベル権限とは、ユーザーがどのリソースを操作できるかを指定する機能のことです。CVMはリソースレベル権限を部分的にサポートしています。つまり、リソースレベル権限をサポートするCVM操作に対して、いつ操作を実行することを許可するかまたは特定のリソースを利用できるかを制御します。

Cloud Access Management (CAM) で、操作権限を許可できるリソースの種類は以下の通り：

リソース種類	許可ポリシーのリソース記述方法
CVMインスタンス関連	<code>qcs::cvm:\$region::instance/*</code>
CVMキー関連	<code>qcs::cvm:\$region::keypair/*</code>
CVMイメージ関連	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:image/*</code>
セキュリティグループ関連	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/*</code>

現在リソースレベル権限をサポートするCVM API操作及び各操作がサポートするリソースと条件キーを説明します。リソースパスを設定する時、`$region`、`$account` 等の変数パラメータを実際のパラメータ情報に修正する必要があり、同時にパスの中にワイルドカード*を利用できます。

説明：

表にリストされていないCVM API操作とは、このAPIがリソースレベル権限をサポートしていないことを示します。リソースレベル権限をサポートしていないCVM API操作に対して、ユーザーにこの操作を利用する権限を許可できますが、ポリシーステートメントのリソース要素を*に指定する必要があります。

CVMインスタンス関連

API 操作	リソースパス
<code>DescribeInstanceInternetBandwidthConfigs</code>	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$InstanceId</code>
<code>ModifyInstanceInternetChargeType</code>	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$InstanceId</code>
<code>ModifyInstancesAttribute</code>	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$InstanceId</code>
<code>ModifyInstancesProject</code>	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code>

	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
ModifyInstancesRenewFlag	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
RebootInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
RenewInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
ResetInstance	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:image/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:systemdisk/*</code>
ResetInstancesInternetMaxBandwidth	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
ResetInstancesPassword	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
ResetInstancesType	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
ResizeInstanceDisks	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
RunInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:image/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId</code>

	<code>qcs::vpc:\$region:\$account:subnet/*</code> <code>qcs::vpc:\$region:\$account:subnet/\$subnetId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:systemdisk/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:datadisk/*</code> <code>qcs::vpc:\$region:\$account:vpc/*</code> <code>qcs::vpc:\$region:\$account:vpc/\$vpcId</code>
StartInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
StopInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>
TerminateInstances	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code>

CVM キー関連

API 操作	リソースパス	条件キー
AssociateInstancesKeyPairs	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code>	-
CreateKeyPair	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code>	-
DeleteKeyPairs	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code>	-
DescribeKeyPairs	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code>	-
DescribeKeyPairsAttribute	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code>	-
DisassociateInstancesKeyPairs	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId</code>	-
ImportKeyPair	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/*</code>	-

ModifyKeyPairAttribute	qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/* qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId	-
------------------------	--	---

CVMイメージ関連

API 操作	リソースパス	条件キー
CreateImage	qcs::cvm:\$region:\$account:instance/* qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId qcs::cvm:\$region:\$account:image/*	cvm:req
DeleteImages	qcs::cvm:\$region:\$account:image/* qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId	cvm:req
DescribeImages	qcs::cvm:\$region:\$account:image/*	cvm:req
DescribeImagesAttribute	qcs::cvm:\$region:\$account:image/* qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId	cvm:req
DescribeImageSharePermission	qcs::cvm:\$region:\$account:image/*	cvm:req
ModifyImageAttribute	qcs::cvm:\$region:\$account:image/* qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId	cvm:req
ModifyImageSharePermission	qcs::cvm:\$region:\$account:image/* qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId	cvm:req
SyncImages	qcs::cvm:\$region:\$account:image/* qcs::cvm:\$region:\$account:image/\$imageId	cvm:req

セキュリティグループ関連

API 操作	リソースパス	条件キー
ModifySecurityGroupPolicys	qcs::cvm:\$region:\$account:sg/* qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId	cvm:projectId cvm:region
ModifySingleSecurityGroupPolicy	qcs::cvm:\$region:\$account:sg/* qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId	cvm:projectId cvm:region
CreateSecurityGroupPolicy	qcs::cvm:\$region:\$account:sg/* qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId	cvm:projectId cvm:region
ModifySecurityGroupAttributes	qcs::cvm:\$region:\$account:sg/* qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId	cvm:projectId cvm:region

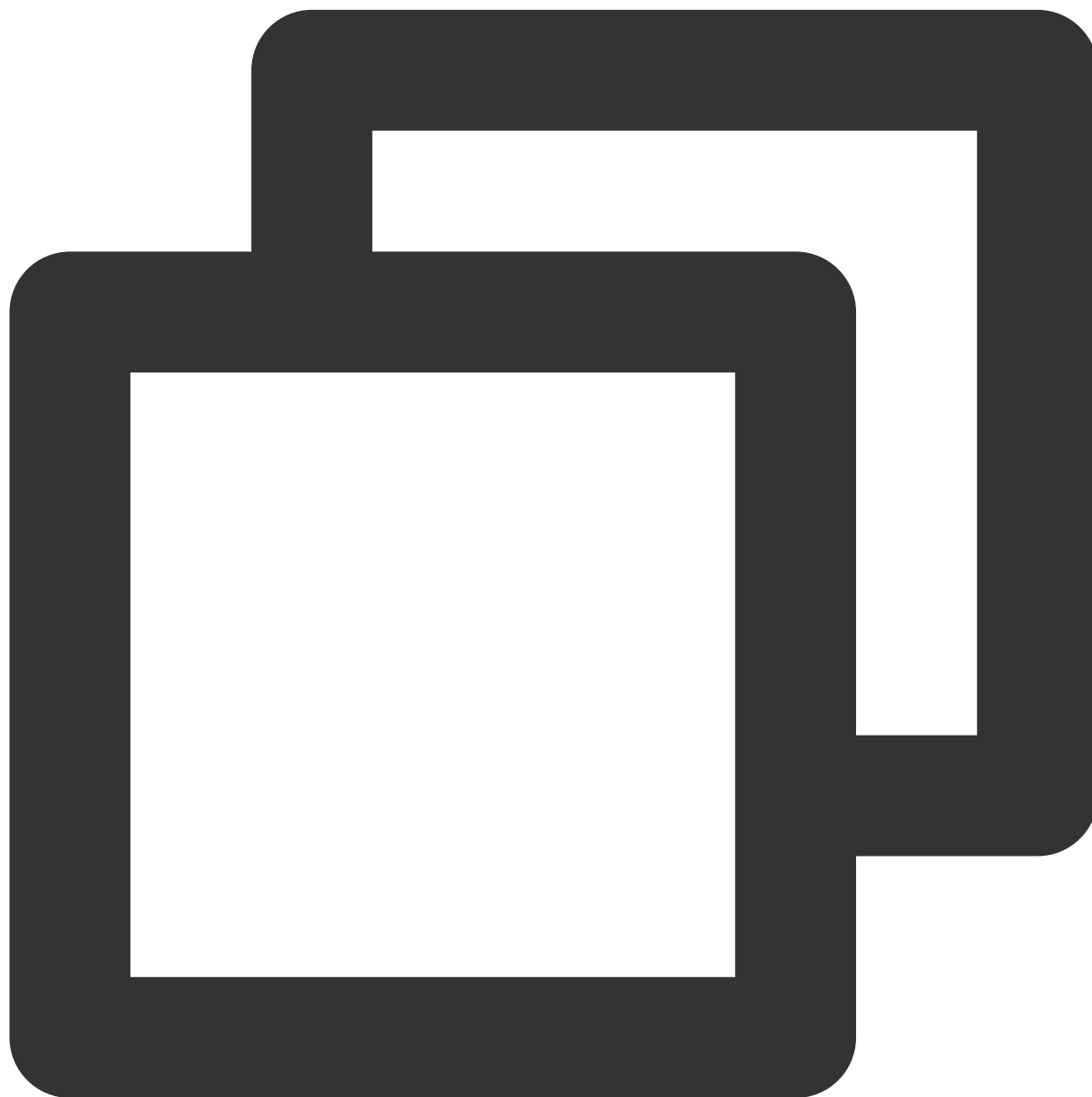
DeleteSecurityGroup	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId</code>	<code>cvm:projectId</code> <code>cvm:region</code>
DeleteSecurityGroupPolicy	<code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/*</code> <code>qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId</code>	<code>cvm:projectId</code> <code>cvm:region</code>

授權ポリシーの文法

最終更新日：：2023-02-16 10:11:26

ポリシー文法

CAMポリシー：



```
{  
  "version": "2.0",  
  "statement":
```

```
[
  {
    "effect": "effect",
    "action": ["action"],
    "resource": ["resource"],
    "condition": {"key": {"value"}}
  }
]
```

バージョンversionは記入必須項目であり、現時点で数値が"2.0"であることのみを認めています。

ステートメント statement は一つか複数の権限の詳細情報を説明することに使われています。当該要素は **effect**、**action**、**resource**、**condition** 等幾つかのほかの要素の権限又は権限の集合を含んでいます。一つのポリシーには一つのstatement 要素しかありません。

1.1 操作actionは許可する又は拒否する操作を説明することに使われています。操作は **API**（**name**プリフィックスで説明する）又は機能セット（特定**API**セットであり、**permit**プリフィックスで説明する）であってよいです。当該要素は記入必須項目です。

1.2 リソースresource は授權するの具体的なデータを説明することに使われています。リソースは6段階式で説明されます。各製品のリソース定義の詳細は異なっています。リソースの指定方法については、作成したリソース宣言に対応する製品ドキュメントをご参照ください。当該要素は記入必須項目です。

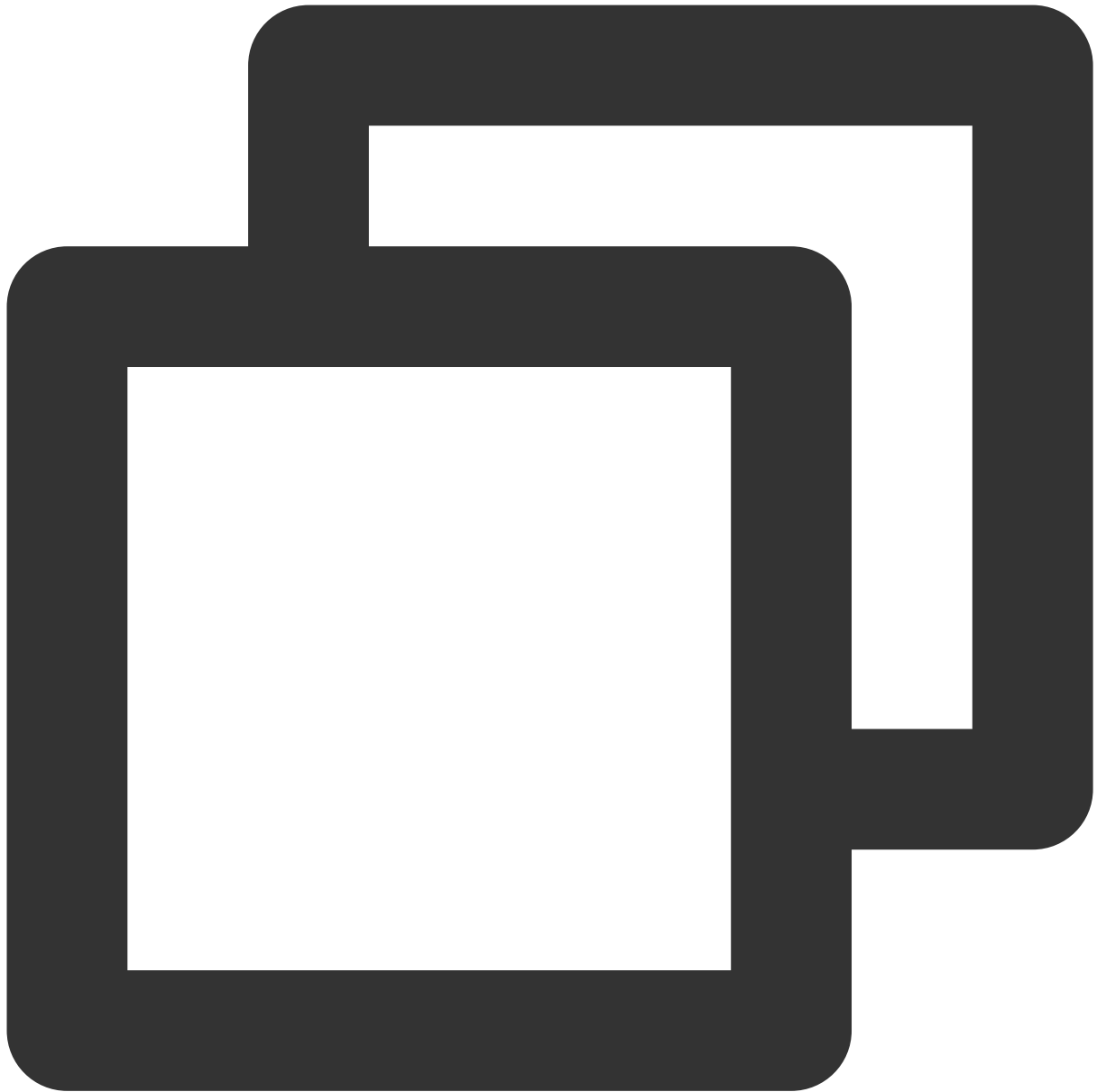
1.3 発効条件condition はポリシー発効の制約条件を説明しています。条件はオペレーター、操作キーと操作値から構成されています。条件値は時間、IPアドレス等の情報を含んでいます。一部のサービスは、条件に対しほかの値を指定することを認めています。当該要素は記入必須項目ではありません。

1.4 影響effect は宣言による結果が「許可」であるか「明示的な拒否」であるかを説明しています。それに**allow** (許可)と**deny** (明示的な拒否)という2種類が含まれています。当該要素は記入必須項目です。

CVMの操作

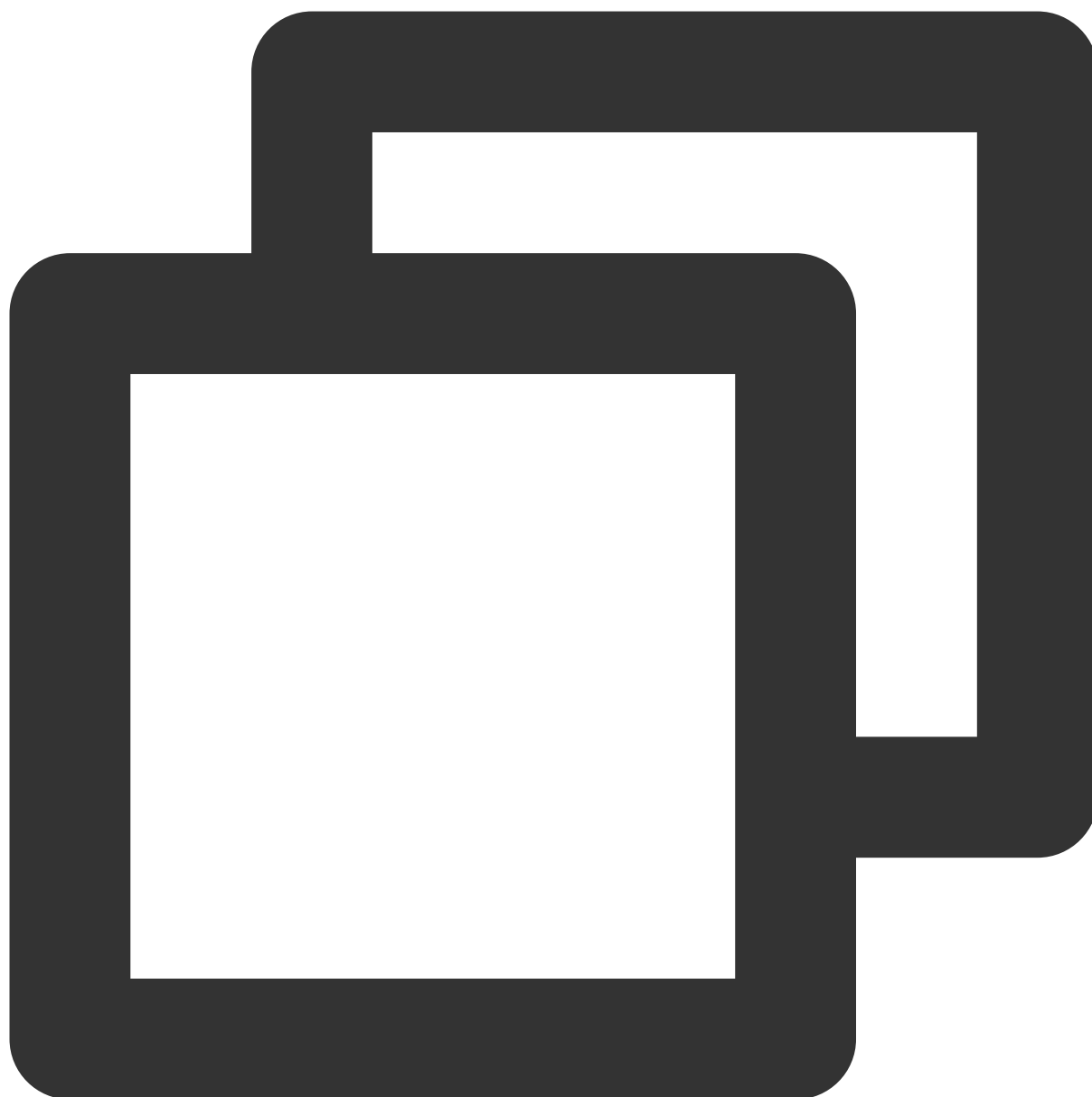
CAポリシーステートメントでは、顧客は**CAM**対応のいかなるサービスから任意の**API**操作を指定することができます。CVMに対しては、**name/cvm:**をプレフィックスとする**API**を利用してください。例えば **name/cvm:RunInstances** 又は **name/cvm:ResetInstancesPassword**です。

一つのステートメントで複数の操作を指定したい場合は、コンマで区切ってください。下記の通りです。



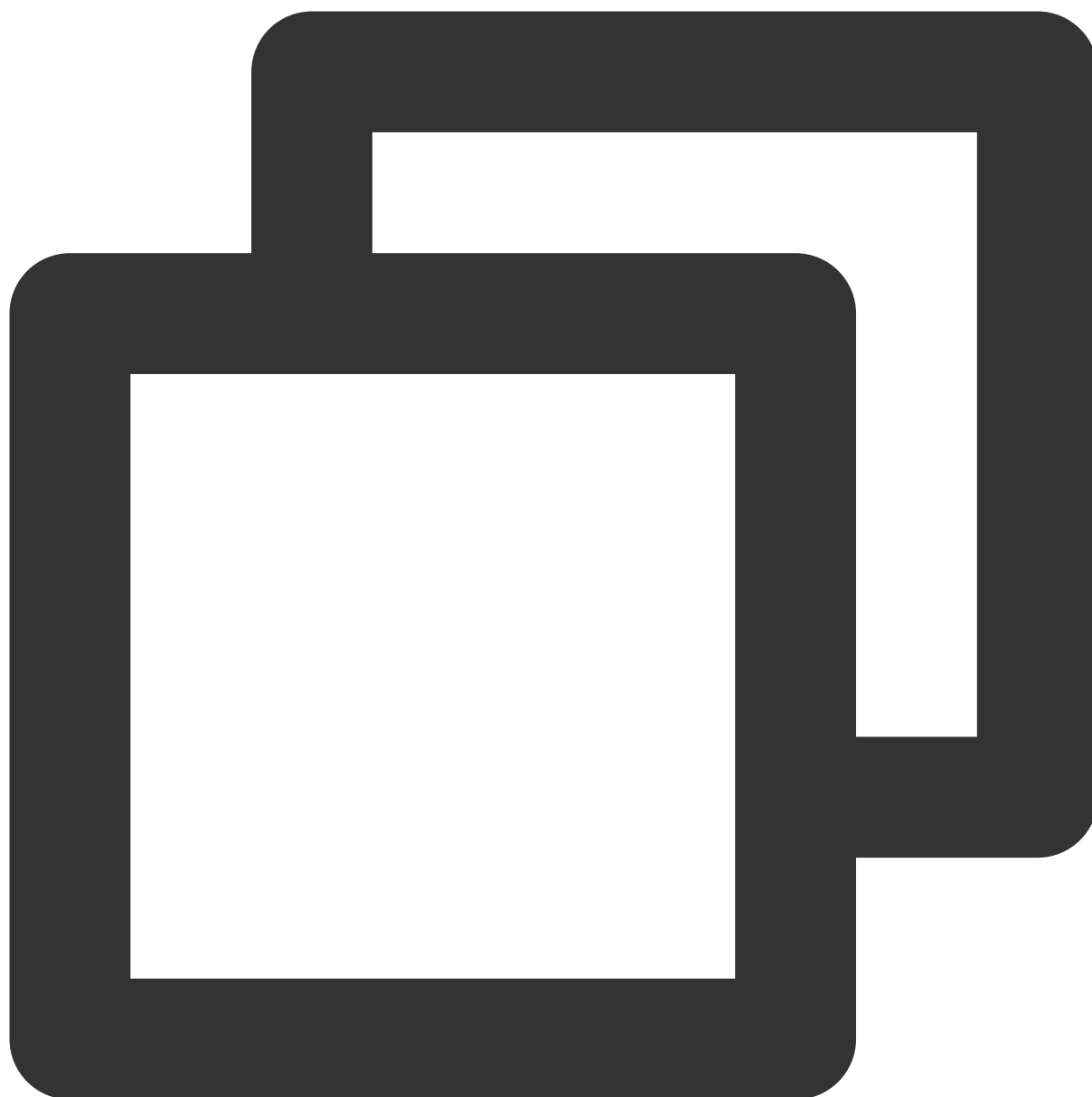
```
"action":["name/cvm:action1","name/cvm:action2"]
```

ワイルドカードで複数の操作を指定することも可能です。例えば、先頭が単語 **Describe** であるすべての操作を指定することが可能です、下記の通りです。



```
"action":["name/cvm:Describe*"]
```

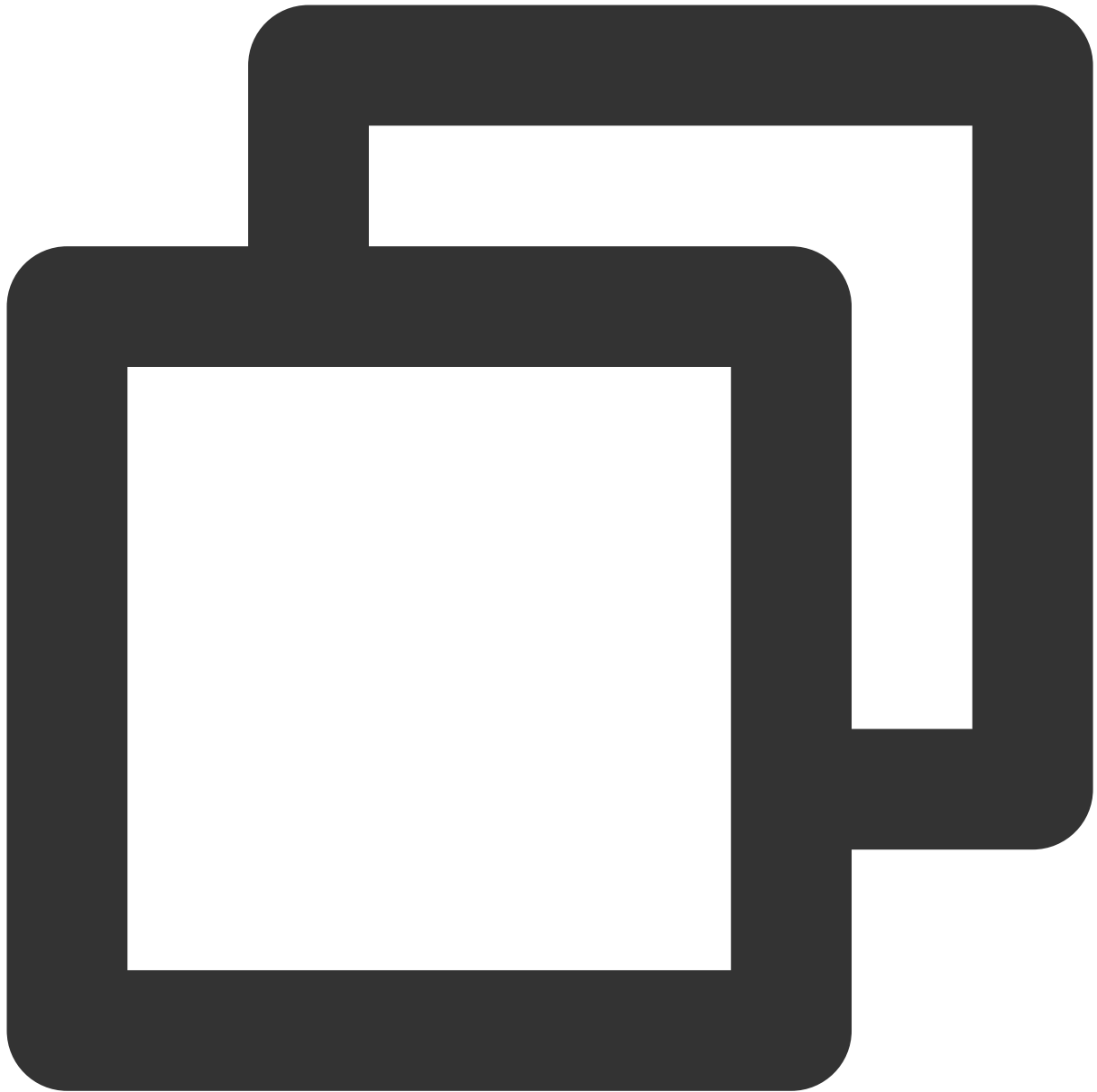
CVMにおけるすべての操作を指定したい場合は、* ワイルドカードを使用してください。下記の通りです。



```
"action": ["name/cvm:*"]
```

CVMのリソースパス

各CAMポリシーステートメントは自身に適用されるリソースがあります。
リソースパスの一般的な形式は次のとおりです。



```
qcs:project_id:service_type:region:account:resource
```

project_id：プロジェクト情報を説明します。CAMの早期ロジックをコンパチブルするためなものだけです。記入する必要がありません。

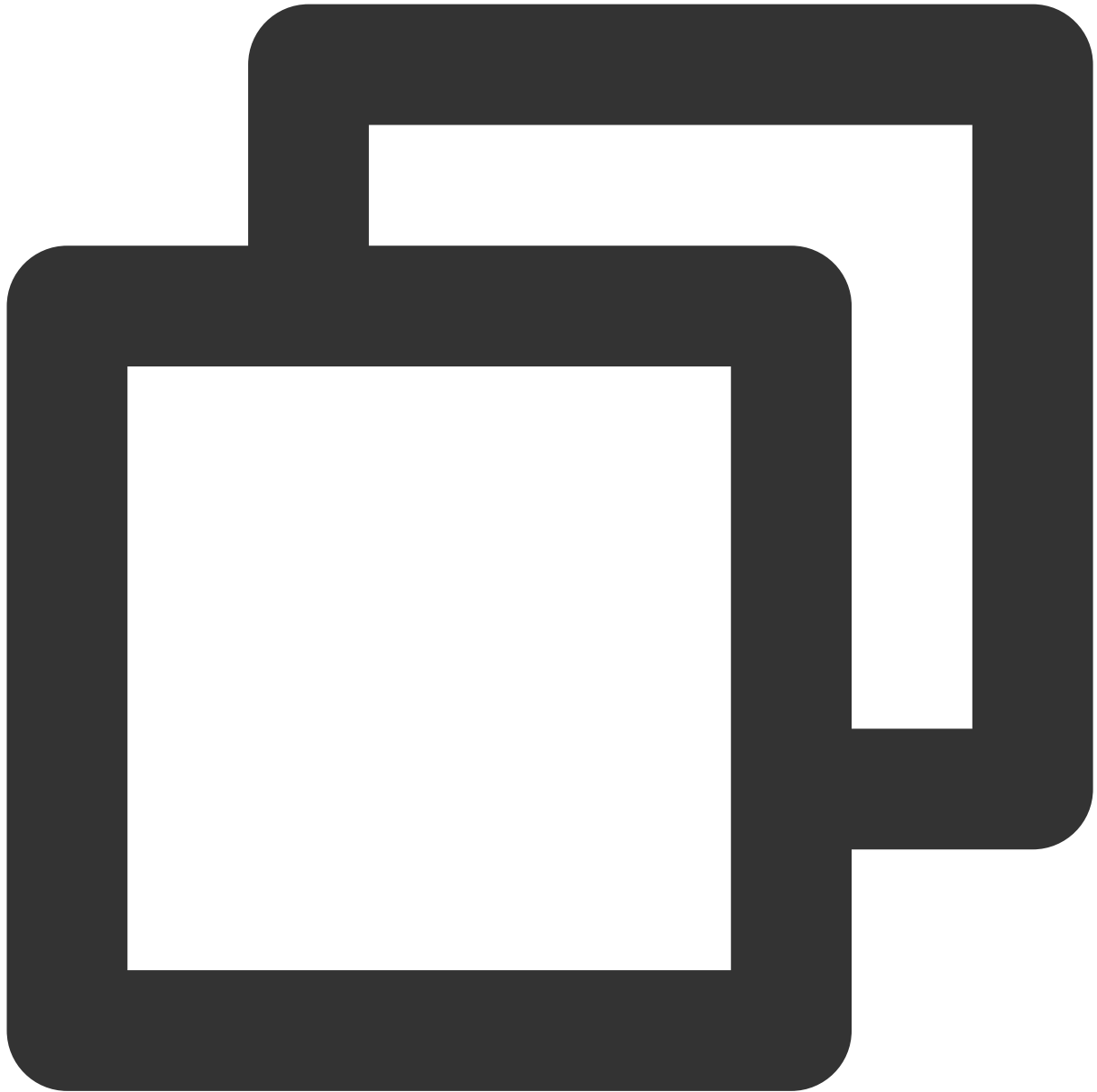
service_type：製品の略称です、例えば CVMです。

region：リージョン情報です、例えば bjです。

account：リソース所有者のルートアカウント情報です、例えばuin/164256472です。

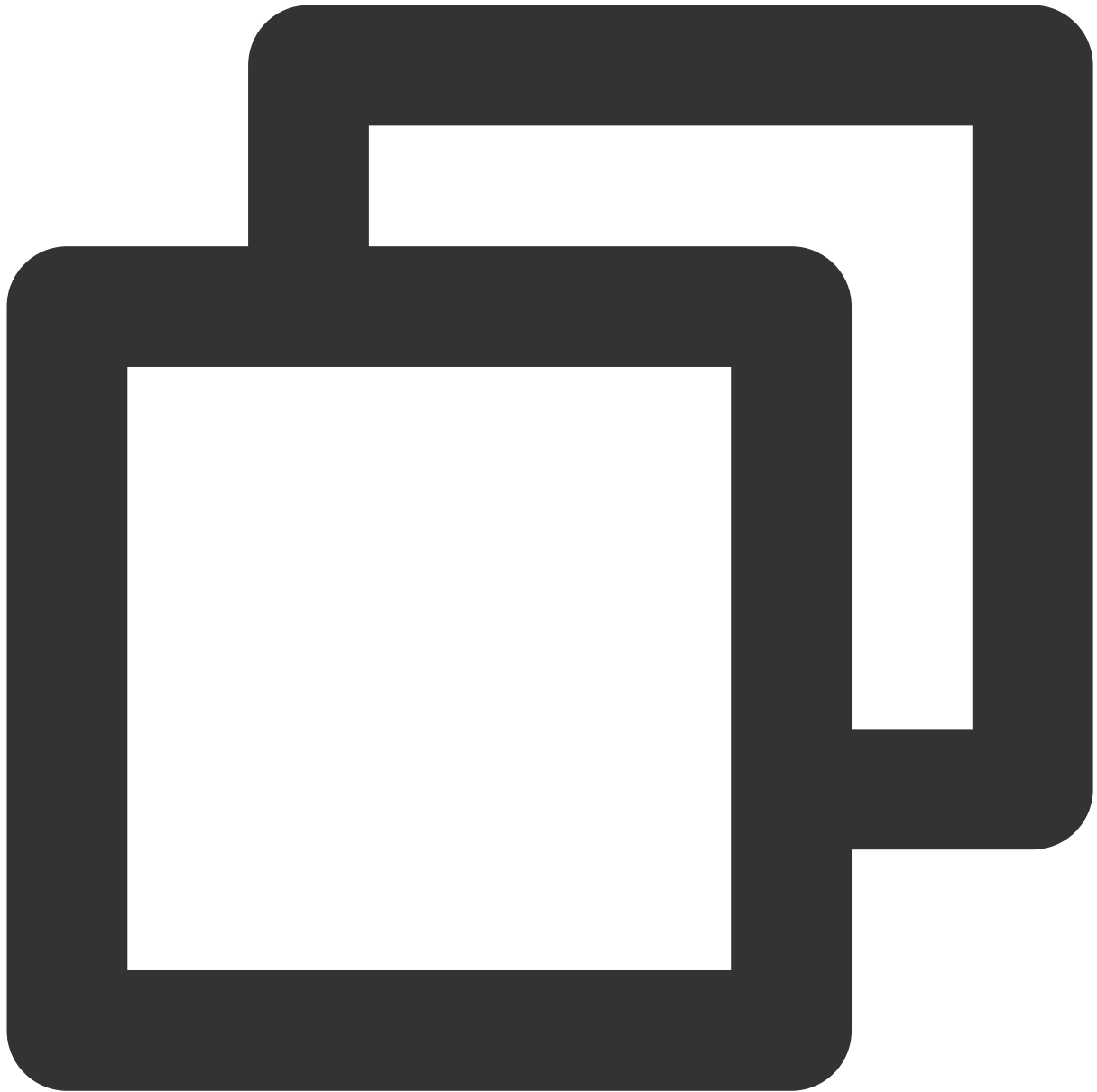
resource：各製品の具体的なリソース詳細です。例えばinstance/instance_id1 又は instance/*です。

例えば、顧客は特定インスタンス (i-15931881scv4) を使用してステートメントでそれを指定することができます。下記の通りです。



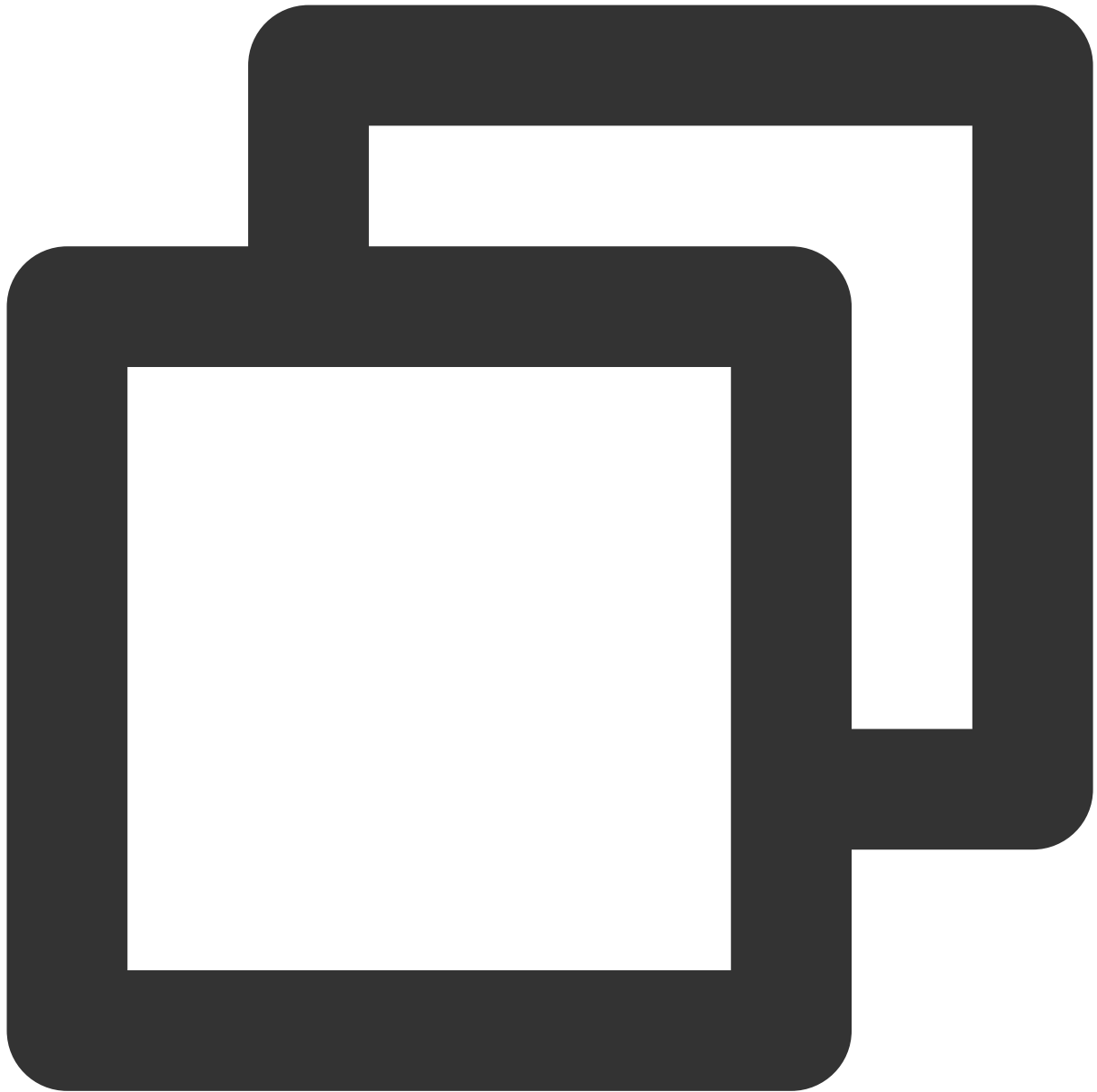
```
"resource": [ "qcs::cvm:bj:uin/164256472:instance/i-15931881scv4"]
```

ワイルドカードで特定アカウントのすべてのインスタンスを指定することができます。下記の通りです。



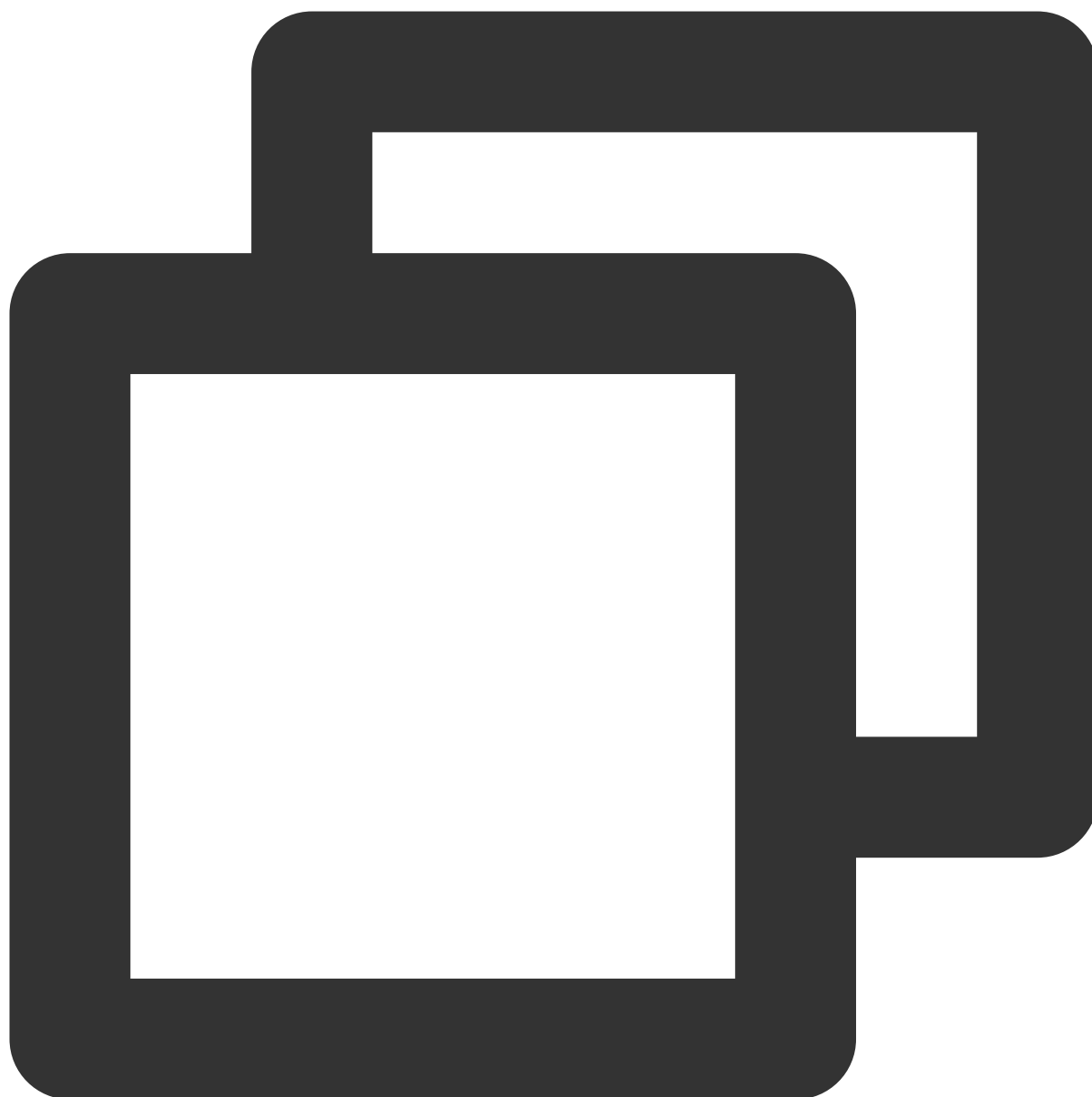
```
"resource": [ "qcs::cvm:bj:uin/164256472:instance/*"]
```

すべてのリソースを指定したい場合、或いは特定のAPI操作がリソースレベルの権限をサポートしていない場合、**Resource** 要素の中で* ワイルドカードを使ってください。下記の通りです。



```
"resource": ["*"]
```

一つのコマンドで複数のリソースを同時に指定したい場合は、コンマでそれらを区切ってください。下記は二つのリソースを指定する例です。



```
"resource":["resource1","resource2"]
```

下表にはCVMの利用可能なリソース及び対応するリソースの説明方法が示されています。

下表においては、\$をプレフィックスとする単語はエイリアスです。

その中に、projectはプロジェクトIDを指しています。

その中に、regionはリージョンを指しています。

その中に、accountはアカウントIDを指しています。

リソース	授權ポリシーにおけるリソースの説明方法

インスタンス	qcs::cvm:\$region:\$account:instance/\$instanceId
キー	qcs::cvm:\$region:\$account:keypair/\$keyId
VPC	qcs::vpc:\$region:\$account:vpc/\$vpcId
サブネット	qcs::vpc:\$region:\$account:subnet/\$subnetId
システムディスク	qcs::cvm:\$region:\$account:systemdisk/*
イメージ	qcs::cvm:\$region:\$account:image/*
データディスク	qcs::cvm:\$region:\$account:datadisk/*
セキュリティグループ	qcs::cvm:\$region:\$account:sg/\$sgId
EIP	qcs::cvm:\$region:\$account:eip/*

CVMの条件キー

ポリシーステートメントでは、ポリシーの発効時間を制御する条件を選択的に指定することができます。各条件には一つか複数のキー値ペアが含まれています。条件キーは大文字・小文字の区別をしません。

顧客は複数の条件、或いは単一の条件で複数のキーを指定する場合は、**AND**ロジック操作によりそれを評価します。

単一の条件で複数の値を持つキーを指定する場合は、**OR**ロジック操作によりそれを評価します。すべての条件にマッチングした場合にのみ、権限を与えます。

下表にはCVMが指定のサービスに使われる条件キーを説明しています。

条件キー	参照タイプ	キー/値ペア
cvm:instance_type	String	cvm:instance_type= instance_type その中に instance_type はインスタンスタイプを指しています（例えば S1.SMALL1）。
cvm:image_type	String	cvm:image_type= image_type その中に image_type はイメージタイプを指しています（例えば IMAGE_PUBLIC）
vpc:region	String	vpc:region= region その中に region はリージョンを指しています（例えば ap-guangzhou）
cvm:disk_size	Integer	cvm:disk_size= disk_size その中に disk_size はディスクサイズを指しています（例えば500）

cvm:disk_type	String	cvm_disk_type= disk_type その中に disk_type はディスクタイプを指しています（例えば CLOUD_BASIC）
cvm:region	String	cvm:region= region その中に region はリージョンを指しています（例えば ap-guangzhou）

アクセス管理をサポートするAPIインターフェース

最終更新日：：2022-09-01 17:36:37

基本情報

CAM中国製品名	CAM中国語略称	権限の粒度
CVM	cvm	リソースレベル

説明：

クラウド製品の権限の粒度は粒度の細かさに応じてサービスレベル、操作レベル、リソースレベルの3つのレベルに分かれます。

サービスレベル：サービス全体にアクセス権限があるかどうかを定義し、サービスに対する完全な操作権限を許可するかサービスに対する完全な操作権限を拒否するかに分かれます。サービスレベル権限の粒度を持つクラウド製品は、特定のインターフェースに対する認証をサポートしていません。

操作レベル：サービスに対する特定のインターフェース（API）がアクセス権限を持っているかどうかを定義します。例：あるアカウントのCVMサービスに読み取り専用操作を行うことを承認します。

リソースレベル：特定のリソースにアクセス権限があるかどうかを定義します。これは最も細かい権限の粒度です。例：あるアカウントがあるCVMインスタンスにのみ読み書き操作することを承認します。リソースレベルのインターフェースの承認をサポートできる製品は、リソースレベル権限の粒度として認定されます。

インターフェース権限の粒度

リソースレベルのインターフェース：このタイプのインターフェースはある特定のリソースに対する権限承認をサポートしています。

操作レベルインターフェース：このタイプのインターフェースはある特定のリソースに対する権限承認をサポートしていません。

リソースレベルのインターフェースは認証時に、クラウド製品が特定のリソースを6段階でCAM認証に送信するため、ある特定のリソースに対する承認と認証をサポートします。

操作レベルのインターフェースは認証時に、クラウド製品が特定のリソースを6段階でCAM認証に送信せず、任意のリソース * のみに渡します。そのため認証時のポリシー構文が特定のリソースで定義されている場合、認証時にこのインターフェースはこのリソースを渡さず、CAMはこのインターフェースが権限承認範囲に存在しないと判断し、権限なしと判断します。